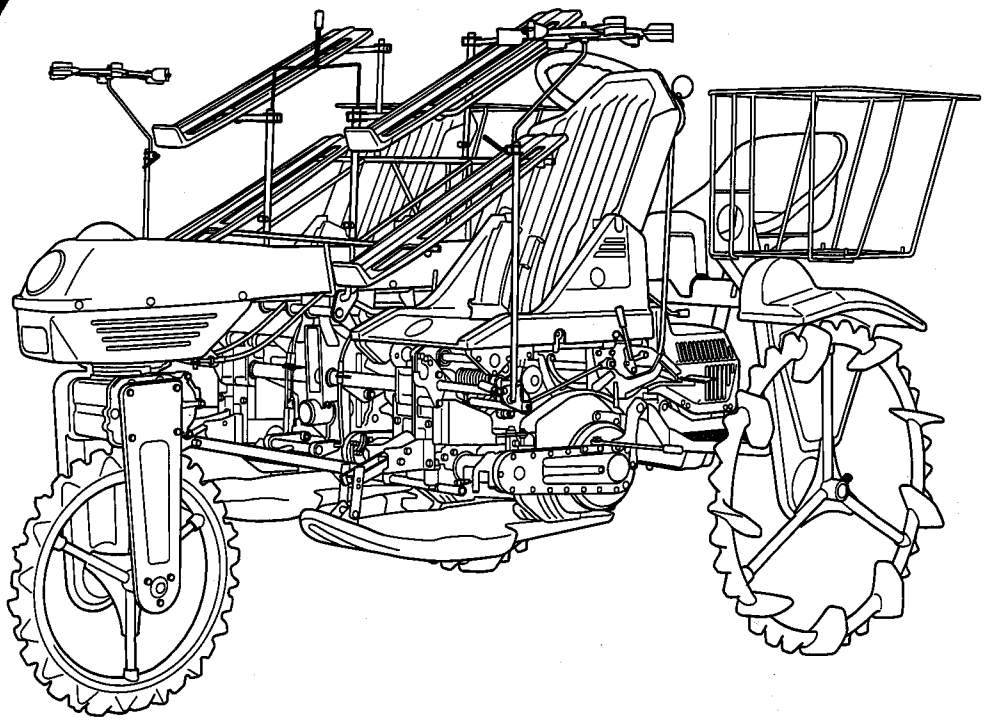
使用する前に必ずよく読んで正しく使いましょう

共立 ポット成苗田植機

RS-41〔乗用型〕

取扱説明書



株式会社やまびこ

田植機重要安全ポイント

1.ほ場まで移動するときは、トラック等にのせて 運搬します。

2.燃料を補給するときは、 火気厳禁 とします。
エンジンを停止 し、冷機状態で行ないます。

3.エンジンを始動するときは、
主クラッチレバーを「エンジン始動位置」・主変速レバーを「中立」で行ないます。
周囲の安全を確認 してから行ないます。

4.トラックへ積み・降ろしするときは、
乗って前進で、積み込みしません。
強度・幅・長さの充分あるスリップしないアユミ板 を使用します。
スピードを落としアユミ板に直角に上がり・下がり します。
上がり・下がりの途中で主クラッチ・サイドクラッチペダルは踏みません。

5.ほ場へ出入りするときは、
乗って前進で、ほ場から上がりません。
スピードを落としあぜに直角 に移動します。
上がり・下がりの途中で主クラッチ・サイドクラッチペダルは踏みません。

6.田植機を点検整備するときは、 必ず安全な場所で
エンジンを止め、植付部をフックで固定します。

7.補助者と共同作業を行なうときは、 合図をし安全を確認 します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは
上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい
事項を⚠を付けて説明しております。
よくお読みいただいて、必ず守っていただくようお願いいたします。

はじめに

●このたびは、本田植機をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。

●この田植機は、水稲の田植えをするためのものであって、他の用途に使用しないでください。

●この取扱説明書は、田植機を使用する際にぜひ、守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、田植機を適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。

●田植機を初めて運転される時はもちろん、日頃の運転・取り扱いの前にも初心に立ち返り入念に読み、充分理解され安全・確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。

●田植機を貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を充分理解していただき、この取扱説明書を田植機にそえてお渡しください。

●この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買いあげいただいた、販売店・農協（JA）にご注文ください。

●なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。
その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本田植機と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

●もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買いあげいただいた、販売店・農協（JA）にご相談ください。

●取扱説明書の中の⚠重要 表示は、下記のように安全上、取り扱い上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

表　示	重　要　度
⚠危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
⚠警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。 よく読んで商品の性能を最大限発揮してご使用ください。

目　次

安全のポイント …… 1

非特殊自動車としての取り扱い …… 1
安全な作業をするために …… 1
安全表示ラベルについて …… 7

使用上のポイント …… 9

保証とサービスについて …… 13

各部の名称とはたらき …… 14

各部の名称 …… 14
スイッチのはたらき …… 16
レバー・ペダル・シートの取り扱い …… 16

作業前点検 …… 23

給油・注油箇所の点検と補給 …… 23
ペダル・レバーの点検 …… 26

運転のしかた …… 27

エンジンの始動と停止のしかた …… 27
発進・停止・駐車のしかた …… 29
移動・運搬のしかた …… 31
ほ場への出入りのしかた …… 34

作業のしかた …… 35

ほ場と苗の準備 …… 35
　ほ場の準備 …… 35
　無代掻き田植えのできるほ場 …… 35
　苗の準備 …… 36
植付作業前の準備 …… 38
　植付株間の決めかた …… 38
　替ギヤーの交換・切替ピンの切り替えかた …… 39
　植付深さの調節のしかた …… 39
　空箱入れの取り付け …… 40
　苗支持板の調節のしかた …… 40

植付作業の手順……41
油圧感度調節のしかた……43
フロート姿勢の調節……43
ほ場での植えかた……44
旋回のしかた……44
筋付マーカーの使いかた……44
苗の補給のしかた……45
植えじまいのしかた……46
残り苗の取り出しかた……47
植付部の水洗いのしかた……48
安全クラッチが作動したとき……49
湿田での脱出のしかた……49
点検整備……50
定期的な点検整備……50
点検整備一覧表……50
エアークリーナーの清掃……51
燃料カップの清掃……51
燃料ホースの点検・交換……51
点火プラグの清掃……52
植付ミッションオイルの給油……52
トランスミッションオイルの給油……53
長期格納時の手入れ……54
不調時の処置……55
農作業を安全に行なうために……57
サービス資料……60
主要諸元……60
標準付属品……61
主な消耗部品一覧表……62
注文部品の紹介……64
索引……66

安全のポイント

本章では、田植機を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。充分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

非特殊自動車としての取り扱い

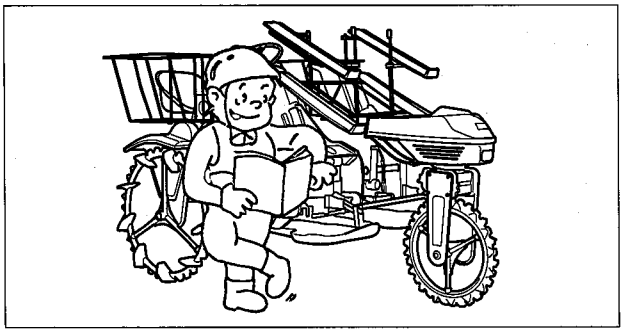
この田植機は、小型特殊自動車（農耕作業用自動車）として道路走行車輌の型式認定を受けておりません。従って、一般道路を走行することは違法行為になります。
移動する場合は、トラックなどにのせて運搬してください。

安全な作業をするために

■運転者の条件

(1) はじめに

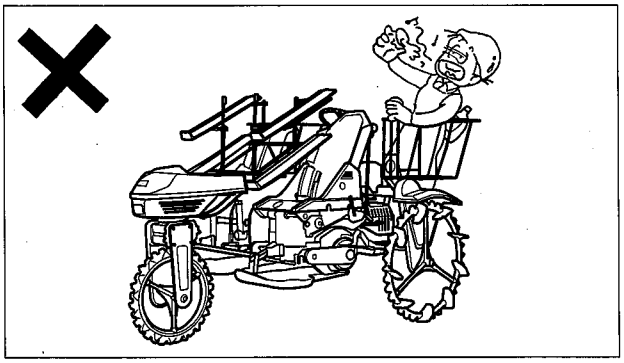
この『取扱説明書』をよく読むことから始めてください。これが安全に快適に作業をするための第1歩です。



(2) 体調について

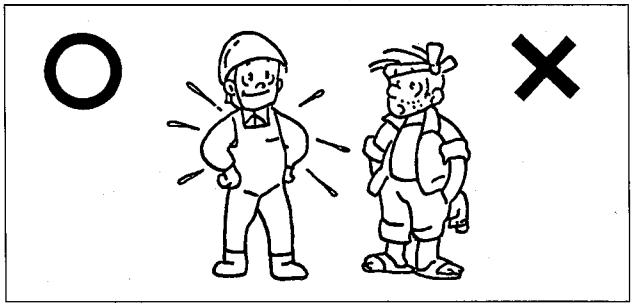
①飲酒時や過労ぎみの時は作業をしてはいけません。このような時作業を行なうと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。作業する時は、必ず心身とも健康な状態で行なってください。

②妊娠している人・18才未満の人は運転しないでください。



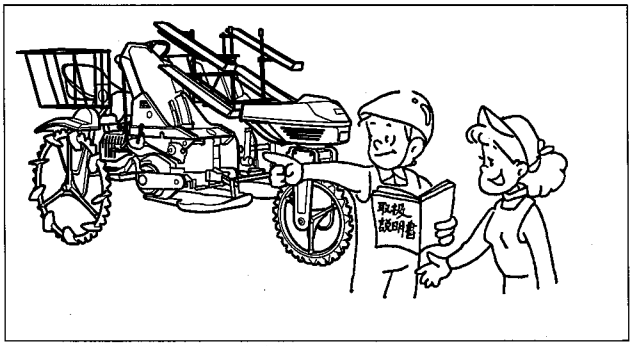
(3) 服装について

作業する時は、作業に合わせた服装をしてください。服装が悪いと、衣服が回転部に巻き込まれたりして大変危険です。また、はだしでの作業は絶対にしないでください。田植長靴かたびで作業してください。怠ると足をケガする恐れがあり危険です。ヘルメットや適正な保護具も着用してください。



■人に機械を貸す時は

田植機を人に貸す時は、取り扱いの方法をよく説明し使用前に取扱説明書を熟読するように指導してください。借りた人が田植機の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



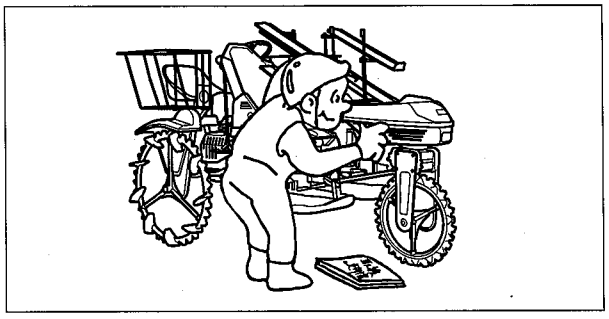
■作業を開始する前に

(1) 無理のない作業計画で

無理のないゆとりある作業計画を立てましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。

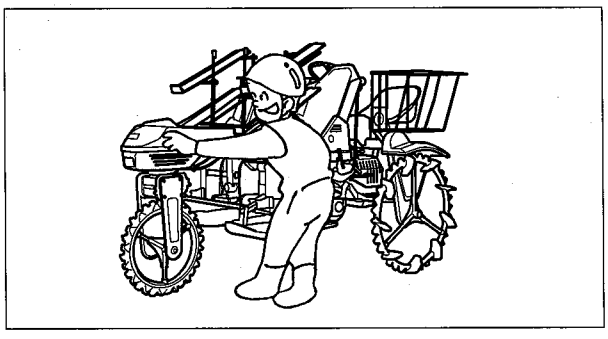
(2) 日常点検について

作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検・注油は必ず行なってください。
特にブレーキおよび主クラッチ関係は忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったりクラッチが切れなかったりして走行中や作業中の思わぬ事故につながります。



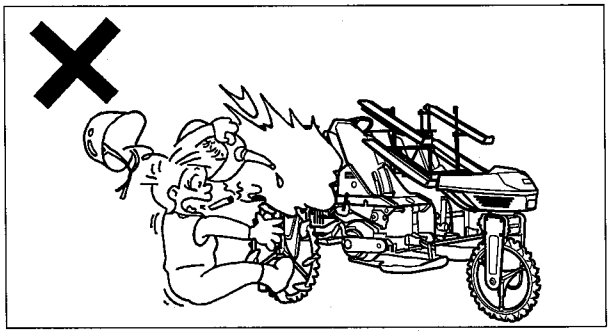
(3) 安全カバー類の装着確認

田植機を運転する前に、安全カバー類が外れたままになっていないか確認しましょう。外れたままエンジンをかけたり、作業を行なうと危険な部分が露出して大変危険です。



(4) 燃料補給時は火気厳禁

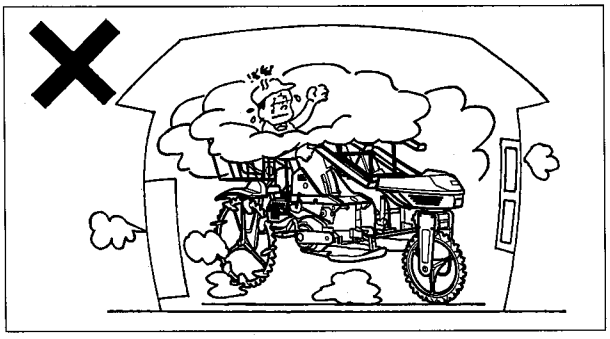
燃料を補給する時エンジンは必ず停止し、くわえタバコなどは絶対にしないでください。
田植機の周囲に火の気を近付けず、火気厳禁で行なってください。
守らなかった場合、火災の原因になります。



■エンジンの始動と発進

(1) 室内では充分に換気を

室内でエンジンを運転する時は、窓や戸を開けて換気を充分にしてください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。



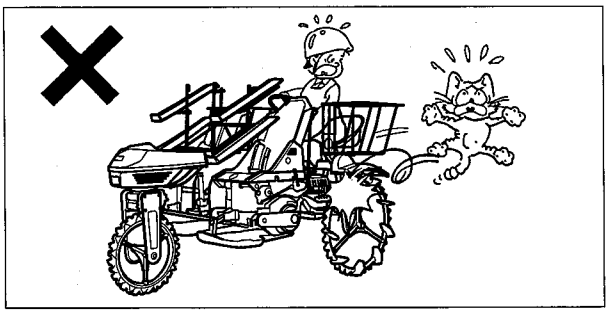
(2) エンジンの始動は、周囲を確認してから

①エンジンを始動する時は主クラッチレバー・主変速レバーやその他のレバー類の位置と周囲の安全を確認してから行なってください。確認を怠ると、急発進したりして大変危険です。

②エンジンを始動する時は、エンジンやマフラー等の上や周囲にゴミや燃えやすいものが無いことを充分確認してください。確認を怠ると、火災の原因になります。

(3) 急発進は、危険

発進する時は周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



■移動する時の注意

(1) 一般道路での自走禁止

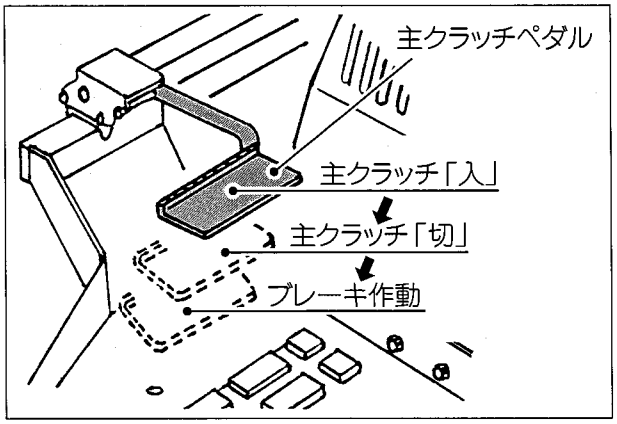
この田植機は、自動車としての認定を受けておりません。従って一般道路を走行することは違法行為になります。ほ場への移動は、必ずトラック等にのせて運搬してください。

(2) 正しい運転姿勢で

ハンドルやクラッチは正しく操作し、わき見運転や片手運転をしてはいけません。接触事故や転落事故を引き起こす原因となります。

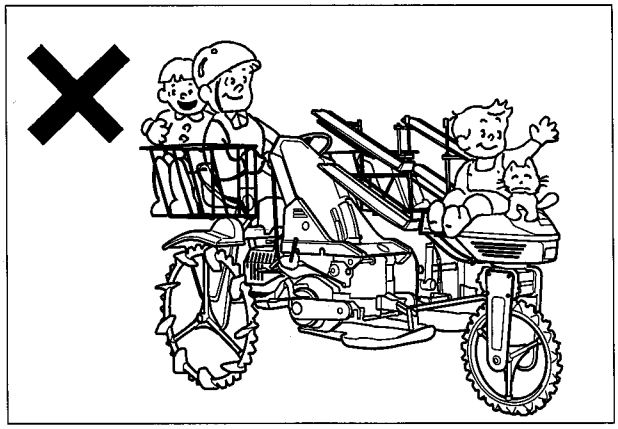
(3) ブレーキ操作は確実に

主クラッチペダルを踏むと主クラッチが切れ、踏み込むとブレーキが効きます。
傾斜地やアユミ板の上でやむを得ず主クラッチペダルを踏む場合は、ブレーキが確実に効くところまで、すばやく踏み込んでください。これを怠るとブレーキが効かず、衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。



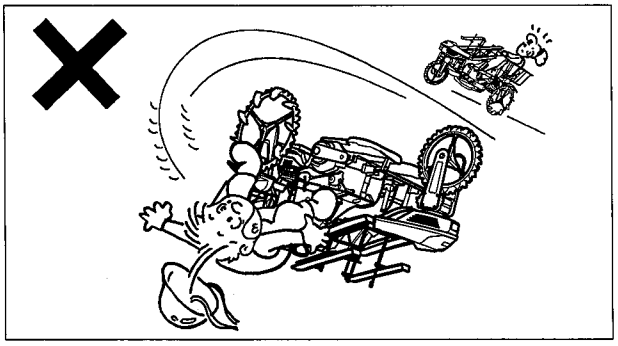
(4) 同乗禁止

田植機の上やカバー部には、いかなる場合も絶対に人はのせないでください。人が転落したりして大変危険です。



(5) ゆっくり移動

①高速で急旋回しないでください。急旋回すると転倒事故につながり大変危険です。

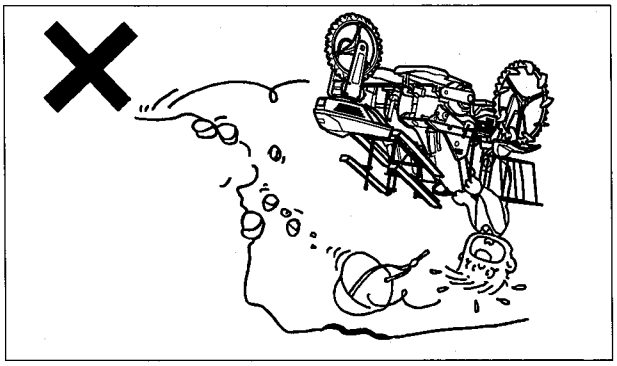


②凹凸の激しい場所・地面の軟弱な場所・傾斜地等での高速運転はしないでください。地面状況に応じた安全な速度で移動してください。これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

③傾斜地を上がる時は低速でゆっくりと、下がる時はエンジンブレーキをかけ、決してサイドクラッチペダルや主クラッチペダルを踏んだり変速レバーを中立状態にしないでください。やむを得ず主クラッチペダルを踏む場合は、ブレーキが確実に効くところまで、すばやく踏み込んでください。これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

(6) 路肩に注意

両側が傾斜している所を移動する時は、速度を落として充分注意して移動してください。
路肩がくずれて転倒したりして大変危険です。

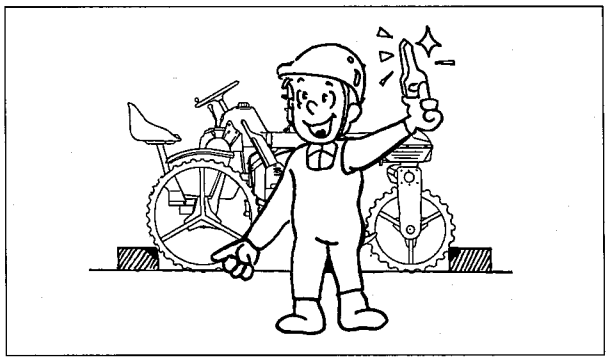


(7) 田植機から離れる時は

①田植機から離れる時は、エンジンを停止し、主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にして駐車ブレーキをかけて車輪止めをしてください。

②止める所は広く平たんな地面の硬い場所を選んでください。田植機が自然に動き出したりして大変危険です。

③下に草やワラがある場所や、燃えやすい物の近くには田植機を置かないでください。マフラー等の熱で発火する恐れがあり、火災の原因になります。



■夜間作業の禁止

この田植機はライトを装備していますが、夜間作業は危険なので帰り時間等を配慮し、作業は早めに切り上げてください。
暗くなるまで作業をしていると、衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

■移動・運搬時の注意

(1) トラックへの積み・降ろし

①積み・降ろし作業を行なう時は、トラックのエンジンを止めて、変速を「1速」または「R」の位置にして駐車ブレーキをかけ、車輪止めをして行なってください。これを怠ると積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。

②積み・降ろし作業は、誘導者を付けて周囲の安全を充分確認して行なってください。また田植機の直前や直後には、絶対に立たないでください。傷害事故の原因になり大変危険です。

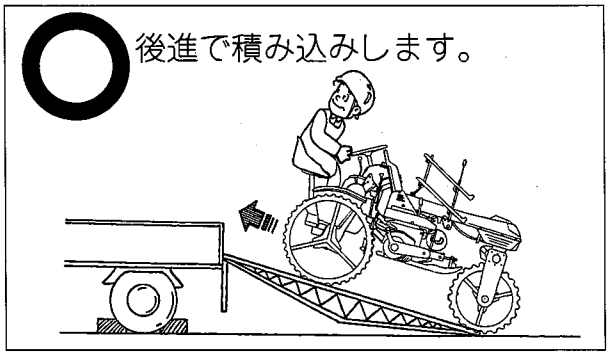
③アユミ板は基準以上のものを使用し、田植機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。

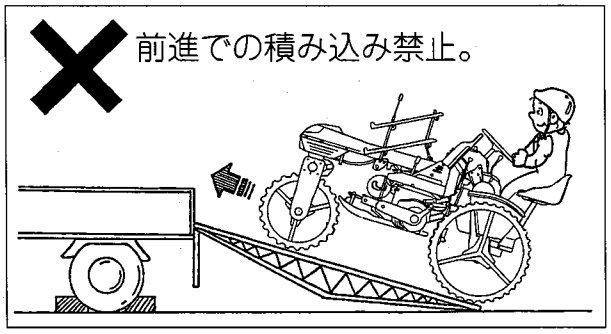
〈アユミ板の基準〉

○長さ：車の荷台の高さの4倍以上
○幅　：30cm以上
○数量：3枚
○強度：1枚の強度が400kg以上
○すべり止めのあるもの

④アユミ板のフックは荷台に段差がないようにまた、ずれないよう確実に掛けてください。

⑤積み・降ろし作業は直進性を見定めて、積む時は主変速レバーを「後進」、降ろす時は「作業」でゆっくり行なってください。これを怠ると、転落事故の原因になり大変危険です。





⑥積み・降ろし作業中は、左右のサイドクラッチペダルや、主クラッチペダルを踏んではいけません。機体が横ブレして転落事故の原因になり大変危険です。

⑦万一途中でエンストした場合は、すばやく主クラッチペダルを踏み込んでブレーキを効かせ、その後徐々にブレーキをゆるめいったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行なってください。

⑧万一に備えて田植機の周辺には人を近付けないでください。

(2) 運搬する時

①トラック等で運搬する時は、エンジンを停止し必ずロープで荷台に固定してください。また、運搬中は不必要な急発進・急ブレーキ・急ハンドルはしないでください。田植機が移動して大変危険です。

②長距離を運搬する場合は、安全のために途中でロープのゆるみ等を確認してください。

③ジャリ道や凹凸の激しい道はゆっくり走行してください。

■作業中の注意

気象条件などに注意して、作業実施の判断・作業方法や装備（服装）の選択に充分配慮してください。

(1) 作業中は、周囲の人に注意（特に子供）

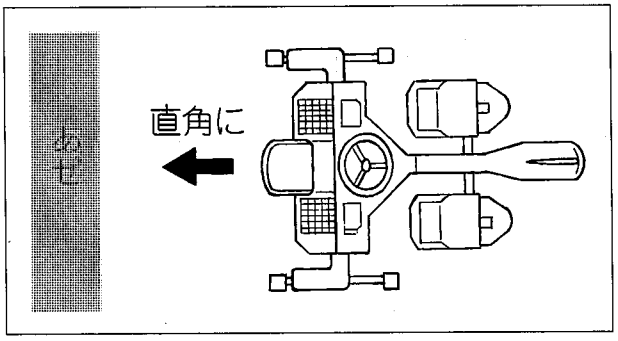
作業中は、作業者以外の人を田植機に近付けてはいけません。田植機自体や作業による飛散物等で傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

(2) 作業開始時は、声かけあって

作業を開始する時は周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業する時は、声かけあって行なってください。これを怠ると傷害事故の原因になり大変危険です。

(3) あぜごえ時の注意

あぜを横断する時は、植付部を低くして副変速レバー「低」・アクセルレバー「低」でゆっくりあぜに対して直角に移動してください。斜めになるとスリップや横転の原因になり大変危険です。

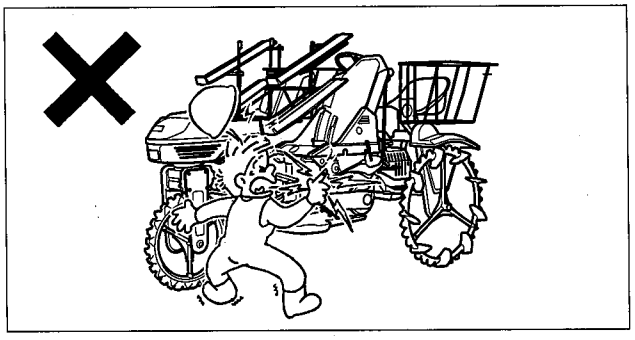


(4) アユミ板を使ってほ場の出入り

あぜの高さが高い所でのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。使用しなかった場合、衝撃で田植機を破損させたり、転倒することがあり大変危険です。

(5) 回転部・過熱部には手を触れない

作業中は、ロータリー爪・苗受等の回転部やエンジン・マフラー等の過熱部などの危険な箇所には手を触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。



■点検・整備時の注意

(1) 定期点検について

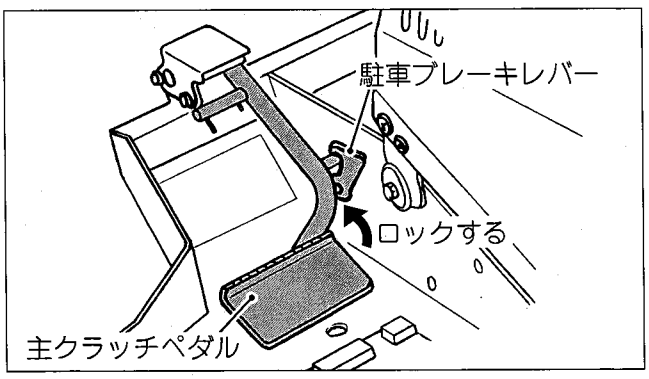
取扱説明書に従って定期点検をしてください。これは田植機を長持ちさせるとともに、安全で効率的な作業が行なえる第一歩です。

(2) 点検・整備は明るく広い場所で

点検・整備する時は、明るく平たんな広い場所で行なってください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

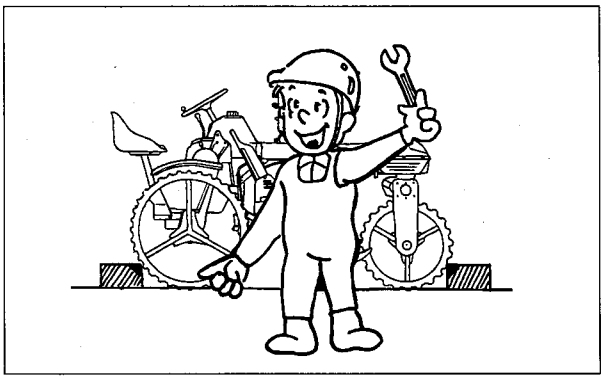
(3) 点検・整備は、エンジンを止めて

点検・整備する時は必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキレバーをロックし、植付部をフックで吊り下げるか下ろしてから行なってください。これを怠ると手や衣服が巻きこまれたり、はさまれたりして大変危険です。



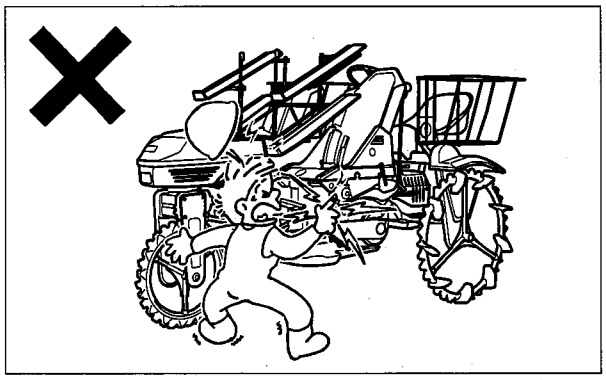
(4) 点検・整備は、適正な工具で

点検・整備を行なう時は、適正な工具を正しく使用して行なってください。まにあわせの工具で行なうと、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こし、大変危険です。



(5) 過熱部分は冷めてから

①エンジンを切ってすぐに点検・整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が、完全に冷えてから行なってください。これを怠るとやけどなどの原因になります。



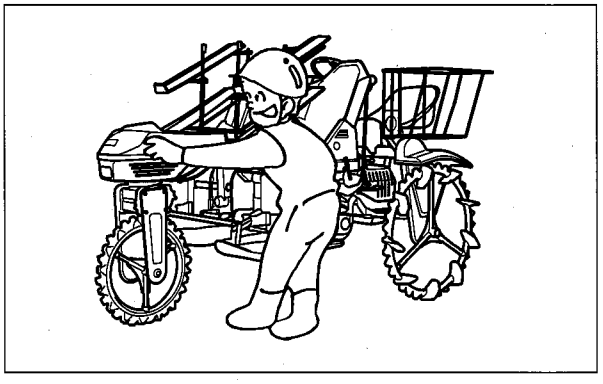
②点検・整備する時は、マフラー等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。これを怠ると作業中に発火したりして、火災を引き起こす恐れがあります。

(6) 田植機の改造は厳禁

指定以外のアタッチメントの取り付けや改造は絶対してはいけません。田植機の故障や事故の原因になり大変危険です。

(7) カバー類は元通りに

点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむきだしになり、傷害事故の原因になり大変危険です。



■電気配線点検時の注意

(1) 電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行なってください。エンジンをかけた状態での点検は、手や衣類が回転部に巻き込まれたりして大変危険です。

(2) 配線の端子や接続部のゆるみ、および配線の損傷は電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）の原因となり火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。

■保管時の注意

(1) 燃料の抜き取り

長期格納する場合は、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取っておいてください。燃料が変質し田植機の故障の原因になるばかりでなく、引火などで火災の原因にもなり大変危険です。

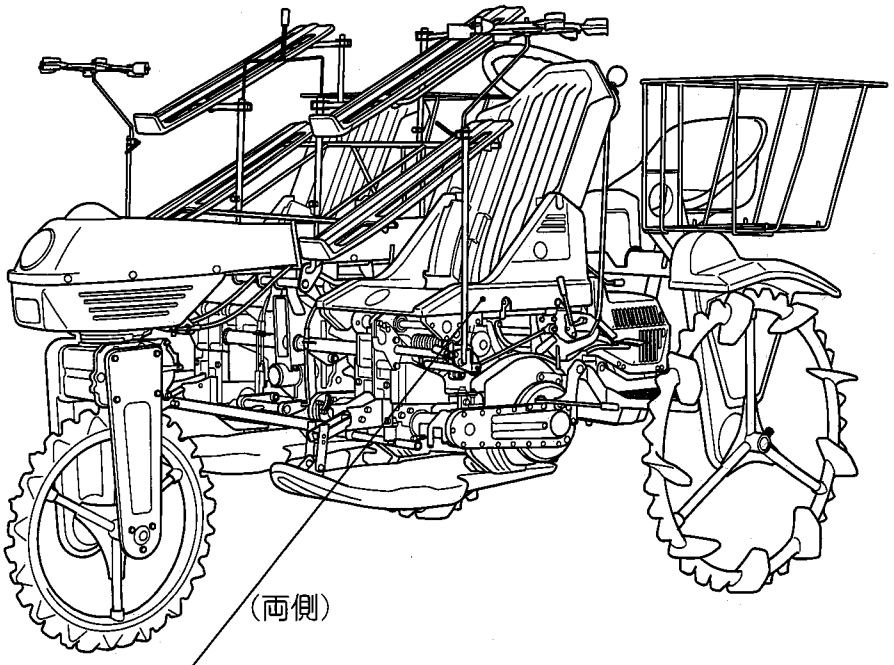
(2) シートカバーは田植機が冷えてから

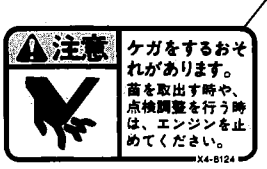
作業が終了してシートカバー等を田植機にかける時は、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると火災の原因になり大変危険です。

安全表示ラベルについて

●本田植機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
●安全表示ラベルが破損したり、なくなったり読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。
●泥等がついた場合は、きれいにふきとり、いつでも読めるようにしてください。
●安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルもお買いあげいただいた販売店・農協（JA）にご注文ください。

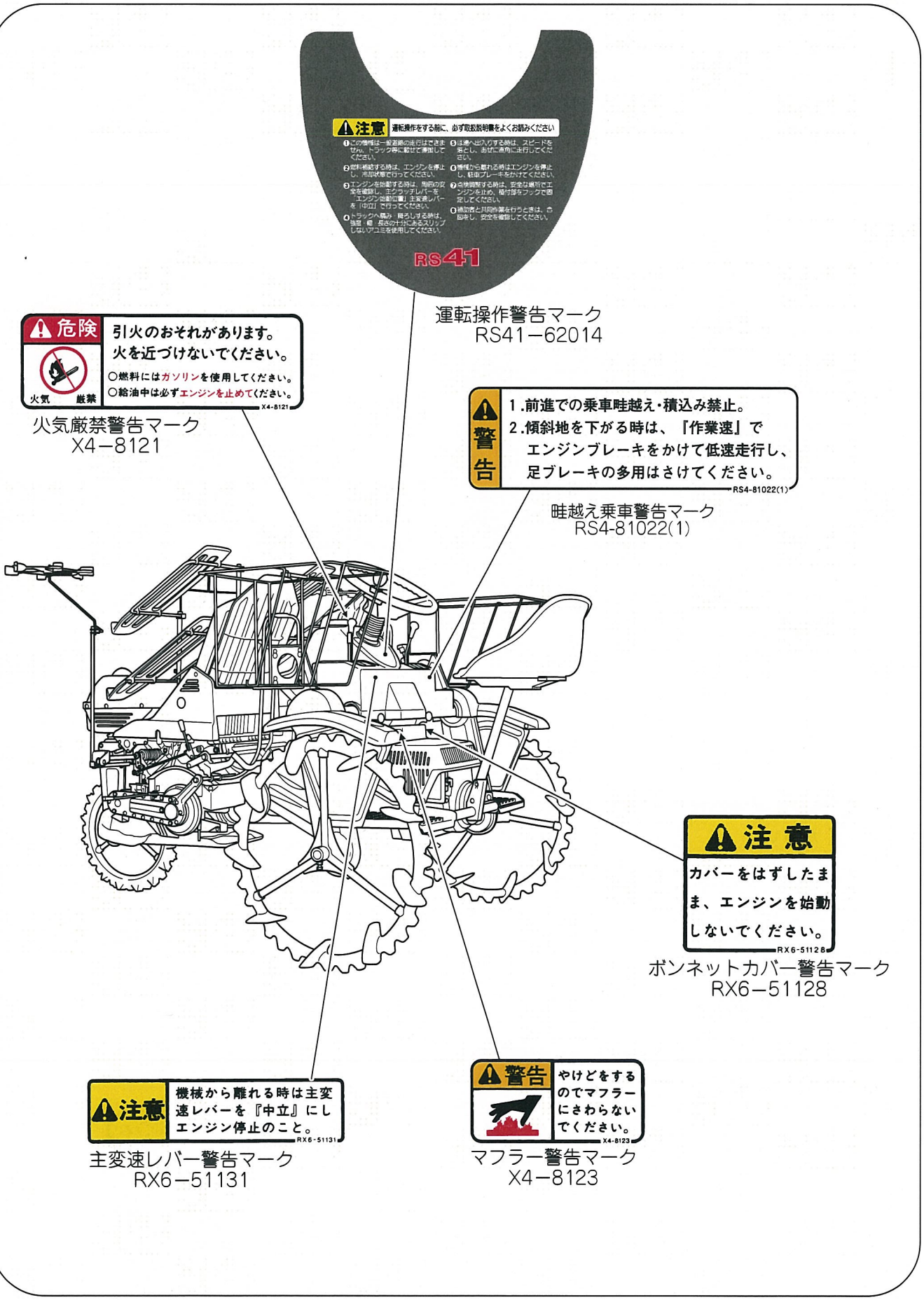
安全表示ラベル貼付位置





植付部警告マーク
X4−8124

安全表示ラベル貼付位置



運転操作警告マーク
RS41−62014

火気厳禁警告マーク
X4−8121

畦越え乗車警告マーク
RS4-81022(1)

ボンネットカバー警告マーク
RX6−51128

主変速レバー警告マーク
RX6−51131

マフラー警告マーク
X4−8123

使用上のポイント

本田植機が使用できる耕盤の深さは25cmまでです。

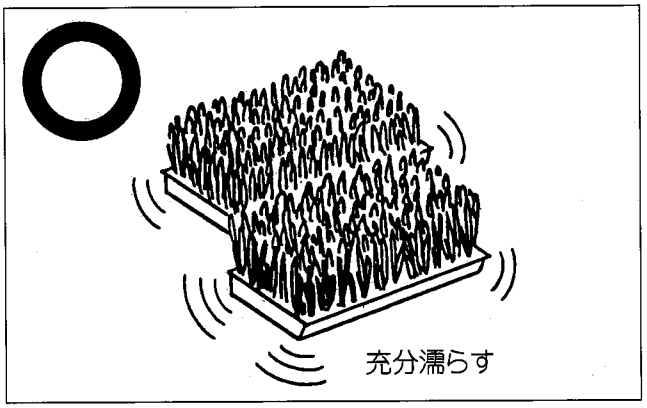
泥炭地、基盤整備田等で本田植機が沈むような耕盤の不安定な悪条件のほ場では使用できなかったり、田植機の早期破損の原因となります。また、本田植機の特性をよく知って、それにできるだけ合わせた苗およびほ場の準備をしていただくことが大切です。

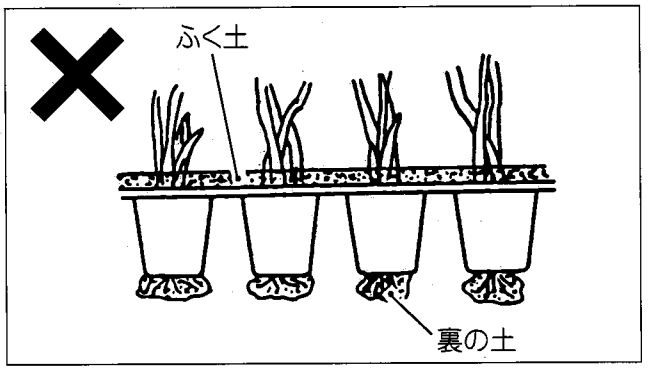
■苗について

(1) 苗は使用する前に必ずあぜぎわなどの水のあるところにつけて、ポットの中に水が充分浸透するまで濡らして植え付けをします。特に根張りのよい苗は、充分つけておきます。

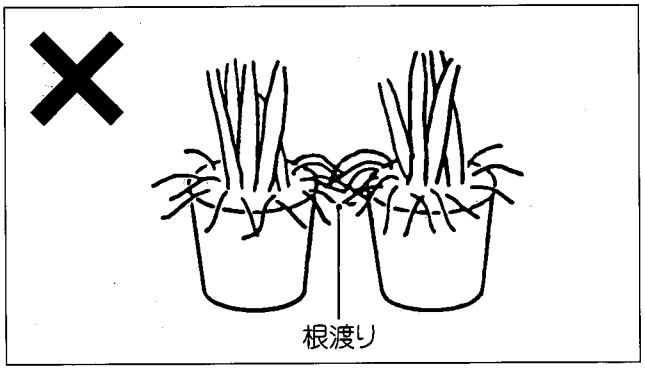
(2) 濡らして使用する場合が絶対条件ですが、非常に根張りの悪い場合や、ポットがくずれやすい土を使用している場合は、濡らしかたに注意してください。

(3) 苗箱の上面に余分のふく土をかけないようにまた、必ず根切りネットを使用して育苗してください。
余分なふく土や裏の土が多いと苗箱の送りができません。

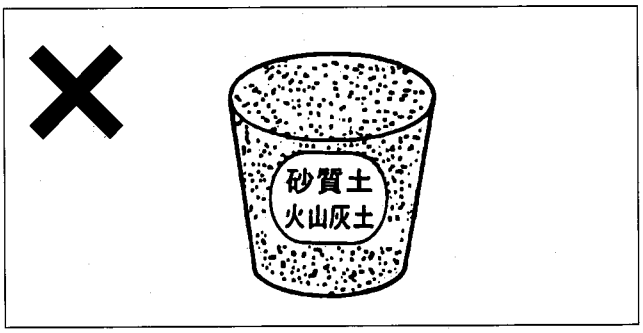




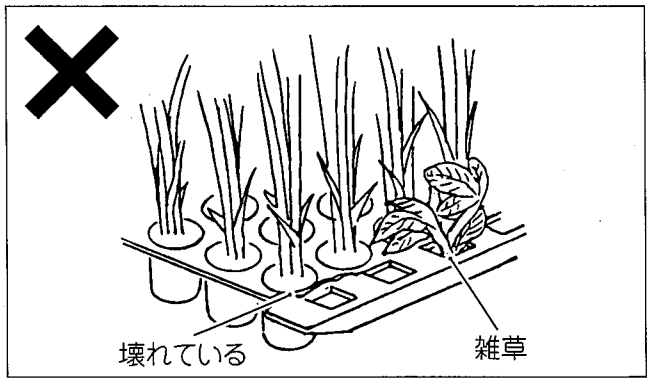
(4) 根渡りさせないよう、育苗の段階から注意してください。
（詳しくは「育苗のてびき」を参照）
根渡り苗は植え付けできないこともあります。



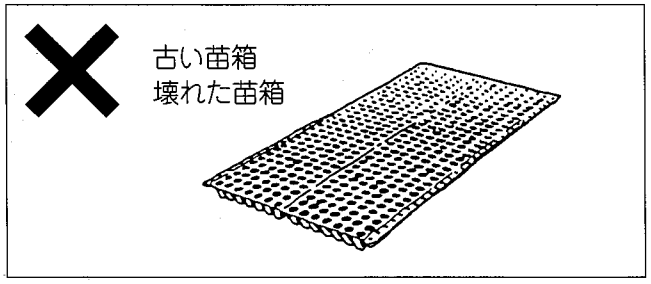
(5) 砂質土・火山灰土等を使用しますとポットがくずれやすく、植付不調となります。箱土に関しては販売店または農協（JA）にご相談ください。



(6) **箱のふちや角穴が壊れている苗箱は使わないでください。また、苗箱の角穴が土や雑草でふさがっている場合は取り除いてください。守らないと苗が植付部へ送り込まれなかったり、苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。**

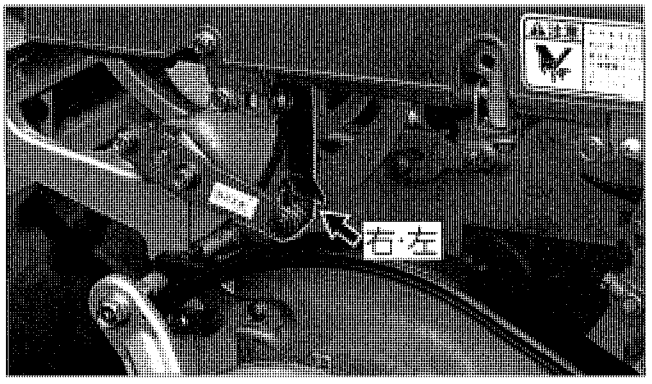


(7) **10年以上経過した古い苗箱や新しくても保管状態のよくない苗箱は材質がもろくなっています。苗供給時、苗箱送り時に破損して苗箱の送りができなくなり連続欠株の原因となります。**
古い苗箱は計画的に新しい苗箱に更新するようにしてください。

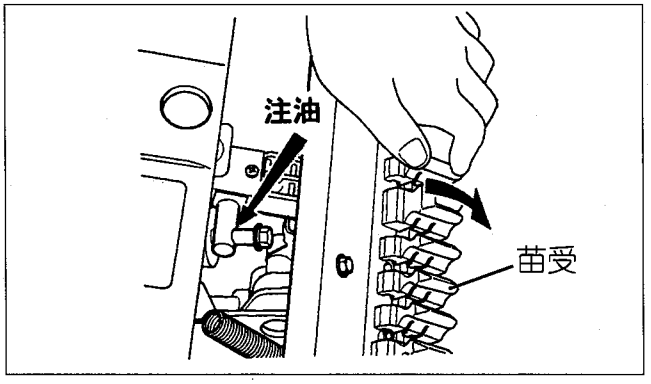


■注油

作動不良、また消耗を防ぐため毎日使用前に注油してください。
①縦送り 爪下左・右

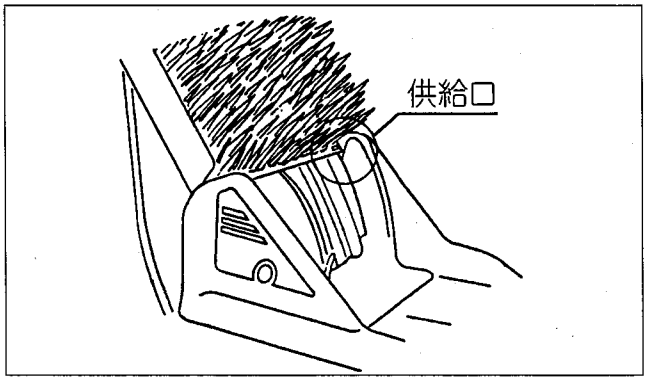


②上下送りバネ軸
苗受を上げた状態にして、手で苗受を下方向に押さえて注油してください。



■苗のセット

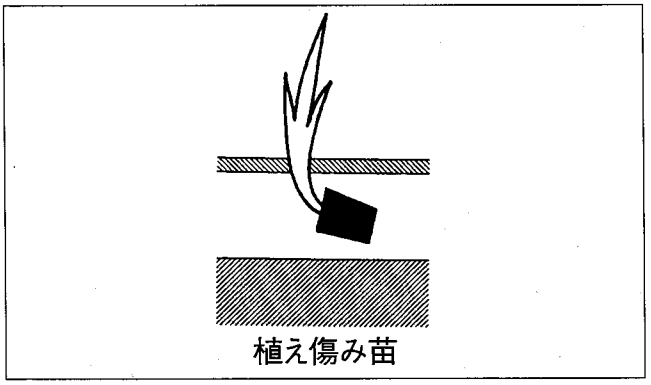
(1) 植え付け中は、必ず合図（ベル）が鳴ってから苗箱を確実に供給口にセットしてください。
(2) **合図（ベル）が鳴る前に苗を補給すると、苗のセット位置がずれて、植付不調・苗箱の破損の原因になります。**
(3) ストッパー爪に当たって苗箱が止まった時は無理に押し込まないでください。



■植え傷みの注意

(1) 次のような条件の時、植え傷み苗になることがあります。このような場合は植付速度を落としてゆっくり作業を行なってください。
- ●貧弱な苗。
- ●根張りが悪い苗。
- ●ガイド板が変形している。（広くなった時）
- ●苗支持板が変形・欠落している。

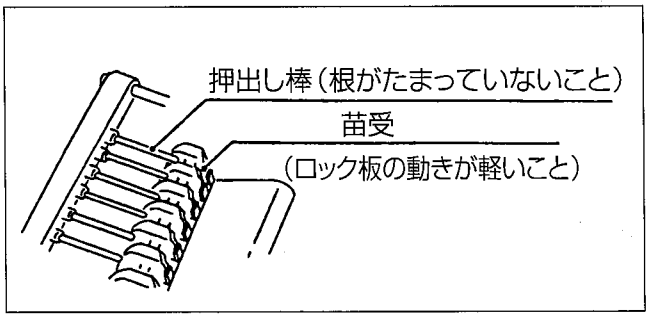
(2) 植付状態を確認しながら作業をしてください。



■植付部の水洗い

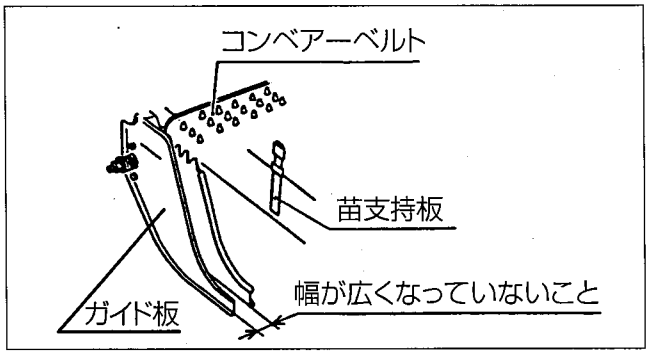
(1) 苗受・押出し棒・コンベアーベルト・ガイド板・苗のせ台・縦送り爪・ストッパー爪等をよく水洗いしてください。

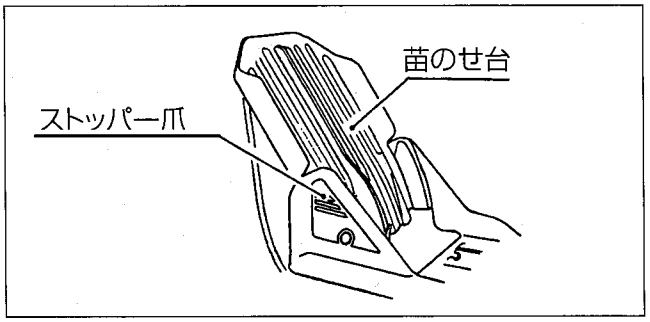
(2) 休憩・食事の時・ほ場を変える時などには必ず洗ってください。

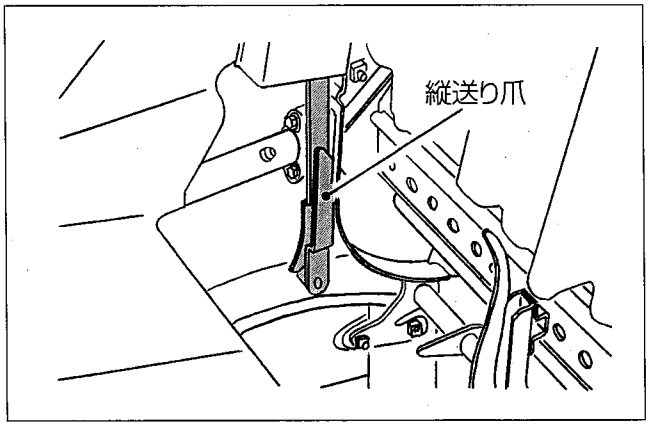


重要

- ●ガイド板に泥・異物がつまり幅が広くなると植え傷みの原因となるので、きれいに洗ってください。（変形している場合は修正または交換してください。）
- ●苗支持板を変形させないように注意してください。植付不良になります。

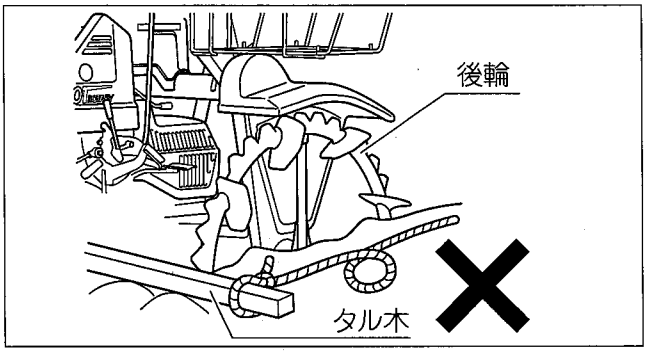


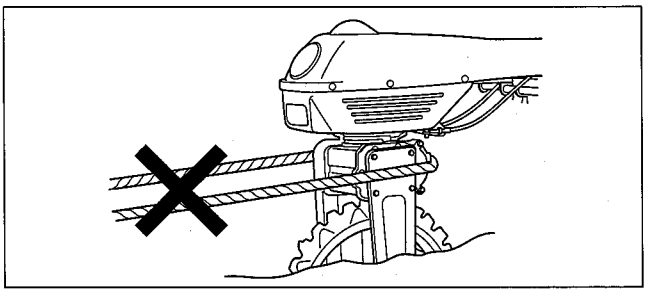




■湿田での脱出のしかた

(1) 予備苗を全部降ろして田植機を軽くします。
(2) 車輪に負担をかけないよう、植付クラッチレバーを「植付入」、油圧感度調節レバーを「硬い」にして、植付部が常に表土に下りているようにしておきます。
(3) 前輪の前の泥をできるだけ除き、ジャッキアップして前輪の下にアユミ板をひき、ゆっくり自力で脱出させてください。





重要

- 本田植機が使用できる耕盤の深さは25cmまでです。25cm以上のほ場では植え付けできなかったり、早期破損の原因となりますので使用しないでください。
- 深いほ場で沈んで前進できなくなった場合は、絶対にトラクター等で引っ張らないでください。田植機が破損する恐れがあります。

保証とサービスについて

■商品の保証

この商品には、保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

■サービスネット

ご使用中の故障や不審な点およびサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店・農協（JA）にお気軽にご相談ください。

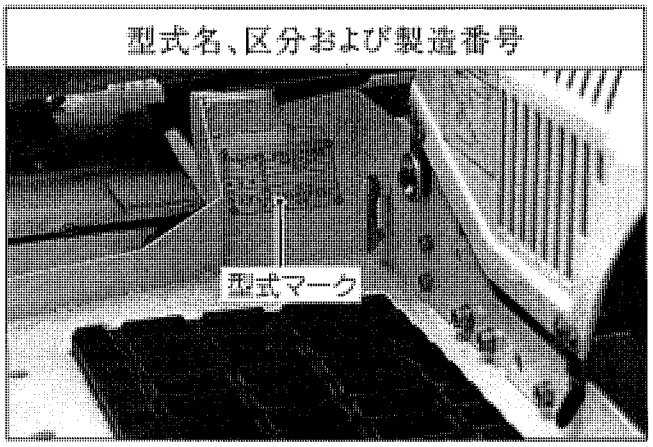
その際（1）型式名、区分、および製造番号

（2）エンジン番号

をあわせてご連絡ください。

（型式マーク）

農機具の種類	
型　式　名	
区　　分	
製 造 番 号	





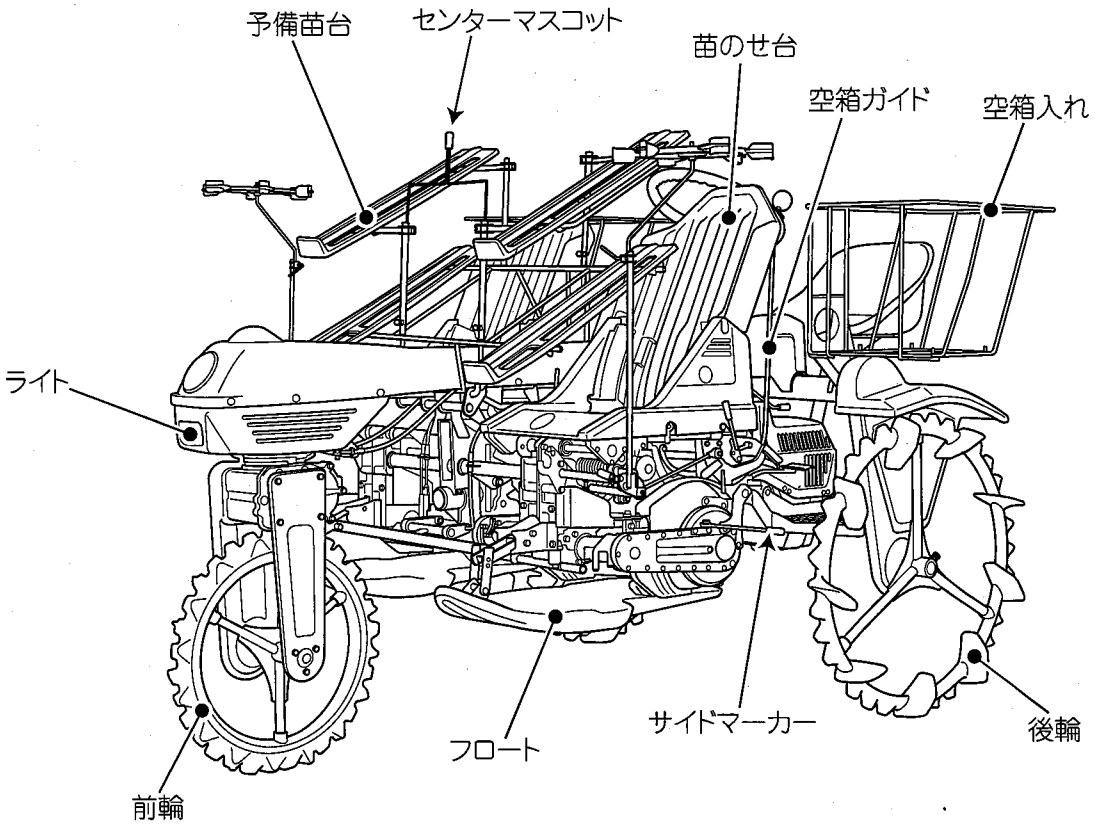
■補修用部品供給年限について

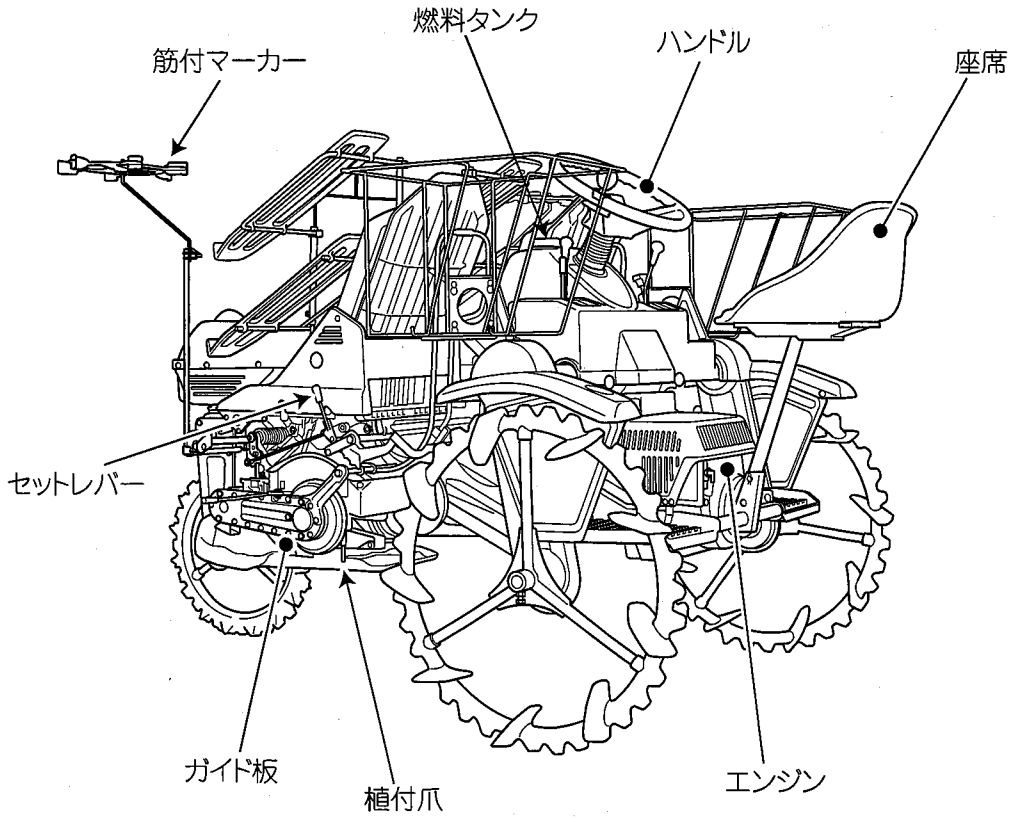
この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

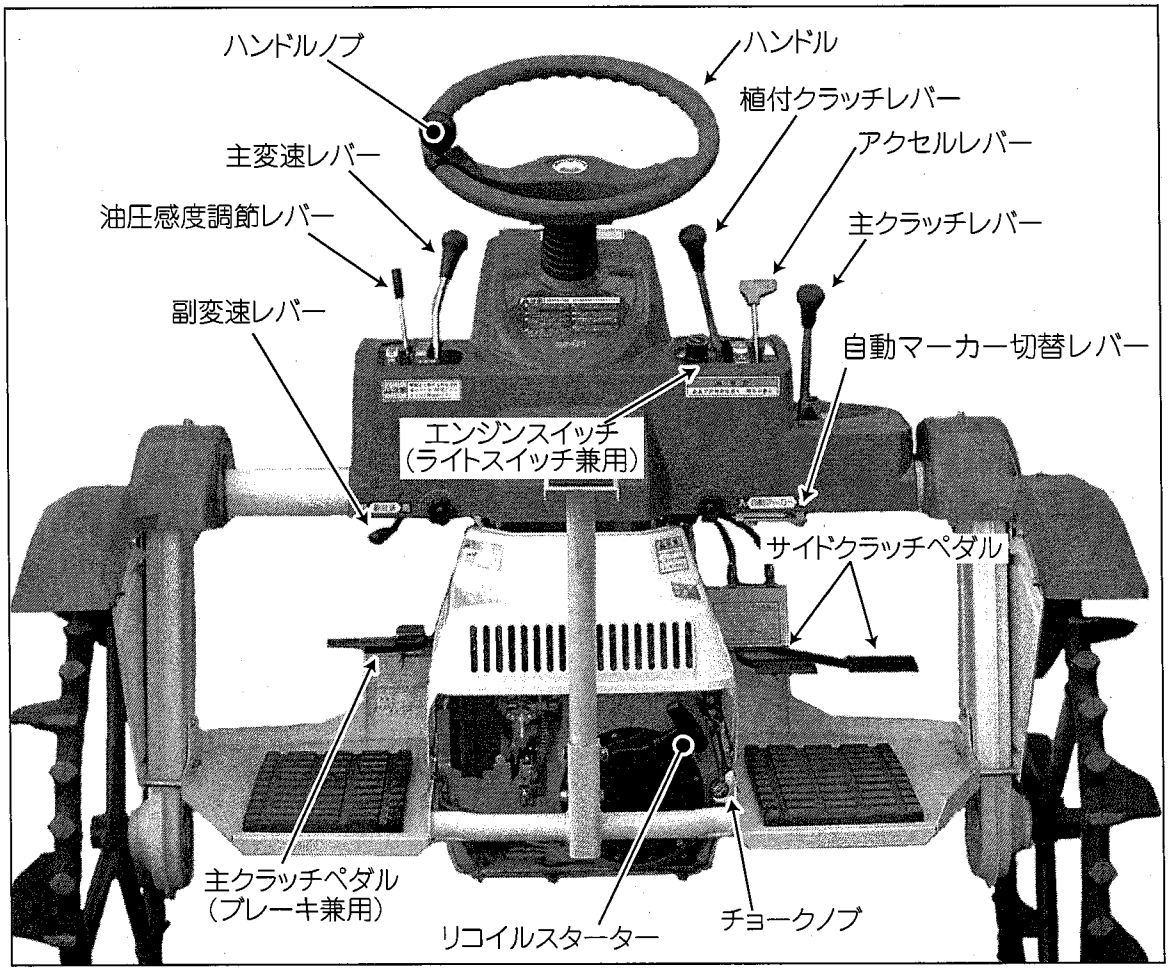
補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

各部の名称とはたらき

各部の名称



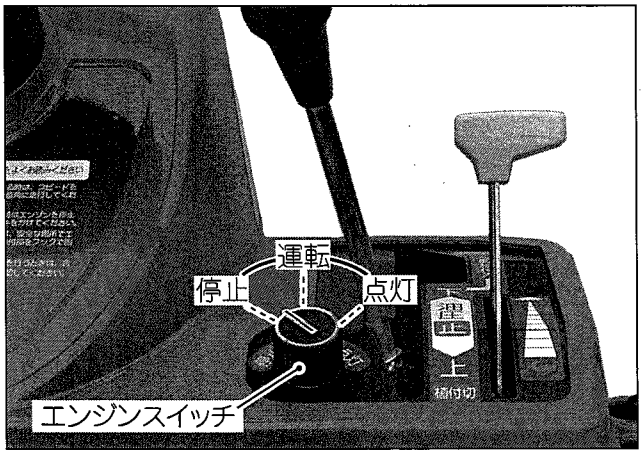



ハンドルノブ
ハンドル
植付クラッチレバー
主変速レバー
アクセルレバー
油圧感度調節レバー
主クラッチレバー
副変速レバー
自動マーカー切替レバー
エンジンスイッチ
(ライトスイッチ兼用)
サイドクラッチペダル
主クラッチペダル
(ブレーキ兼用)
リコイルスターター
チョークノブ

スイッチのはたらき

■エンジンスイッチ

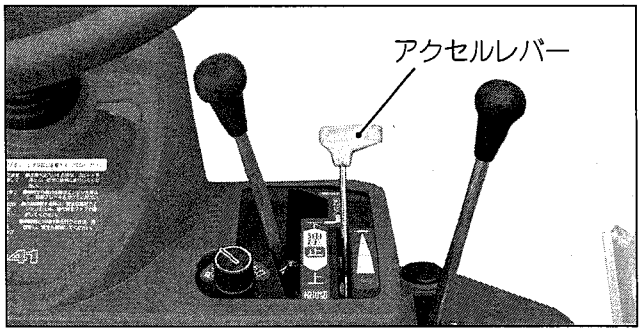
停止……エンジンが停止します。
運転……リコイルスターターでエンジンの始動ができます。
点灯……ライトが点灯します。（エンジン運転中）



レバー・ペダル・シートの取り扱い

■アクセルレバー

(1) レバーを手前に引くとエンジン回転が上がり前方に押すと下がります。
(2) ほ場条件によるエンジン負荷に応じて、適当位置に固定して使用します。
(3) 急発進防止のため主クラッチペダルを踏むとレバーが自動的に「低速」になります。

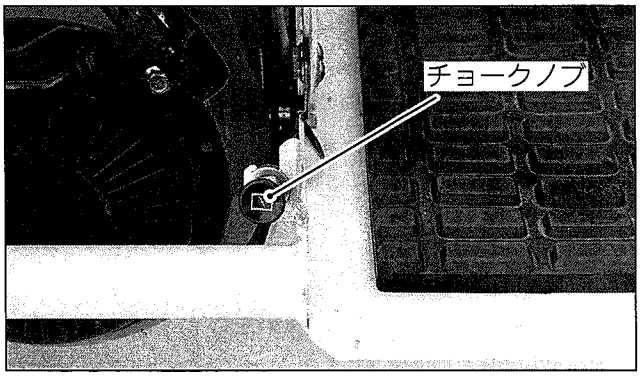


■チョークノブ

エンジンが冷えている状態で始動する時は、ノブをいっぱい引きます。

重要

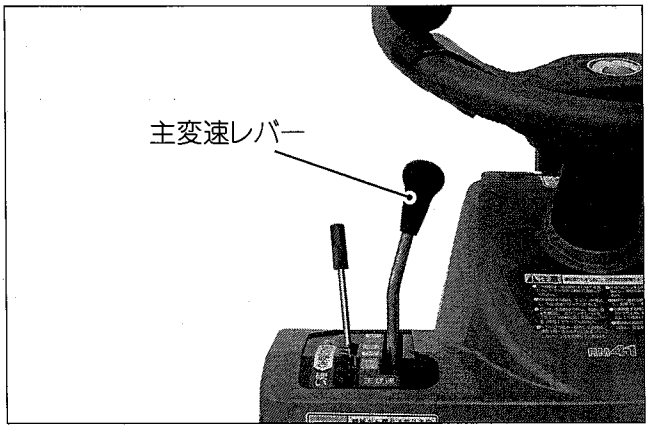
●始動時以外は、使用しないでください。



■主変速レバー

(1) 車速を変更するレバーです。
(2) 前進2段（作業・移動）、後進1段と中立・PTOがあります。

移　　動	高速移動時に使用します。
中　　立	走行・植付部とも動きません。
後　　進	―――
P　T　O	植付部のみ動きます。
作　　業	植付作業時に使用します。



⚠注 意

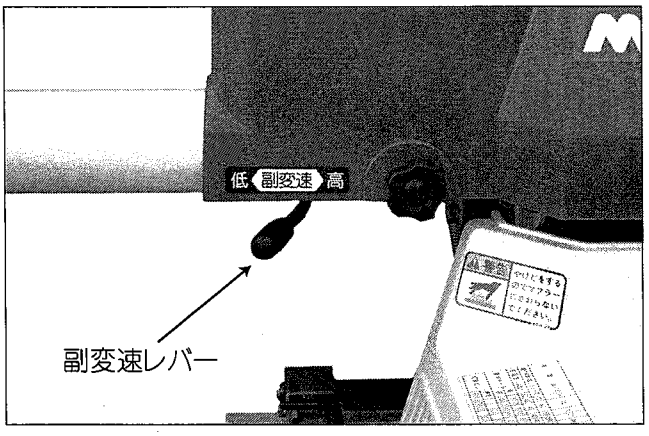
田植機から離れるときは主変速レバーを「中立」に切り替えてください。
これを怠ると田植機が自然に動き出し大変危険です。

重要

- 主変速レバーの操作は、主クラッチペダルを踏み込むか、主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にして田植機が完全に停止してから操作してください。走行中に変速するとミッションの損傷につながります。
- 主変速レバーの切り替えが行ないにくい場合は、主クラッチペダルを操作して、一度クラッチ「入」にしたのち踏み込んで再度レバー操作してください。

■副変速レバー

(1) 主変速と組み合わせて車速を変えるレバーです。
(2) 高速と低速の2段変速ができます。

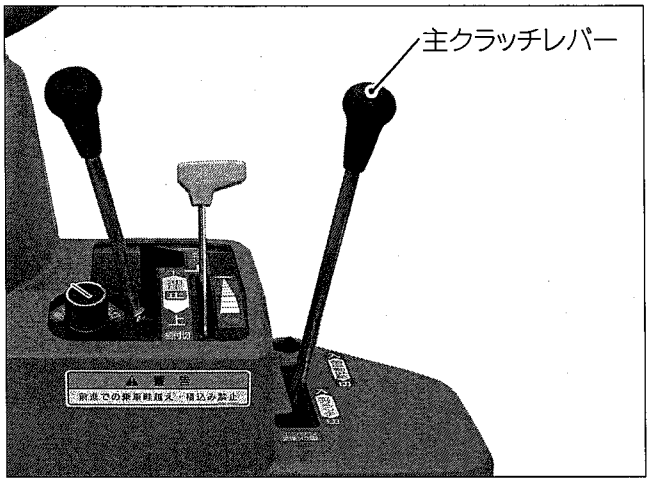


重要

- 副変速レバーの操作は、主クラッチペダルを踏み込むか、主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にして田植機が完全に停止してから操作してください。走行中に変速するとミッションの損傷につながります。

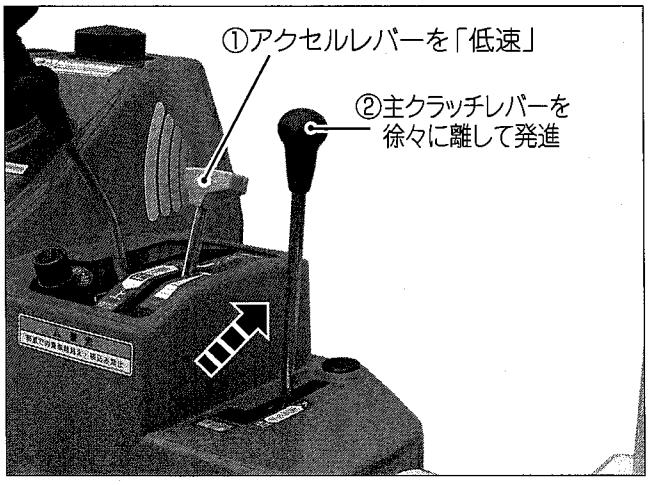
■主クラッチレバー

(1) エンジンの動力を断続するレバーです。
(2) レバーを手前に引くと主クラッチが切れ、手を離すと主クラッチが入ります。
(3) エンジン始動時、苗補給時や停車時などは「エンジン始動位置」にします。



重要

- ●エンジン始動時はレバーを「エンジン始動位置」にしないと安全装置が働いて始動しません。
- ●主クラッチペダルを操作せずにレバーを主クラッチ「入」にしても発進できますが、急発進防止のため主クラッチペダルを踏み込んでから足を徐々に離してゆっくり発進してください。
- ●エンジンを始動しないで機械を移動する場合、主クラッチレバーが「エンジン始動位置」では補助ブレーキが作動していますから、主変速レバーを「中立」、主クラッチレバーを「入」にして行なってください。

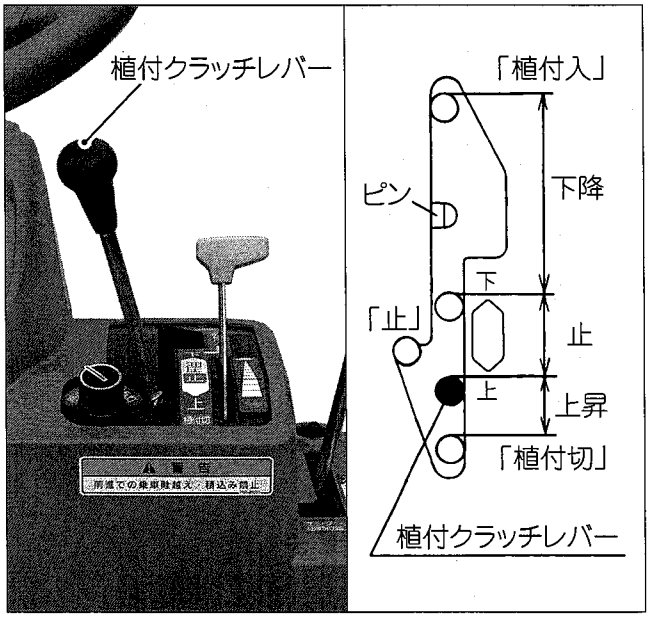


⚠警 告

主クラッチレバーを操作して発進する時は、必ずアクセルレバーを低速にし、ゆっくり操作して発進してください。急発進すると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

■植付クラッチレバー

(1) このレバー1本で植付部の上昇・下降と植付部への動力伝達の断続ができます。
(2) 植付クラッチレバーを「下」にすると植付部が下降し、フロートが接地すると、植付クラッチが自動的に「植付入」になります。
(3) 植付クラッチレバーを「植付切」にすると植付部が上昇するとともに植付クラッチが切れます。植付部がいっぱい上昇すると、レバーは自動的に「止」に戻ります。

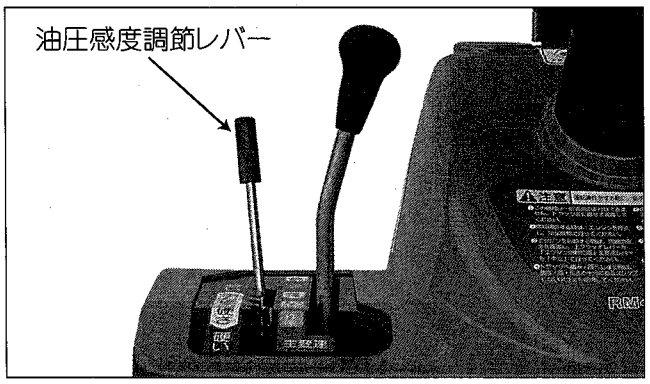


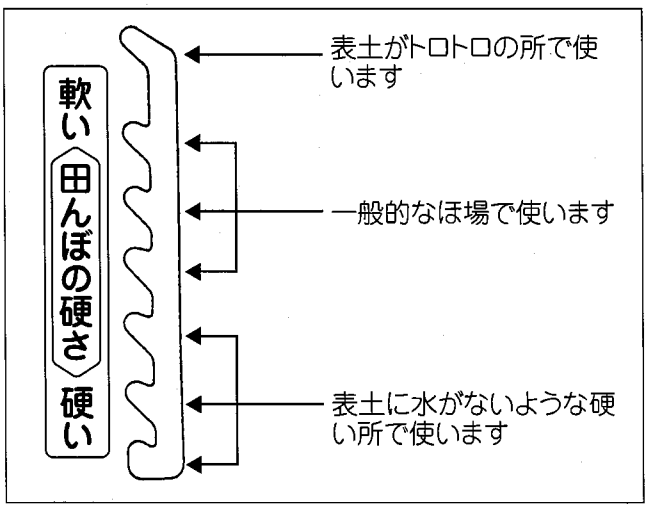
重要

●植付クラッチレバーを「植付切」にしたら手をレバーから離してください。

■油圧感度調節レバー

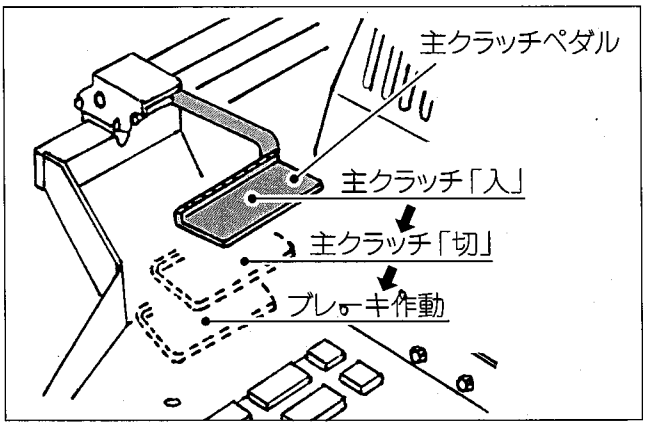
(1) フロートが泥押ししたり、浮き上がりのないように、ほ場条件に合わせて調節します。
(2) レバーを手前にするとフロートがほ場表面を強く押しつけるようになり、前方にするとフロートが浮き上がりやすくなります。

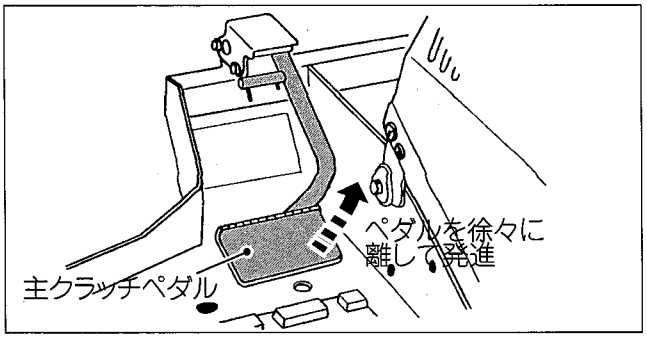




■主クラッチペダル（ブレーキ兼用）

(1) エンジンの動力を断続するペダルです。
(2) ペダルを踏むと主クラッチが切れ、踏み込むとブレーキが効きます。
(3) 主クラッチレバーおよびアクセルレバーと連動しており、踏み込むと自動的に主クラッチレバーが「切」に動いて主クラッチが切れブレーキが効き、アクセルレバーも「低速」になります。



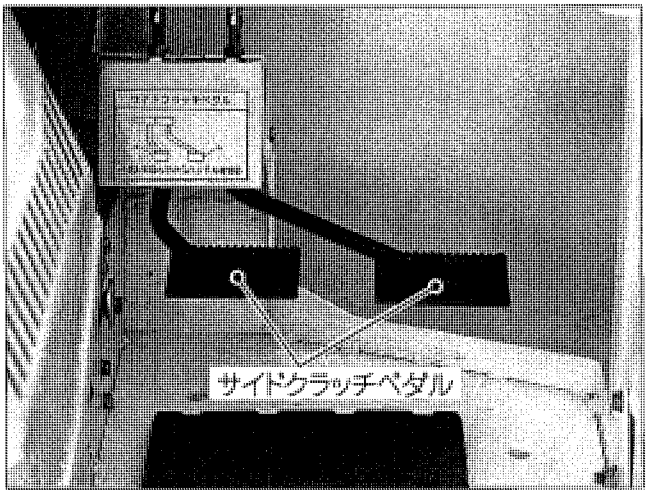


⚠警 告

(1) 主クラッチペダルから急に足を離すと急発進しますので、徐々に離してください。
(2) 傾斜地やアユミ板の上では主クラッチペダルを踏まないでください。
やむを得ず踏む場合は、ブレーキが確実に効くところまですばやく踏み込んでください。
これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

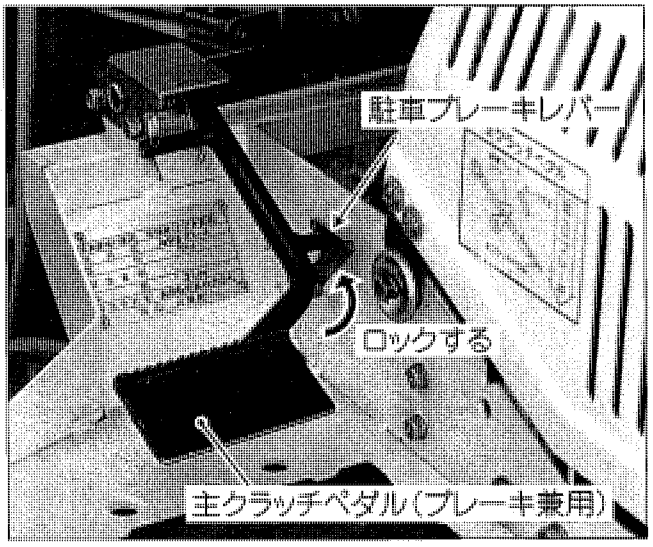
■サイドクラッチペダル

(1) 左側のペダルを踏み込むと左後輪の、右側のペダルを踏み込むと右後輪のクラッチが切れます。
(2) 旋回する側のペダルを踏み込んでください。



■駐車ブレーキレバー

(1) 田植機を駐停止させておくためのレバーです。
(2) 主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にします。
(3) 主クラッチペダル（ブレーキ兼用）を踏み込み、駐車ブレーキレバーでロックします。

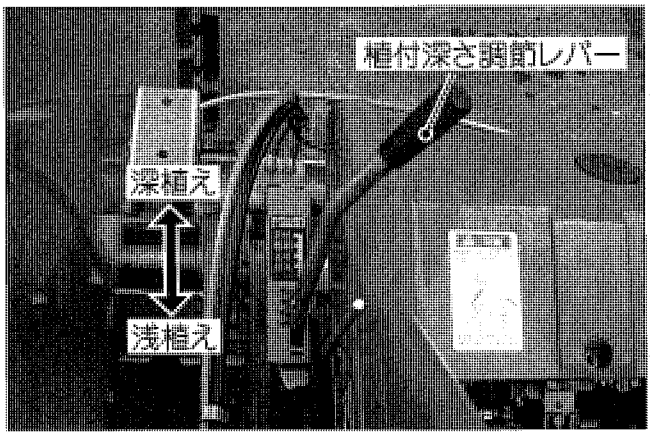


注 意

駐車時、停止時には必ず駐車ブレーキを確実にかけてください。
これを怠ると田植機が自然に動き出し大変危険です。

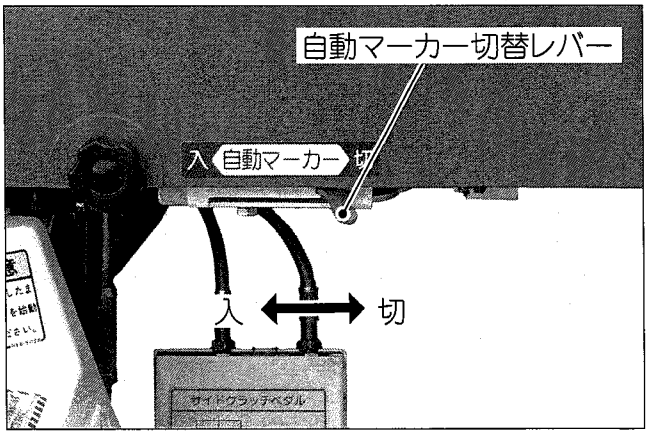
■植付深さ調節レバー

(1) 植付深さを調節するレバーです。
(2) レバーを前の溝にセットすると深植えとなり、後の溝にセットすると浅植えとなります。



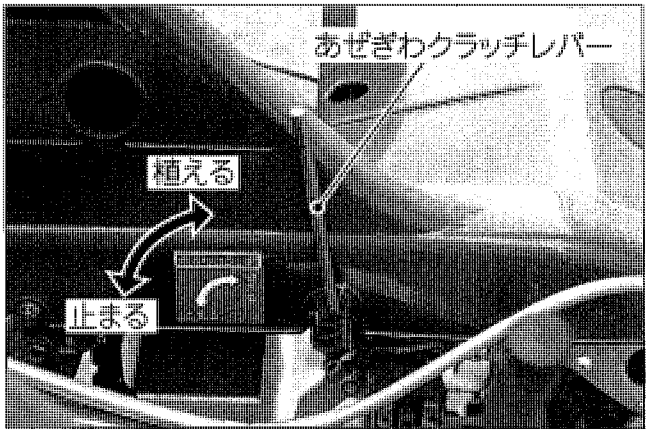
■自動マーカー切替レバー

(1) レバー「入」にすると、植付クラッチレバーの入切と連動して筋付マーカーが左右交互に出ます。
(2) レバーを「切」にすると、筋付マーカーは作動しません。



■あぜぎわクラッチレバー

(1) 植え終わりとなる前行程で、2条だけを植える時に使います。
(2) レバーを「止まる」にすると各2条の植え付けが停止します。

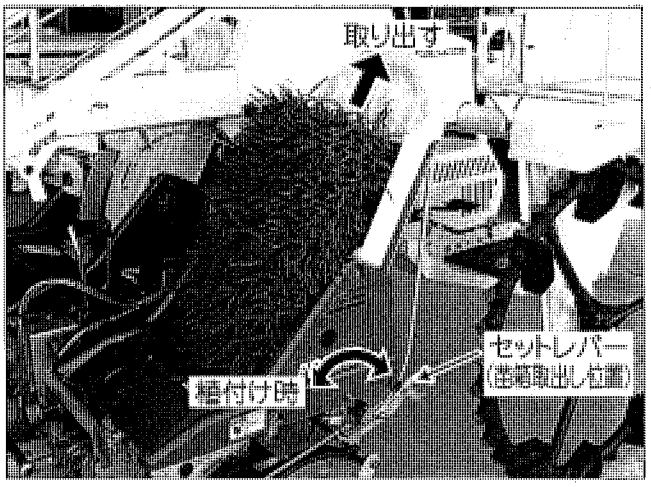


■セットレバー

このレバーを後方に倒すと苗箱を上方向に取り出せます。
また1回だけ前後に動かすと苗箱を1列ずつ送ることができます。

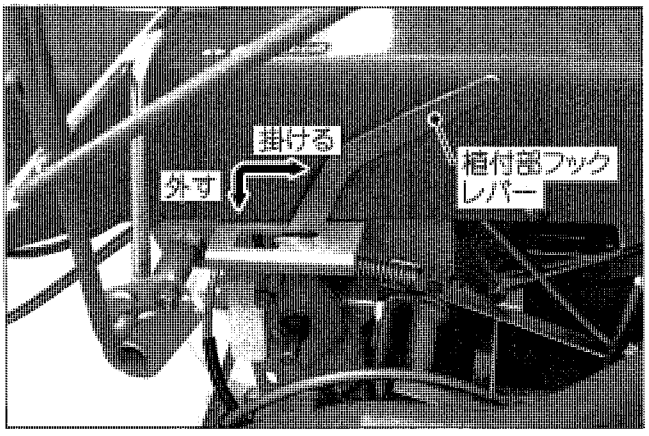
重要

●植え付けする時は確実にレバーを前方に戻してから行なってください。



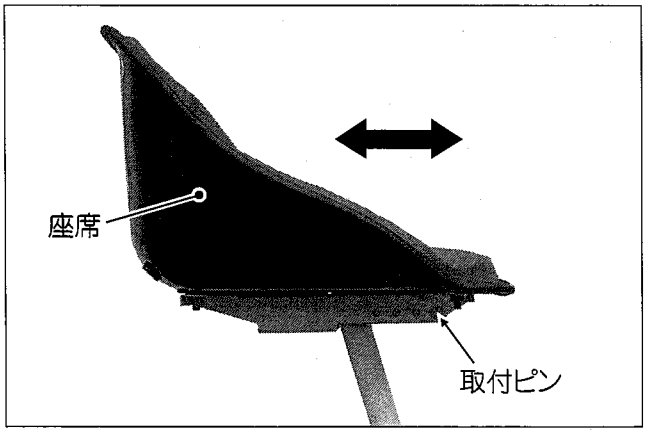
■植付部フックレバー

(1) 移動時・点検整備時・保管時等に、植付部が下降しないようフックを掛けます。
(2) 田植作業時はレバーを外します。



■座席の調節

作業しやすい位置になるように、座席の取付ピン位置を変更して調節してください。



作業前点検

故障を未然に防ぐには、田植機の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行なってください。

⚠警 告

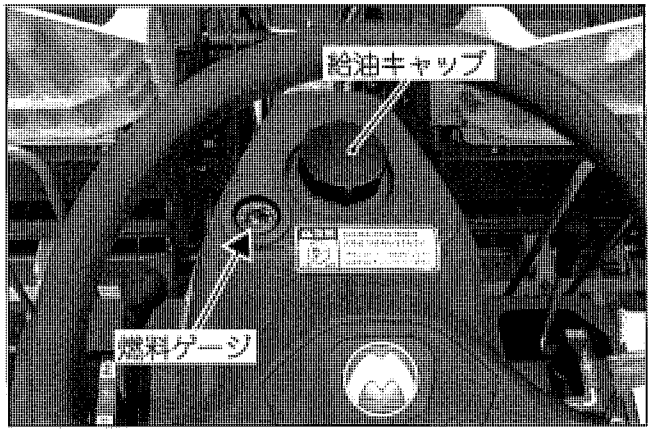
給油・注油および点検整備をする時は、次のことを守ってください。
(1) 田植機を平たんな広い場所に置く。
(2) エンジンを停止する。
(3) 駐車ブレーキをかけ、主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にする。
(4) 植付部を下ろすか、植付部フックレバーで固定する。
(5) エンジンなどの過熱部分を充分冷やす。
(6) くわえタバコなど火気厳禁。
以上の安全を確認して行なってください。
安全を確認せずに点検整備すると傷害事故を引き起こすことがあります。

給油・注油箇所の点検と補給

■燃料（無鉛ガソリン）の給油

燃料タンクの給油キャップを外して、必ずストレーナを通して無鉛ガソリンを給油してください。

燃料タンク容量	5.0ℓ



⚠危 険

燃料給油時には引火の恐れがありますので、火気を近付けないでください。

⚠警 告

(1) 燃料を補給する時は、エンジンを停止し過熱部分が充分冷えてから行なってください。燃料のつぎこぼしなどにより火災の原因になり大変危険です。
(2) 燃料をつぎこぼした時は、きれいにふき取ってください。エンジンを始動する時、引火し火災の原因となり大変危険です。

重要

- 燃料の保管は樹脂製タンクではなく、市販のガソリン専用容器を使ってください。これを怠ると燃料が変質し、エンジン不調の原因となります。

■エンジンオイルの点検と補給

毎日作業前には田植機を水平な所に置き、エンジンオイル量を点検してください。

> **⚠注 意**
>
> エンジンオイルの点検・補給は必ずエンジンを停止し充分冷えてから行なってください。これを怠ると、やけどをする恐れがあります。

●点検と補給

(1) エンジンカバーを次の手順で取り外します。
　①カバーガイド後を手で外側に開きながら持ち上げ、はめ込みを外します。
　②カバーを後方に引いてカバーガイド前のはめ込みを外します。
(2) オイルゲージを外し、上下刻線の間に油量があるか調べます。
(3) 「下限」以下の場合は、補給してください。
　オイルはAPI分類SE･SF級相当のSAE30または10W-30のオイルを使用してください。

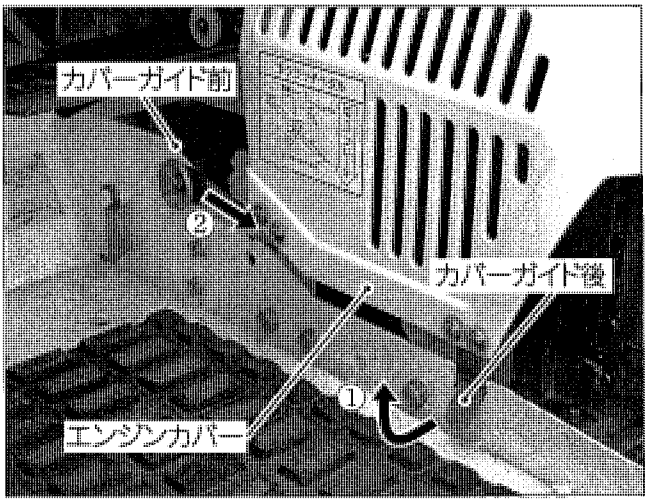
オ イ ル 量	0.55 ℓ

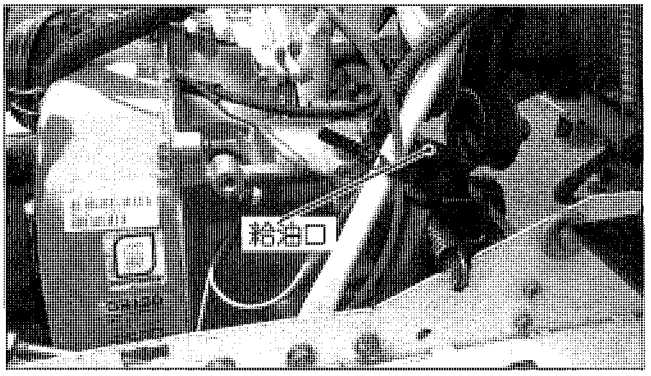
●交換のしかた

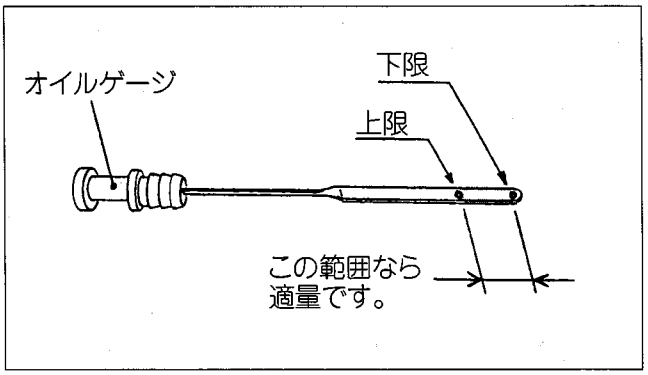
(1) エンジンを暖機運転後、ドレンネジを外してオイルを抜いてください。
(2) ドレンネジを締め付け後、給油口から適量を給油してください
(3) オイルゲージの上下刻線の間に油量があるか調べます。適量入っていればオイルゲージを確実に押しこんでください。

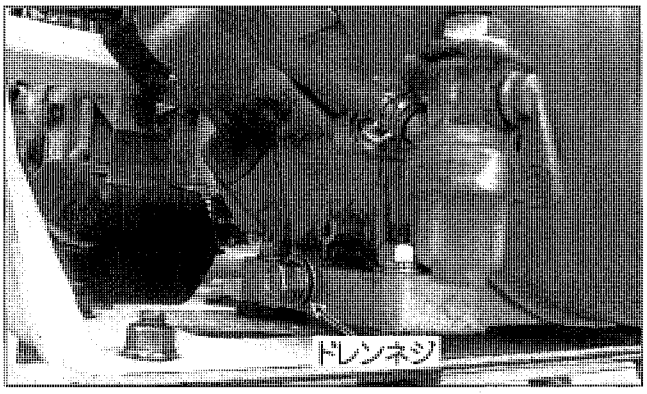
重要

- エンジンオイル補給後は、エンジンを始動させた後、いったんエンジンを停止させてオイルがレベルゲージ範囲内にあることを確認してください。





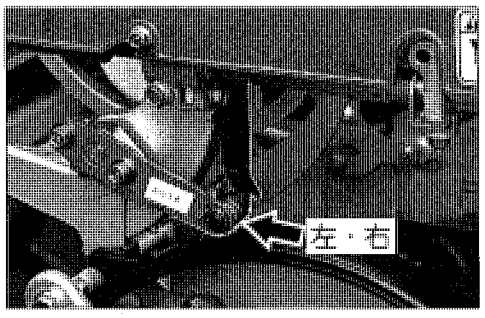




■注油箇所

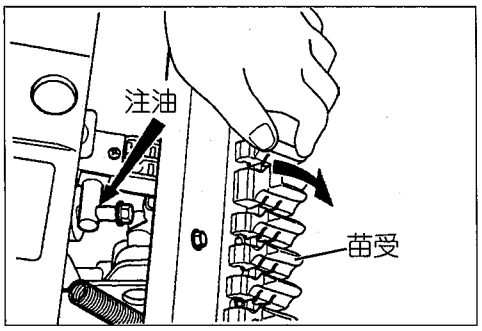
(1) 次の箇所は毎日注油してください。

①縦送り爪下左・右（4ヶ所）



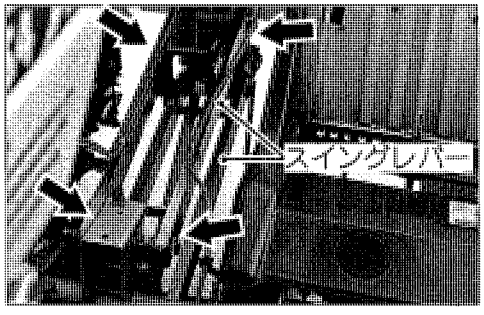
②上下送りバネ軸（2ヶ所）

苗受を上げた状態にして、手で苗受を下方向に押さえて注油してください。

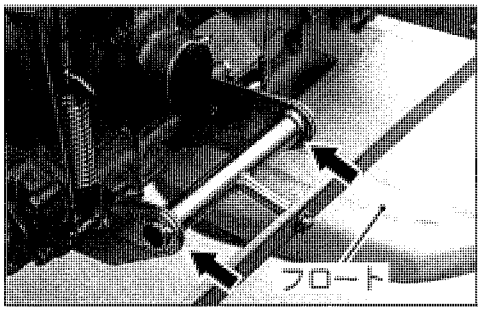


(2) 次の箇所はシーズン毎にグリス・油を注油してください。

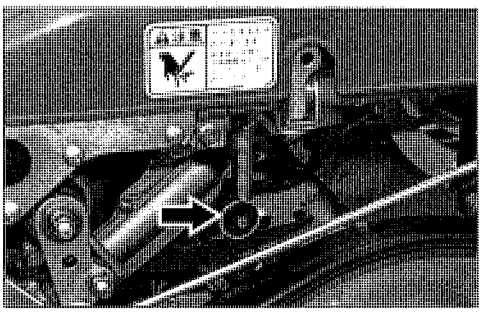
①スイングレバー支点（8ヶ所）



②フロート取付フレーム（2ヶ所）



③苗受ローラーの外周（グリス2ヶ所）

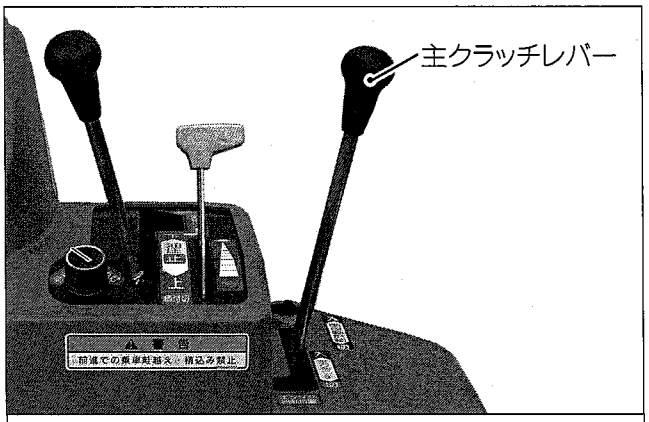


ペダル・レバーの点検

異常がある場合は、販売店に調整を依頼してください。

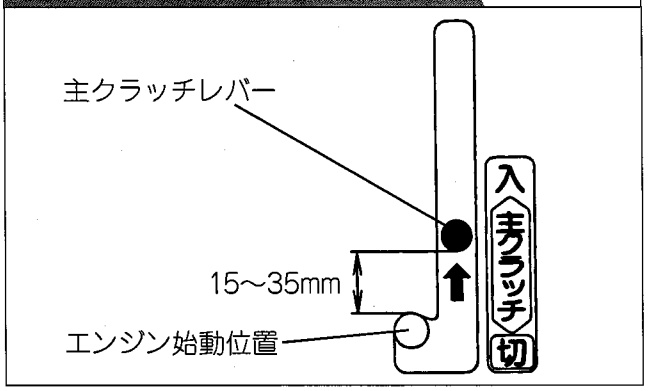
■主クラッチレバーブレーキの点検

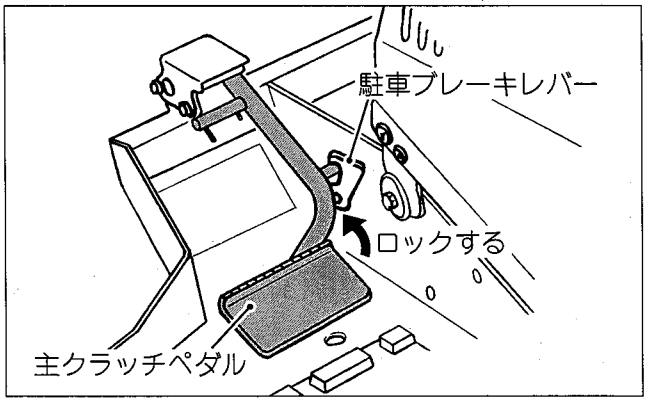
(1) 駐車ブレーキレバーのロックを外します。
(2) 主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にした時、ブレーキが作動し、田植機が動かないことを確認します。



■主クラッチレバー・主クラッチペダル（ブレーキ兼用）の点検

(1) エンジンをかけます。
(2) 主変速レバーを「PTO」にします。
(3) 植付クラッチレバーを「植付入」にします。
(4) 主クラッチレバーを前方に操作し、「エンジン始動位置」から15～35mmの範囲で植付部が動き始めるか確認します。
(5) 主クラッチペダルを踏み込んで、主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にした時、植付部が停止するか確認します。
(6) 主変速レバーを「中立」にして、主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にした時、エンジン回転全領域においてVベルトのつれ回りがないことを確認します。
(7) 主クラッチペダルを15～20kgで押さえた時、駐車ブレーキレバーがかけられるか確認し、レバーをかけた時に田植機が動かないことを確認します。



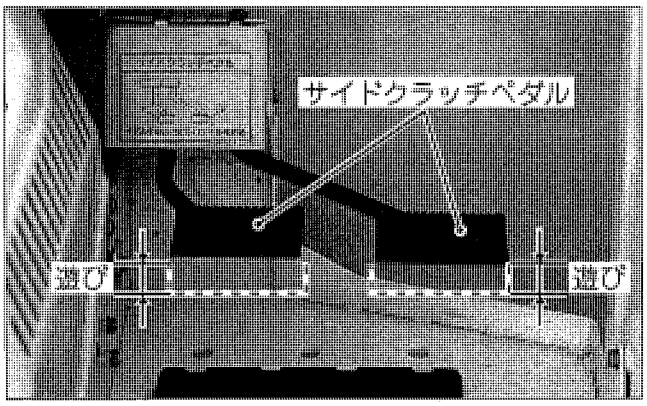


⚠警告

主クラッチレバー・主クラッチペダルの点検を怠ると、田植機が停止できず、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

■サイドクラッチペダルの点検

サイドクラッチペダルを軽く手で押さえ、左右それぞれのペダルの遊びが10～15mmになっているか確認します。



運転のしかた

⚠警 告

(1) 始動する前に安全カバー類が取り付けてあるか確認してください。
(2) 室内でエンジンを始動する時は、窓を開けて換気を充分に行なってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。
(3) エンジンを始動する時は、主変速レバー・主クラッチレバーやその他のレバー類の位置と周囲の安全を確認してから行なってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。
(4) エンジンを始動する時は、周囲の人に「声」をかけ合図してください。

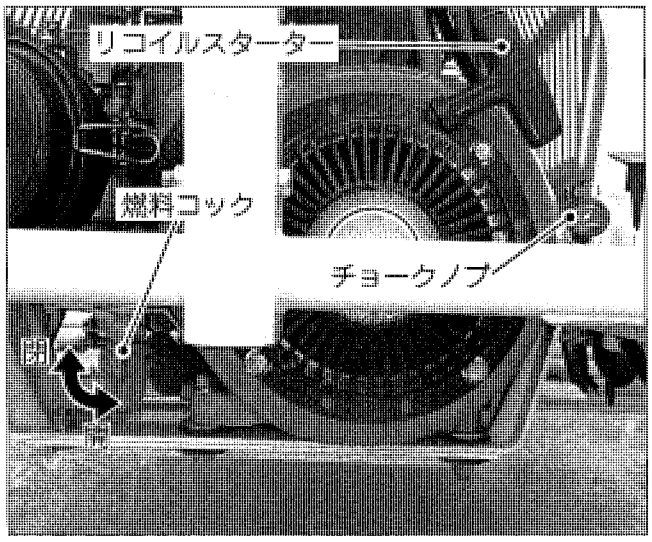
エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動

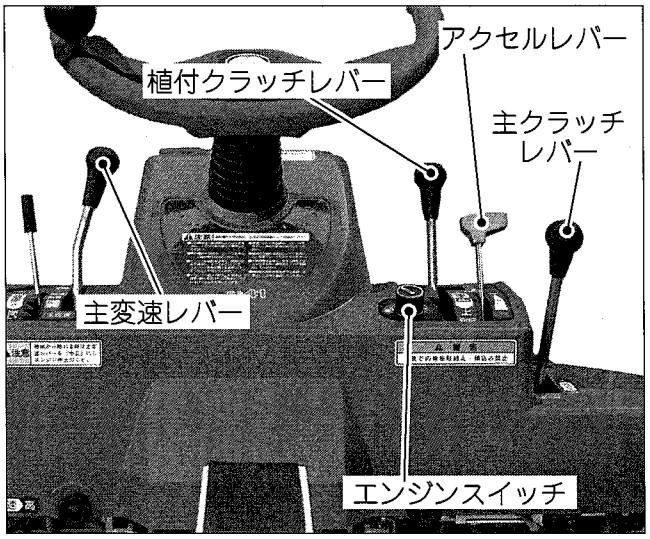
(1) 燃料コックを開きます。
(2) 駐車ブレーキがロックされていることを確認します。(21ページ参照)
(3) 主変速レバーを「中立」、主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にします。

重要

●主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にしないと安全装置が働いてエンジンは始動しません。



(4) 植付クラッチレバーを油圧「止」にします。
(5) アクセルレバーを中速程度にセットします。
(6) チョークノブを操作します。
〔エンジンが冷えている状態で始動する時はノブをいっぱい引いてください。〕
(7) エンジンスイッチを「運転」にします。
(8) リコイルスターターを勢いよく引張ります。
(9) エンジンが始動したらエンジンの回転調子を見ながらチョークノブを徐々に戻します。(「全開」位置) そのまま3～5分間暖機運転をしてから作業を始めてください。



重要

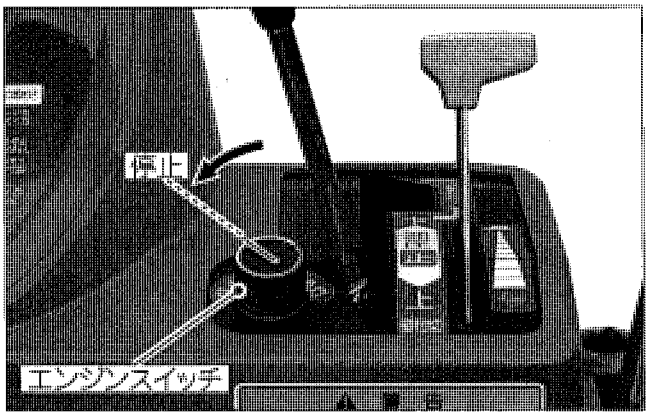
●燃料キャップのエアー抜きがつまっていると始動不良になりますので清掃してください。

■ならし運転について

(1) 毎年使用前には、必ず5分ほどエンジンを最低回転でならし運転をしてから使用してください。
(2) 機械の各部になじみをつけるために約20aほど使用するまではエンジンを高速回転にしないでください。

■エンジンの停止

(1) アクセルレバーを前方に押してエンジン回転を下げます。
(2) エンジンスイッチを「停止」にするとエンジンは停止します。



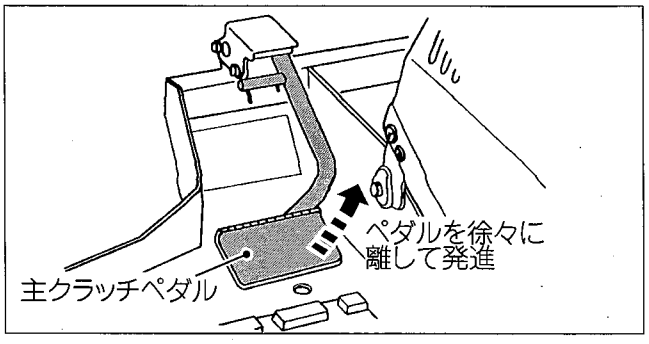
重要

- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。
- エンジンを停止させる場合には、植付部が下降しないようにフックを必ず掛けてください。

発進・停止・駐車のしかた

■発進のしかた

(1)主クラッチレバーが「エンジン始動位置」になっていることを確認します。
(2)走行場所に合わせて、主変速レバー・副変速レバーをセットします。
(3)主クラッチペダルを踏み込んで駐車ブレーキレバーを外し、主クラッチレバーを「エンジン始動位置」から主クラッチ「切」位置にします。
(4)主クラッチペダルから足を徐々に離して、ゆっくり発進します。

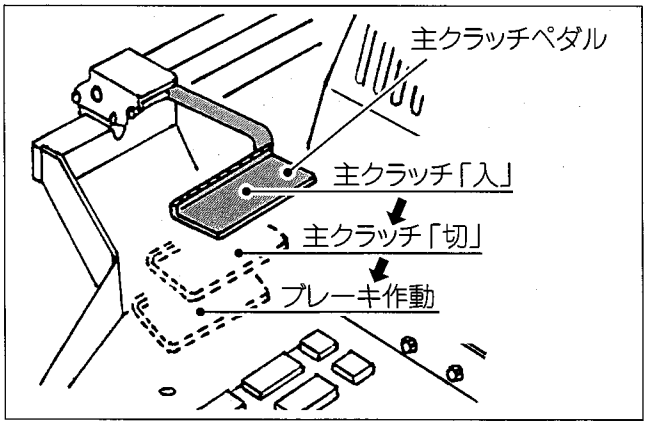


⚠警 告

(1)主クラッチペダルから急に足を離すと急発進しますので、徐々に離してください。
(2)発進する時は、周囲の安全を確認してゆっくり発進してください。
急発進すると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

■停止のしかた

(1)主クラッチペダルを踏むとアクセルレバーが自動的に「低速」になり、ブレーキが作動して停車します。
(2)急停車する場合は、主クラッチペダルをすばやく踏み込んでブレーキを確実に効かせます。

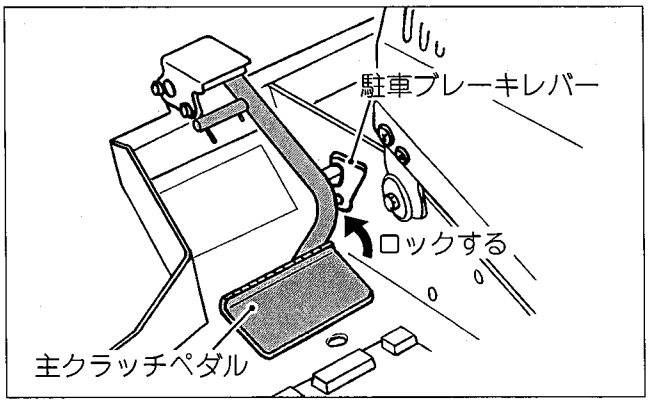


⚠注 意

急ブレーキは危険ですので、緊急時以外はさけてください。

■駐車のしかた

(1) 主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にします。
(2) エンジンを停止します。
(3) 主変速レバーを「中立」にします。
(4) 主クラッチペダルを踏み込み駐車ブレーキレバーでロックします。



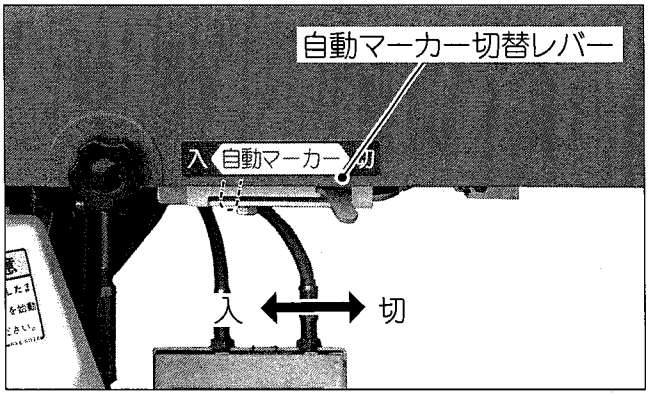
警 告

(1) 駐車時、植付部は下げておいてください。
(2) 坂道で駐車する場合は、車輪に必ず車輪止めをしてください。

移動・運搬のしかた

■移動のしかた

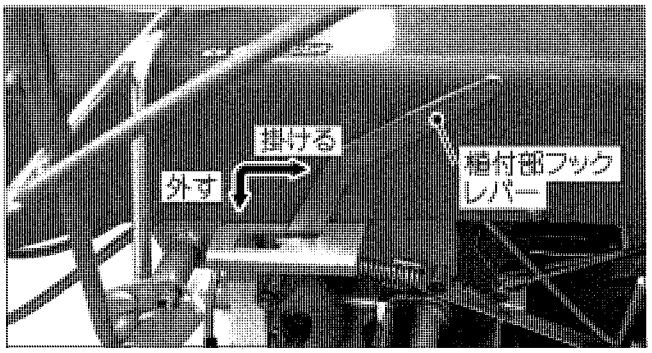
(1)自動マーカー切替レバーを「切」にします。



(2)植付クラッチレバーを「植付切」にして植付部をいっぱいに上げ、筋付マーカーも上げます。

(3)植付部フックレバーを「掛ける」にします。

(4)植付クラッチレバー（油圧操作と兼用）を「下」にして植付部フックで植付部を吊り下げ植付部フックが完全に引掛かっていることを確認してから植付クラッチレバーを油圧「止」にします。

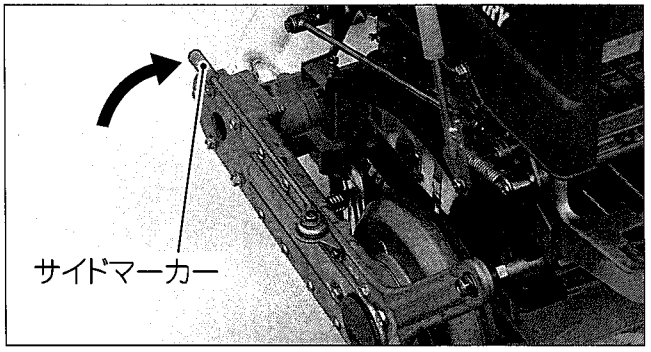


(5)サイドマーカーを収納します。

(6)押しネジをゆるめて筋付マーカーを内側に向け、押しネジを締め付けます。

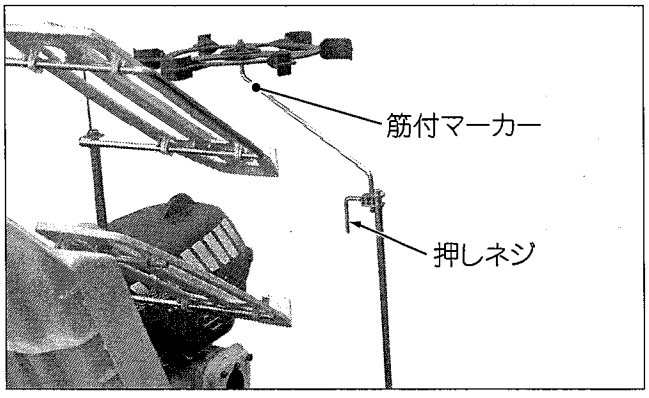
(7)移動場所に合わせて、主変速レバーと副変速レバーをセットします。

(8)駐車ブレーキレバーのロックが外れていることを確認して、主クラッチペダルから足を徐々に離してゆっくり発進します。



⚠警告

移動する時は、エンジン回転を落としなるべく低速で行なってください。
特に凹凸の激しい場所・地面の軟弱な場所・傾斜地等では慎重に移動してください。
これを怠ると、転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。



■トラックへの積み・降ろし

(1) 自動マーカー切替レバーを「切」にします。
(2) 植付クラッチレバーを「植付切」にして植付部をいっぱいに上げ筋付マーカーも上げます。
(3) 植付部フックレバーを「掛ける」にします。
(4) 植付クラッチレバー（油圧操作と兼用）を「下」にして植付部フックで植付部を吊り下げ植付部フックが完全に引掛かっていることを確認してから植付クラッチレバーを油圧「止」にします。
(5) サイドマーカーを収納します。
(6) 押しネジをゆるめて筋付マーカーを内側に向け、押しネジを締め付けます。
(7) 副変速レバーを「低」にします。
(8) 主変速レバーはトラックに積み込むときは「後進」、降ろすときは「作業」にセットします。
(9) アクセルレバーを低速にします。
(10) 直進性を見定めて、主クラッチペダルから足を徐々に離してゆっくり積み・降ろしします。
(11) 万一積み・降ろしの途中でエンストした場合は、すばやく主クラッチペダルを踏み込みブレーキを効かせ、徐々にブレーキをゆるめいったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行なってください。
(12) 万一に備えて田植機の周辺には人を近づけないでください。

〈アユミ板の基準〉

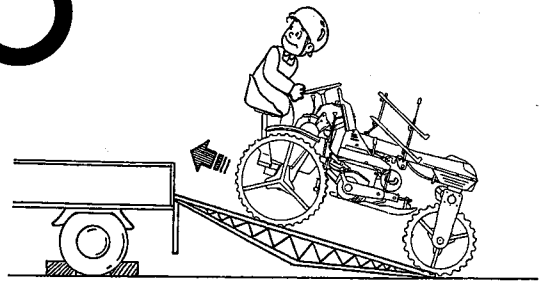
○長さ ：車の荷台の高さの4倍以上
○幅　 ：30cm以上
○数量 ：3枚
○強度 ：1枚の強度が400kg以上
○すべり止めのあるもの

⚠警 告

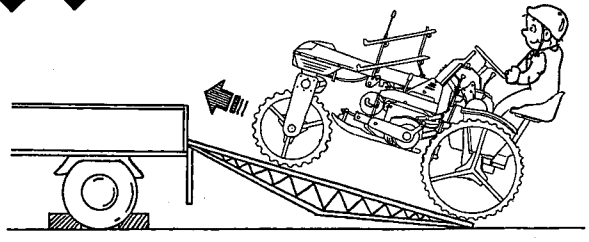
(1) 乗車して前進での積み込みは絶対にしないでください。機体前方が浮き上がり転倒事故の原因になり大変危険です。
(2) 積み・降ろし作業は副変速レバーを「低」、アクセルレバーを「低速」でゆっくり行なってください。
(3) 積み込むトラックのエンジンを停止し、変速は「1速」または「R」に入れて駐車ブレーキを掛け、車輪止めをして行なってください。
(4) 周囲に危険のない平たんで、地面の固い場所を選んで下さい。
(5) アユミ板は強度・幅・長さの充分あるスリップしないものを使用し、フックは荷台に段差のないようにまたずれないように確実に掛けてください。
(6) 積み・降ろし作業は誘導者を付けて、周囲の安全を充分確認して行なってください。また田植機の直前や直後には絶対に立たないでください。
(7) 積み・降ろし中は絶対にサイドクラッチペダルを踏まないでください。
(8) 積み・降ろし中は主クラッチペダルを踏まないでください。やむを得ずペダルを踏む場合は、ブレーキが確実に効くところまですばやく踏み込んでください。

以上の確認・注意を怠ると、転落事故の原因になり大変危険です。

○ 後進で積み込みします。

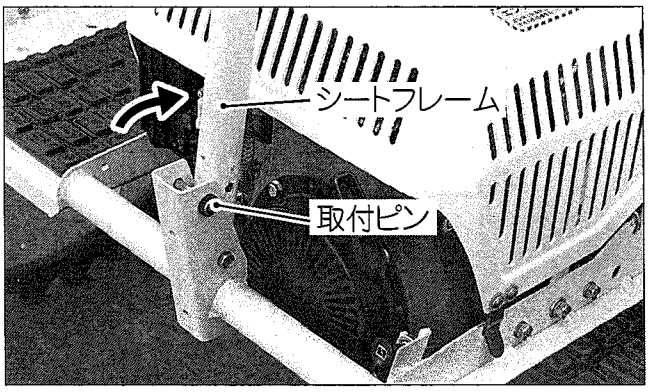


× 前進での積み込み禁止。



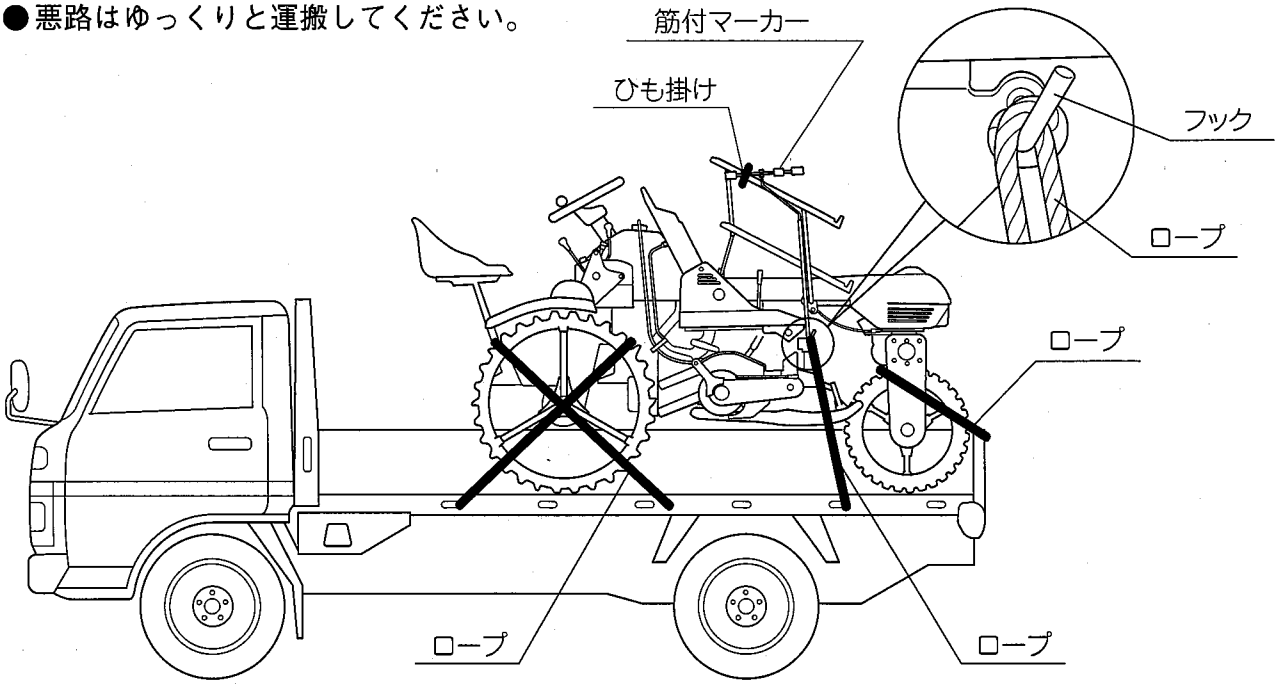
■運搬中の固定のしかた

(1)植付部フックで植付部を吊り下げます。(31ページ参照)
(2)エンジンを止め、燃料コックを閉めます。
(3)空箱入れを取り外します。
(4)前輪を車の後部に引きつけて、ロープで固定します。
(5)後輪をロープでたすき掛けにして固定します。
(6)植付部が跳ね上がらない程度にロープ掛けします。
(7)筋付マーカーをヒモ等で固定します。
(8)主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にします。
(9)主変速レバーを「中立」にします。
(10)主クラッチペダルを踏み込み駐車ブレーキレバーでロックします。
(11)座席が車の荷台に当る場合は、取付ピンを外してシートフレームを前方に倒します。



重要

- **植付部は強い力でロープ掛けしないでください。**
- **悪路はゆっくりと運搬してください。**

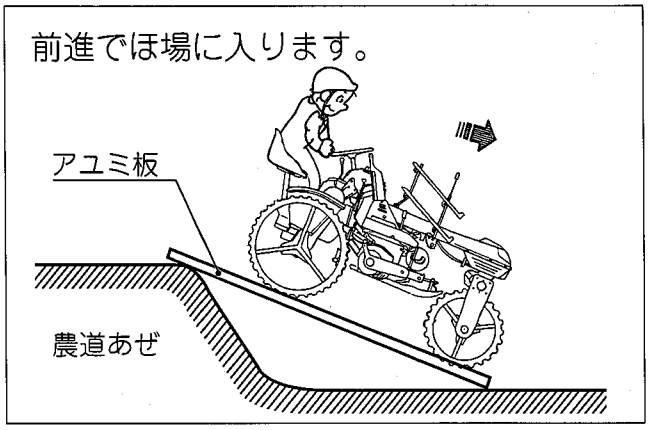


ほ場への出入りのしかた

⚠警 告

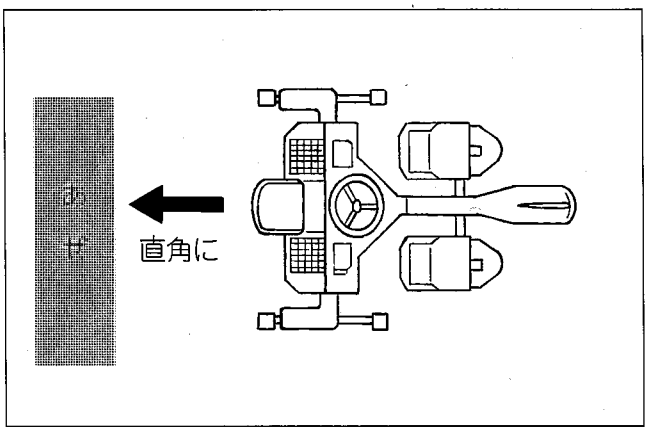
(1) ほ場との高低差が大きい時は、アユミ板を使用してください。
(2) 予備苗台および苗のせ台には苗をのせないでください。また田植機に荷物を積まないでください。

これを怠ると思わぬ事故の原因となり大変危険です。



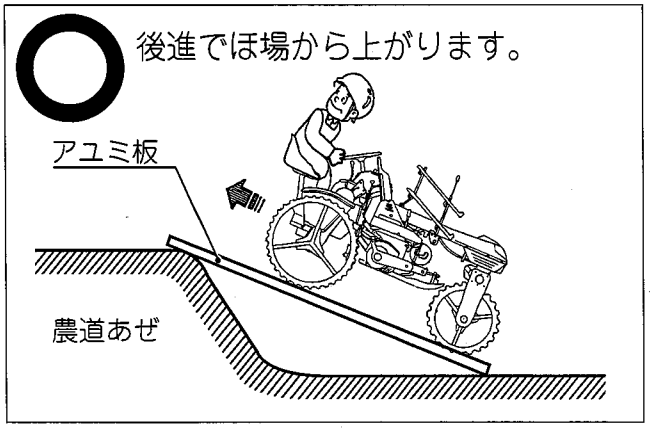
■ほ場への入りかた

(1)植付部を植付部フックに掛けて行ないます。
(31ページ参照)
(2)主変速レバーを「作業」、副変速レバーを「低」にセットして前進でゆっくりとほ場に入ってください。



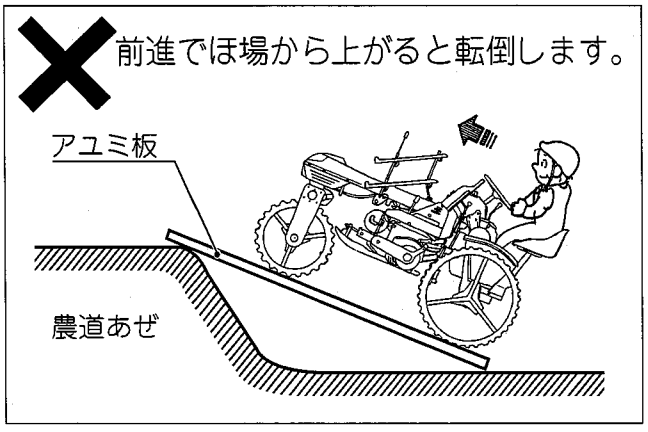
⚠警 告

ほ場への出入りやあぜごえをする場合には、アクセルレバー・副変速レバーを低速にして必ずあぜに直角にゆっくり進んでください。
斜めになるとスリップや横転の原因になり、大変危険です。



■ほ場からの出かた

(1)植付部を植付部フックに掛けて行ないます。
(31ページ参照)
(2)主変速レバーを「後進」、副変速レバーを「低」にセットして後進でゆっくりとほ場から出てください。



作業のしかた

本田植機が使用できる耕盤の深さは25cmまでです。

泥炭地・基盤整備田等で本田植機が沈むような耕盤の不安定な悪条件のほ場では使用できなかったり、田植機の早期破損の原因となります。また、本田植機の特性をよく知って、それにできるだけ合わせた苗およびほ場の準備をしていただくことが大切です。

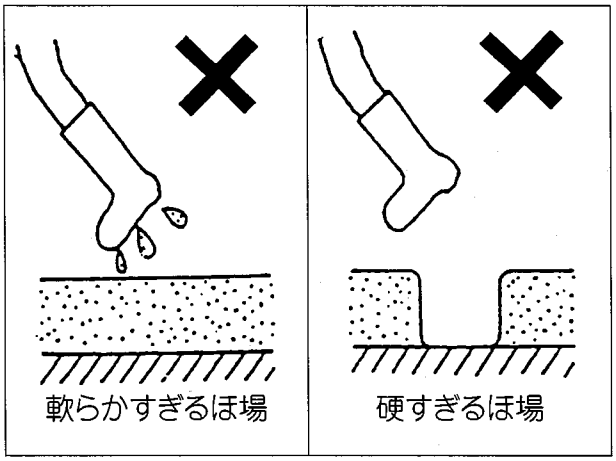
ほ場と苗の準備

■ほ場の準備

本田植機は耕盤深さ20cm以下の条件のよいほ場で最高速度の植え付けが可能です。ほ場が深くなるとおのずと低速で植え付けしなければなりませんので、高能率が発揮できるよう、ほ場条件を少しでもよくするよう心がけてください。

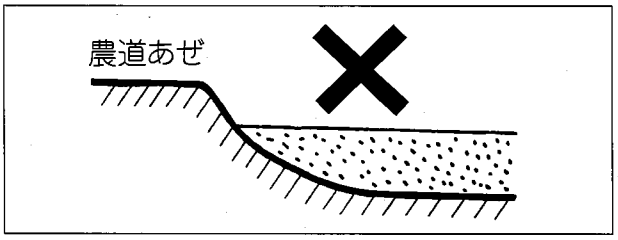
重要

- 次のようなほ場では、きれいな植え付けができない場合があります。
  - 耕盤までの深さが25cm以上の深いほ場。
  - 歩いても足跡がすぐ埋まるような軟らかいほ場や、足跡が完全に残るような硬いほ場。
  - 水深が5cm以上のほ場。
  - 切り株や稲ワラなどが表面に多量にあるほ場。
- 上記以外でも条件によってはきれいな植え付けができない場合があります。



重要

- 粘土質ほ場の場合、表土に水がないと走行不能・植付不良になりますから水を3～5cm程入れてください。
- あぜぎわが耕起不足で浅い場合、田植機のローリング量が不足し植え付けが乱れることがあります。



■無代掻き田植えのできるほ場

(1) ほ場の条件

水持ちのよいほ場。（漏水田はさける）

(2) ほ場の準備

①ほ場を充分乾かします。

②耕深は7～10cmとし、稲ワラはできるだけ土中にすき込みます。
2cm以下の土塊の割合が70%以上になるように砕土・均平をていねいに行なってください。

③入水をほ場条件により植え付けの2～10日前に行ないます。

④植え付け時の水深は慣行代掻き田植えより浅水にします。（ヒタヒタ水）

重要

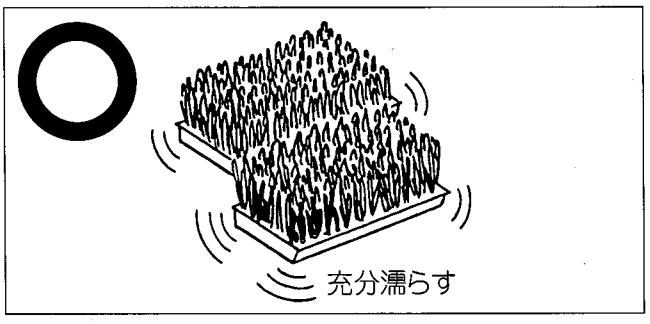
- 砕土率が悪いと欠株や浮き苗が多くなります。
- ほ場が乾かない等で砕土ができない時は、代掻き田植えに切換えてください。

■苗の準備

重要

● **苗は使用する前に必ずあぜぎわなどの水のある所につけて、ポットの中に水が充分浸透するまで濡らして植え付けを行ないます。特に根張りのよい苗は、充分つけておきます。**

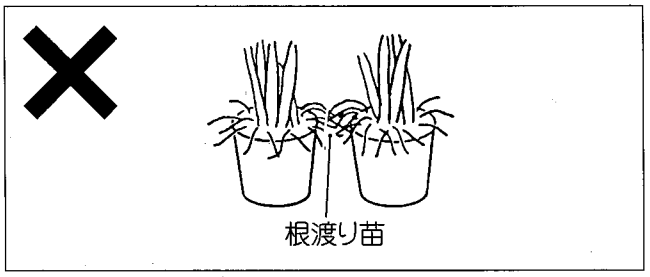
濡らして使用することが絶対条件ですが、非常に根張りの悪い場合や、ポットがくずれやすい土を使用している場合は、濡らしかたに注意してください。



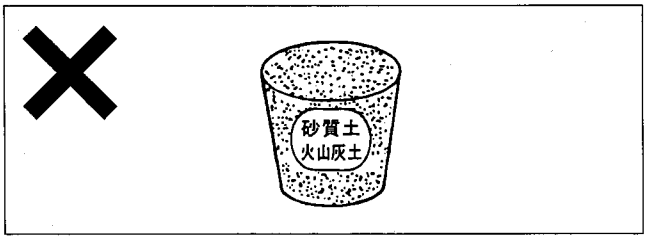
● **無代掻き田植えには、慣行代掻き田植えよりもポットのくずれにくい苗が必要です。植付不良の原因となります。**

● **特に次のような苗では、田植機による植え付けができない場合があります。**

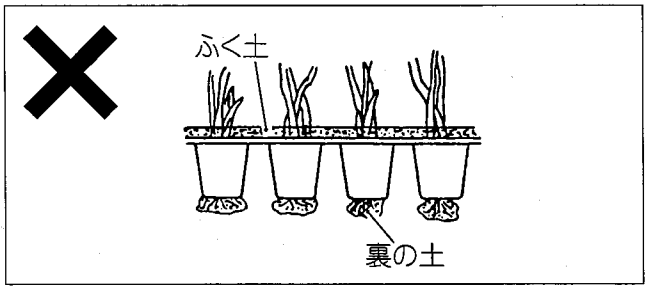
①根渡り苗は植え付けできないこともあります。



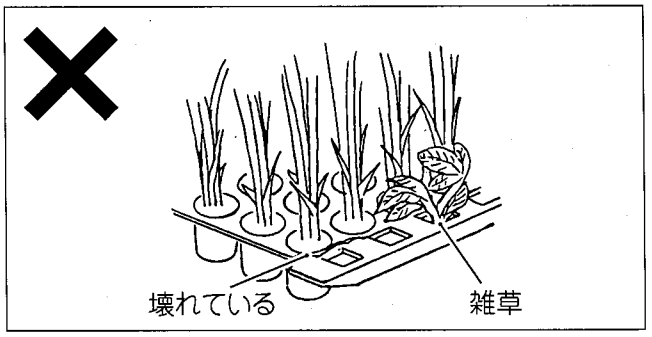
②砂質土・火山灰土、このような土を使用しますとポットがくずれやすく、植付不調となります。



③苗箱の上面に余分のふく土をかけないようにまた、必ず根切りネットを使用して育苗してください。余分なふく土や裏の土は洗い流してから使用してください。守らないと苗が植付部へ送り込まれなかったり、連続欠株となる場合があります。

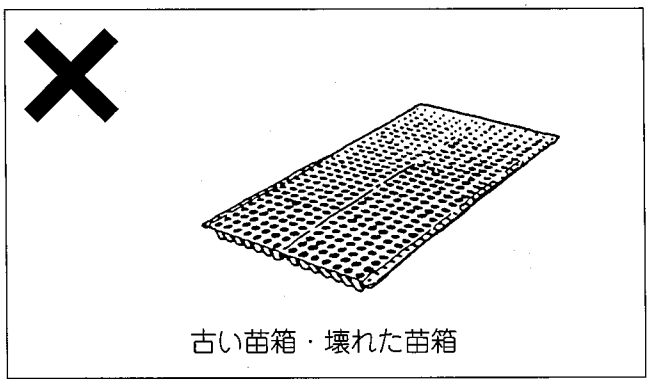


④箱のふちや角穴が壊れている苗箱は使わないでください。また、苗箱の角穴が土や雑草でふさがっている場合は取り除いてください。守らないと苗が植付部へ送り込まれなかったり、連続欠株となる場合があります。



⑤苗取り・運搬・苗の補給時などには、特に苗箱の角や耳部を破壊させないように取り扱いには充分注意して行なってください。

⑥10年以上経過した古い苗箱や新しくても保管状態のよくない苗箱は材質がもろくなっています。苗供給時、苗箱送り時に破損して苗箱の送りができなくなり連続欠株の原因となります。
古い苗箱は計画的に新しい苗箱に更新するようにしてください。


古い苗箱・壊れた苗箱

植付作業前の準備

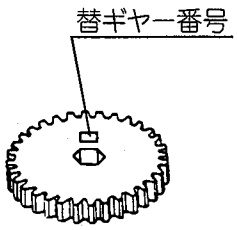
■植付株間の決めかた

替ギヤーの交換と切替ピンの位置により植付株間が変更できます。▨印が標準付属品で調節できる株間を示し、その他の株間は注文部品（64ページ参照）が必要となります。

出荷時株間 ↓

株間（cm）		13	14	15		16	17	18	20	22	24	26	30
植付株数（株/3.3㎡）		77	72	67		63	59	56	50	45	41	38	33
苗箱数（10a当たり）		52	48	45		42	40	38	34	31	28	26	23
替ギヤー番号	後	3	3	3	12	3	12	2	2	5	5	4	4
	前	10	2	10	11	2	11	3	3	6	6	8	8
切替ピン	押す			○		○	○		○		○		○
	引く	○	○		○			○		○		○	

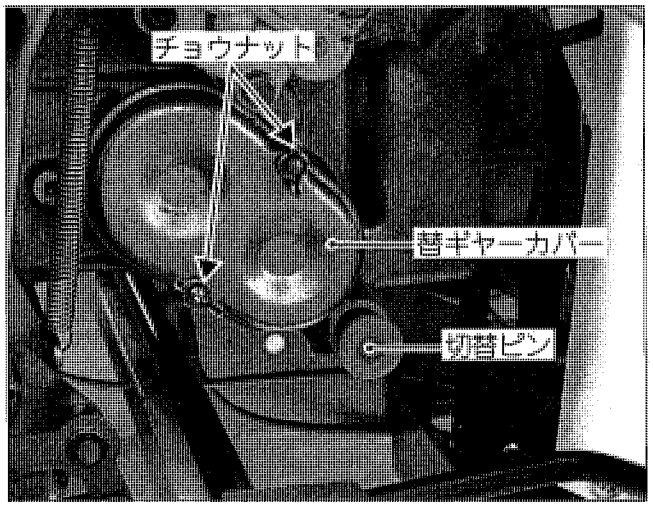
替ギヤー5、6は工具袋に入っています。



重要

- ●表中の株間は、標準車輪での一般的なスリップを想定して算出しています。
  ほ場条件（土質、深さ、水の有無）および植付速度によりスリップ率は変化しますので、植付け作業を開始して希望の株間になっているか確認してから連続作業してください。
- ●表中の苗箱数は、ほ場の条件によっていくぶん異なりますので、10a当たり2～3箱程度の予備苗を準備することをおすすめします。
- ●無代掻きほ場では慣行の代掻きほ場より株間が少し広くなりますので、確認の上、調節してください。

■替ギヤーの交換・切替ピンの切り替えかた



(1) 主変速レバーを「中立」にします。
(2) チョウナットを取り替ギヤーカバーを外し、希望の植付株間のギヤーと交換します。
(3) 替ギヤーにグリスを塗り、替ギヤーカバーをしっかりと取り付けます。
(4) 切替ピンを押す、または引いて希望の植付株間になるようにします。

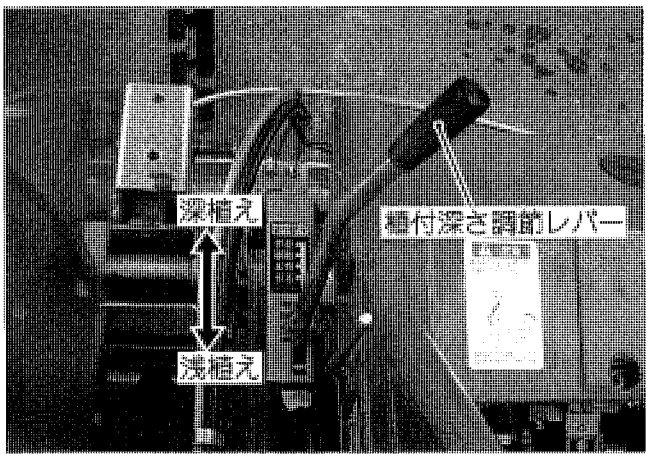
> **⚠注 意**
> 替ギヤーの交換・切替ピンの切り替えをする時はエンジンを止め、冷機状態で行なってください。
> これを怠ると傷害事故の原因になります。

重要

- 切替ピンが確実に切り替わっておらず、中間位置になった場合、前進はしますが植付部は動きません。

■植付深さの調節のしかた

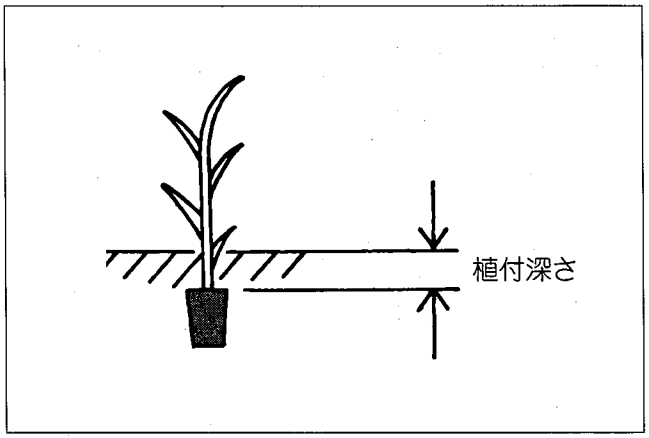
植付深さ調節レバーのセット位置を変えることにより植付深さは4段階に選べます。



> **⚠注 意**
> 植付深さの調節はエンジンを停止して行なってください。これを怠るとケガをする恐れがあります。

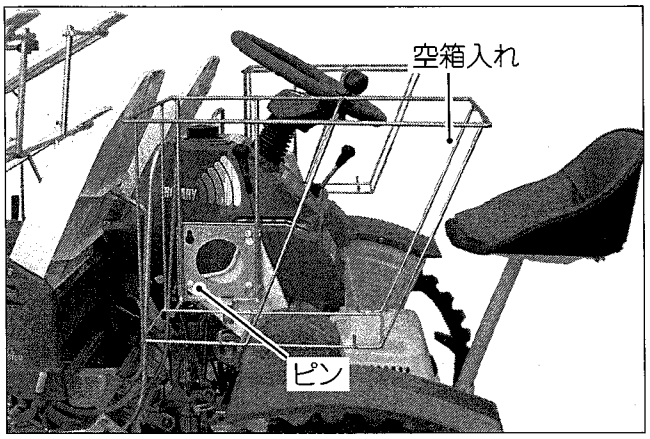
重要

- 調節する時は、植付部を表土から浮かして行なってください。
- 植付深さは必ずほ場で試し植えをして確認してください。
- 浅植になるほど、よいほ場条件が必要です。特に「極浅」は表土がトロトロの所や水深3cm以上の所では、浮き苗・ころび苗になり使用できません。



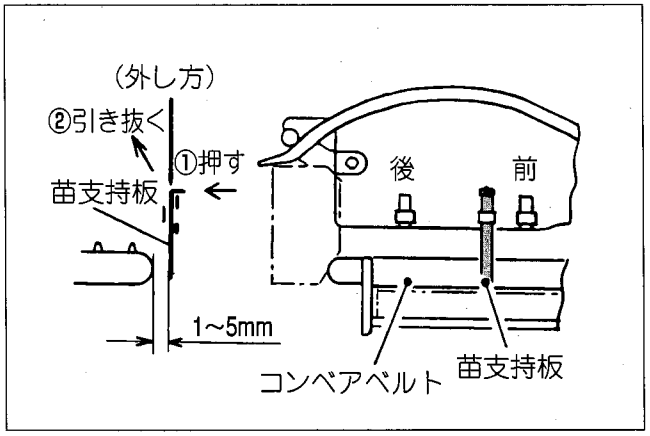
■空箱入れの取り付け

(1) 空箱入れには左右がありますので、まちがわないように取り付けてください。
(2) 取付座のピンに空箱入れの穴を合わせて差し込みます。



■苗支持板の調節のしかた

苗支持板は植付爪で苗を取るわずかの間、苗を支持する役目をしています。
(1) 苗丈が8cm以下の場合は前の位置にします。
(2) 苗丈が25cm以上の場合は後の位置にします。



⚠注 意

苗支持板の調節はエンジンを停止し手袋をして行なってください。これを怠るとケガをする恐れがあります。

重要

- 苗支持板を何かに引掛けたりして大きく変形させた場合は、外して直してください。変形していると植付姿勢が悪くなります。

植付作業の手順

(1)ほ場に入り主変速レバーを「中立」、主クラッチペダルを踏み込んで主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にします。
(17・18ページ参照)

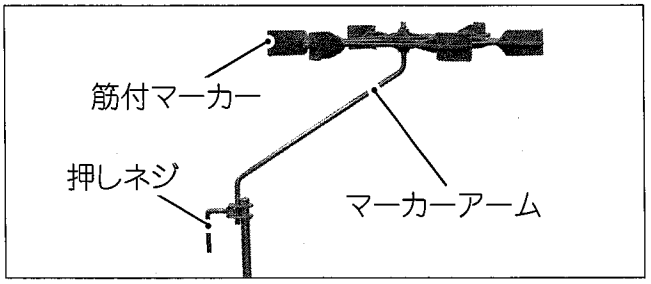
> **注 意**
>
> 運転席を離れる時、運転操作をしない時は主変速レバーを「中立」、主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にしてエンジンを停止してください。
> これを怠ると思わぬ事故の原因となります。

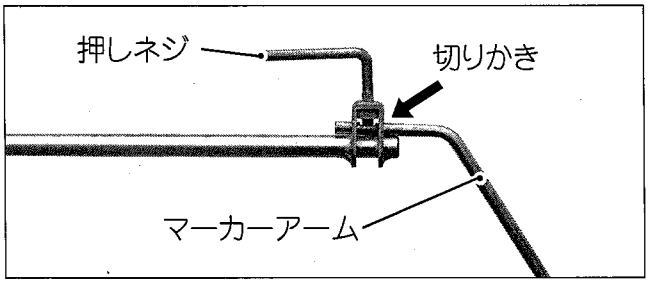
(2)筋付マーカーの押しネジをゆるめ、筋付マーカーを外側に向けてマーカーアームの切りかきを押しネジで確実に締め付けます。
(3)サイドマーカーを左右とも作業位置にします。
(4)あぜぎわで予備苗台に苗をのせます。空箱入れにも4枚のせることができます。
苗は上の段からのせ、下の段から使ってください。
これを怠ると苗の葉先が傷んだり、ポットから苗が抜け落ちることがあります。
(5)植付部の苗のせ台に苗箱をのせるだけでセットは完了です。

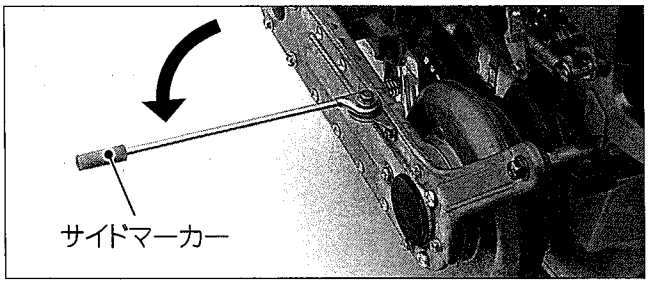
重要

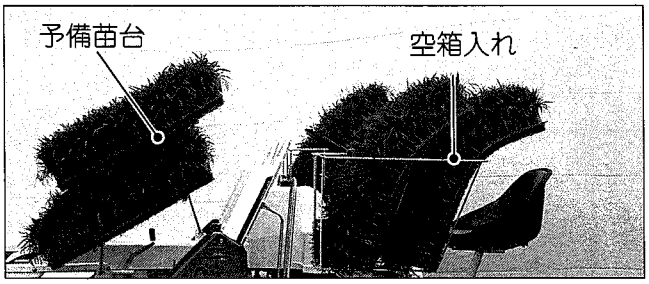
- **植付部の状態によって苗箱が苗のせ台の上方で止まったり奥まで入ったりしますが、上方で止まった時無理に押し込まないでください。植付不調の原因になります。**

(6)主変速レバーを「作業」、主クラッチペダルを操作して植え付けを始める所へ移動してください。
(7)自動マーカー切替レバーを「入」にします。
(8)主変速レバーを「PTO」にします。
(9)植付部フックを外し、植付クラッチレバーを「下」にするとフロートが接地して植付クラッチが入り、筋付マーカーが片側下がります。

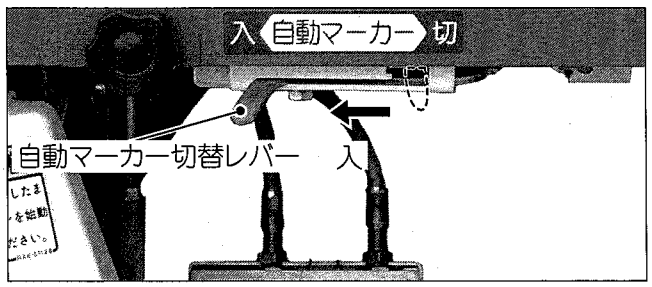


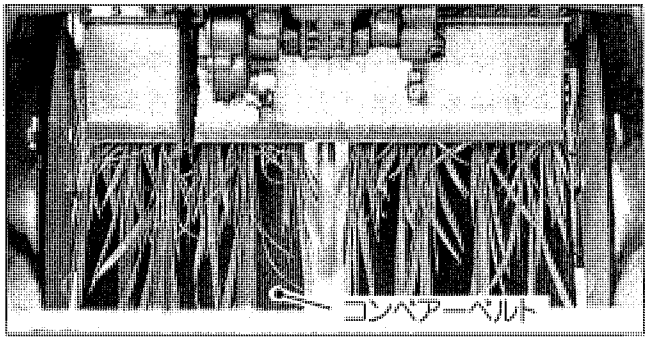






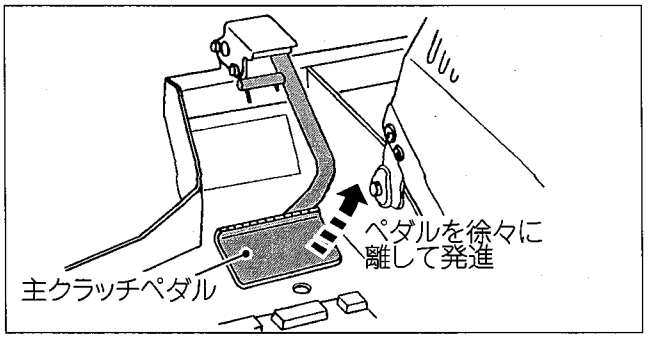




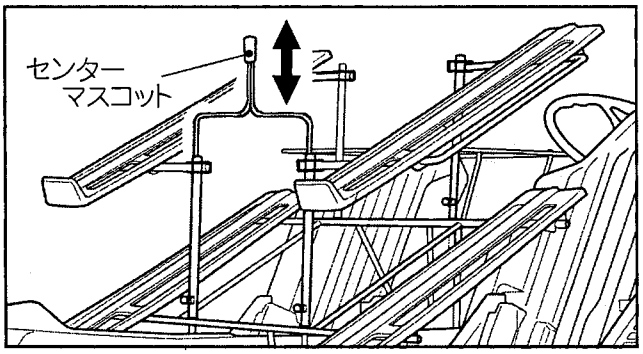


重要

- 植える側と反対側の筋付マーカーが下がった場合は、もう一度植付クラッチレバーを「植付切」にした後、手動で「植付入」にしてください。
- 次のような条件では植付クラッチや筋付マーカーが自動で「植付入」にならない場合がありますので、手動で「植付入」にしてください。
  - ●植付深さが「極浅」の場合。
  - ●表土がトロトロの軟らかいほ場。
  - ●フロート前のピン穴が下の場合。
  - ●油圧感度調節レバーを「硬い」で使用する場合。
  - ●機体が後ろ下がりになる場合。



(10)主クラッチペダルを踏み込み、足を徐々に離して主クラッチ「入」にすると植付部が回って苗箱が自動的に送り込まれます。
コンベアーベルトの上に苗がのった時に、主クラッチペダルを踏み込んで主変速レバーを「作業」にします。



(11)主クラッチペダルをゆっくり操作して植え付けを開始します。

(12)発進時エンストする場合には、アクセルレバーで少しエンジン回転を上げ、主クラッチレバーで発進してください。

(13)植付状態を確認して「油圧感度調節レバー」と「植付深さ」を適正位置にします。

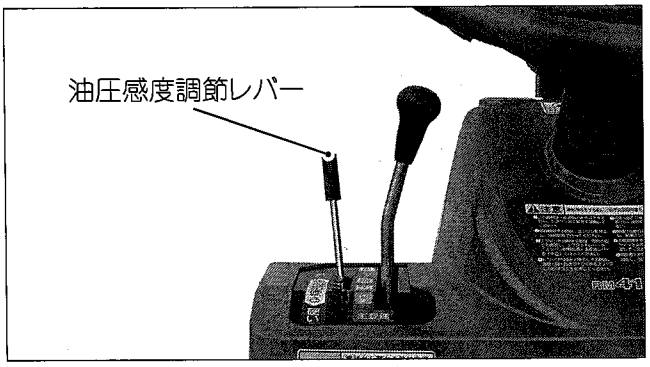
(14)センターマスコットを見やすい適当な高さに調節して筋付マーカーでつけたマーカー跡と合わせて植え進みます。

重要

- 主クラッチペダルから急に足を離すと、エンストすることがありますので徐々に足を離してゆっくり発進してください。
- 深いほ場等で主クラッチペダルをゆっくり操作してもエンストする場合は、副変速レバーを「低速」にしてください。
- 植付作業を開始して、各調節が希望する値になっているか確認してから連続作業を行なってください。
- ほ場の状態・苗の条件によって植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ、最もよい速度を選んでください。
- 次のような条件の時、植え傷み苗になるなることがあります。このような場合は植付速度を落としてゆっくり作業を行なってください。
  - ●貧弱な苗
  - ●根張りが悪い苗
  - ●ガイド板が変形している。（広くなった時）
  - ●苗支持板が変形・欠落している。
- 無代掻き田植えの場合は、慣行代掻き田植えより「油圧感度調節レバー」を少し「硬い」側にすると安定した植え付けができます。

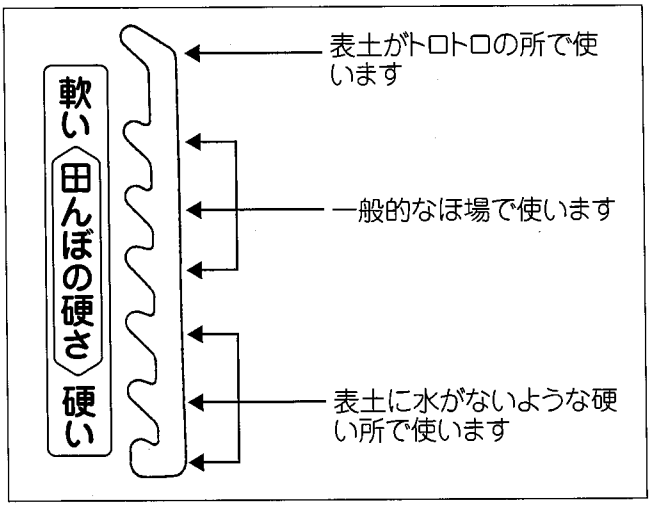
■油圧感度調節のしかた

(1) 感度は油圧感度調節レバーを前後にずらすことにより7段階に選べます。
(2) フロートが泥を押す場合はレバーを前方へ移動させます。
(3) フロートでほ場の凹凸をならしきれなかったり、フロートが浮く場合はレバーを後方へ移動させます。



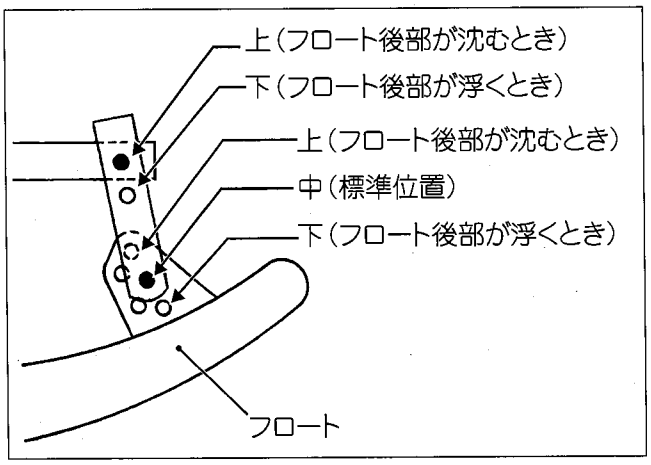
重要

- フロートの泥押しをさけるため油圧感度調節レバーをいちばん「軟い」にすると、ころび苗が出る場合があります。この場合は植付深さ調節レバーをもう一段「深い」側に動かしてください。



■フロート姿勢の調節

(1) ほ場条件によりフロート前部で泥を押したり、フロート後部が浮いて浅植になる場合、フロート取付ピンを下の穴に取り付けてフロート姿勢を調節します。
(2) ほ場条件により機体が後ろ下がりになりフロートが前上がりになると、フロートの感知が鈍くなったりフロート後部が沈むようになるので、上の穴に取り付けます。



⚠注 意

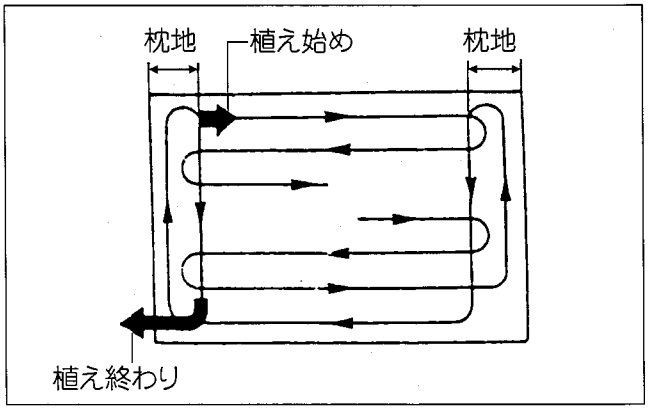
フロート姿勢の調節を行なう時は、必ずエンジンを停止してください。
これを怠ると思わぬ事故の原因となります。

重要

- 必ず左右同じ穴にしてください。

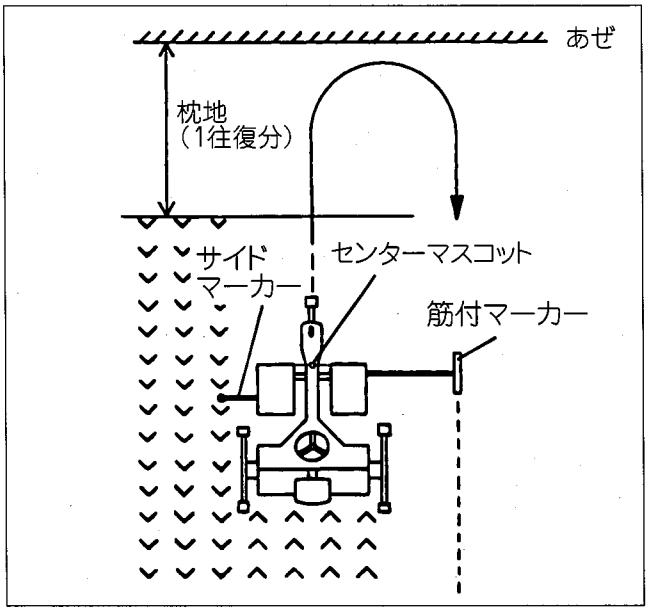
■ほ場での植えかた

枕地は、あらかじめ1往復(8条)分を残して植え付けすると能率的です。



■旋回のしかた

(1)あぜに近づいたらスピードを下げ、植付クラッチレバーを「植付切」にし、旋回する側のサイドクラッチペダルを踏んでから、ハンドルを操作し、旋回します。
(2)旋回後、サイドマーカーとセンターマスコットで条間を合わせて、植付クラッチレバーを「植付入」にします。
(3)次に植える側の筋付マーカーが下がったのを確認して、センターマスコットと1行程前に筋付マーカーでつけたマーカー跡を合わせて植え進みます。

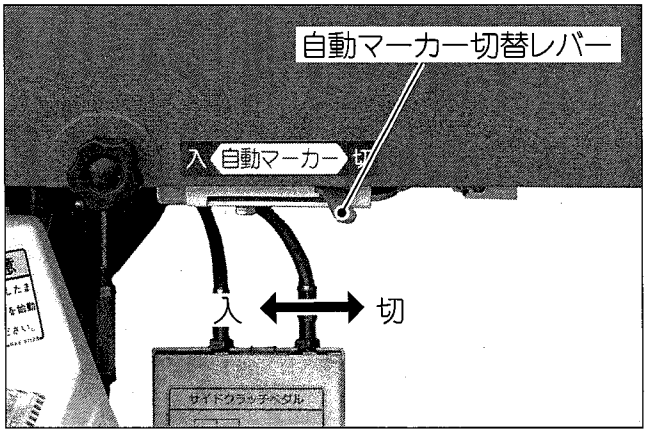


重要

- **耕盤の不安定なほ場での後進はできるだけさけ、やむなく行なう時はアクセルレバー・副変速レバーとも「低速」にし、ゆっくり後進すると前輪の沈み込みが少なくなります。**

■筋付マーカーの使いかた

(1)自動マーカー切替レバーを「入」にすると植付クラッチレバーの「入・切」と連動して筋付マーカーが左右交互に自動で上がり下がりします。
(2)自動マーカー切替レバーを「切」にして植付クラッチレバーを「植付切」にすると、あぜぎわや枕地で筋付マーカーを使用しない場合に上がった状態で保持されます。

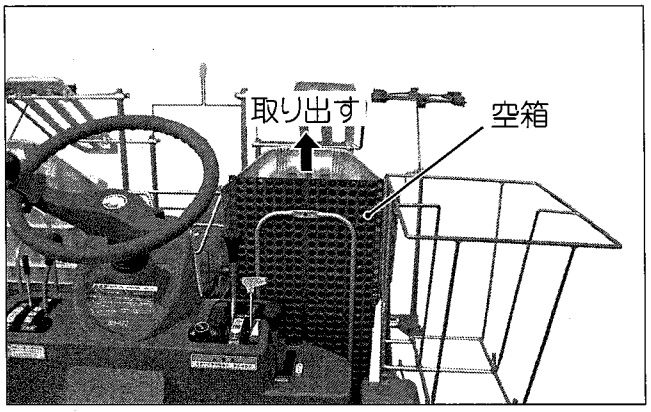


重要

- マーカーが上がった状態で無理に筋付マーカーを外側に引張ると、バネが伸びて上がりきらない原因となりますのでしないでください。
- 筋付マーカーを左右とも下ろした状態にするには、片側を下ろしたのち、もう一度植付クラッチレバーを約半分引張ってからいっぱい前へ倒します。
- 水が多くて筋が付かない場合は、植えた側へ下ろすとサイドマーカーとしても使用できます。

■苗の補給のしかた

植え付けの途中でベルが鳴ったら、主クラッチペダルを踏み込み、主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にして空箱を取り出してから苗の補給をします。



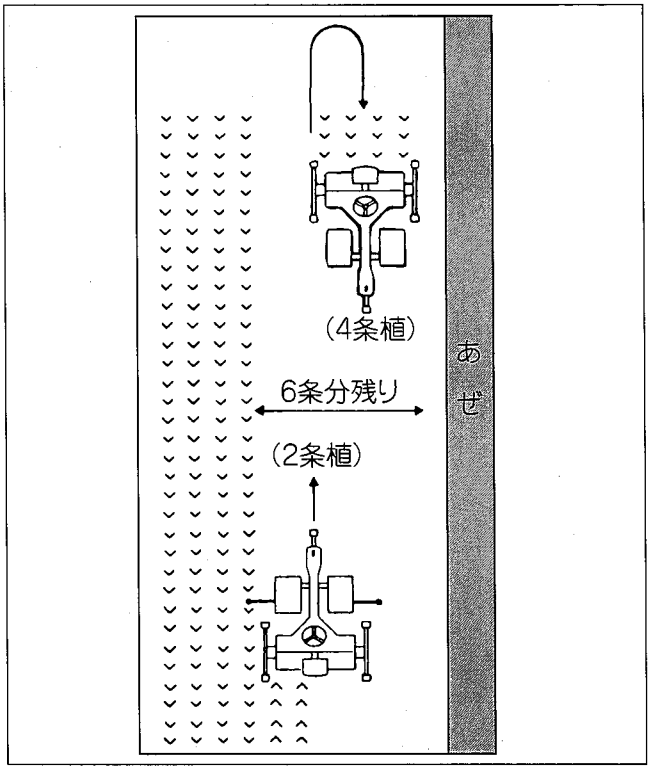
重要

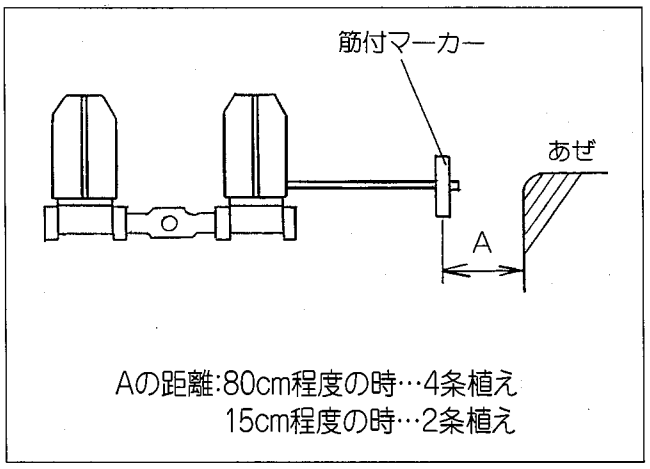
- 苗の補給はベルが鳴ってから行ないます。（ベルは残り苗7列と4列の時に2回鳴ります。）
- ベルが鳴る前に苗の補給を行なうと、植付不調、苗箱の破損の原因となります。
- 苗箱を確実に供給口にセットしてください。



■植えじまいのしかた

(1) 植え付けの最終工程(あぜぎわでの植え付け)を使用田植機の条数に合わせるためには、前行程で植付条数の調整をする必要があります。





Aの距離:80cm程度の時…4条植え
15cm程度の時…2条植え

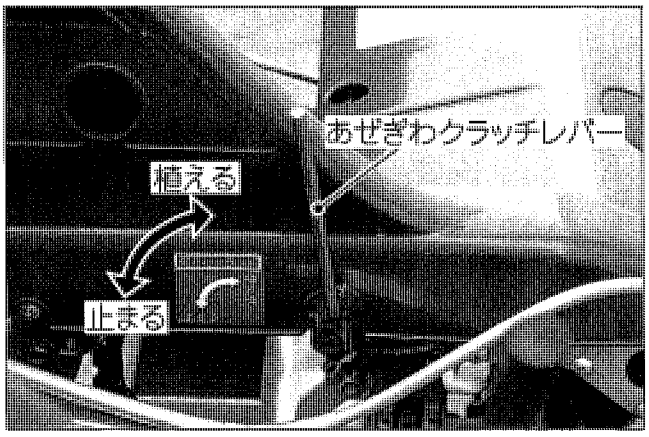
(2) 最終行程での植付条数の決めかた

①サイドマーカーで条合わせした後、筋付マーカーを出して植付条数を決めます。

②各植付部のあぜぎわクラッチレバーを「止まる」にすると、各2条の植え付けを停止することができます。

⚠注 意

あぜぎわクラッチレバーの操作を行なう時は必ずエンジンを停止してください。

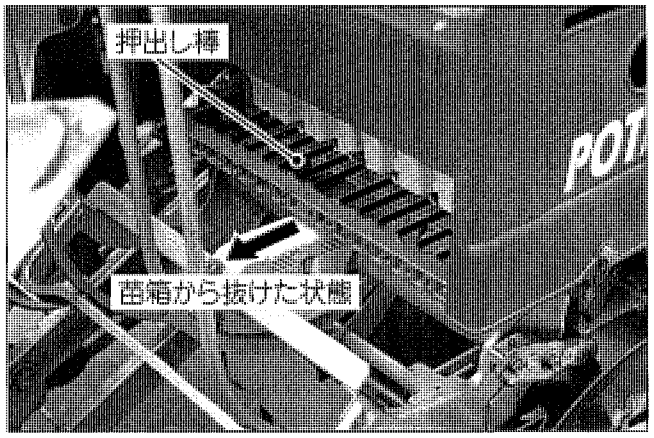


重要

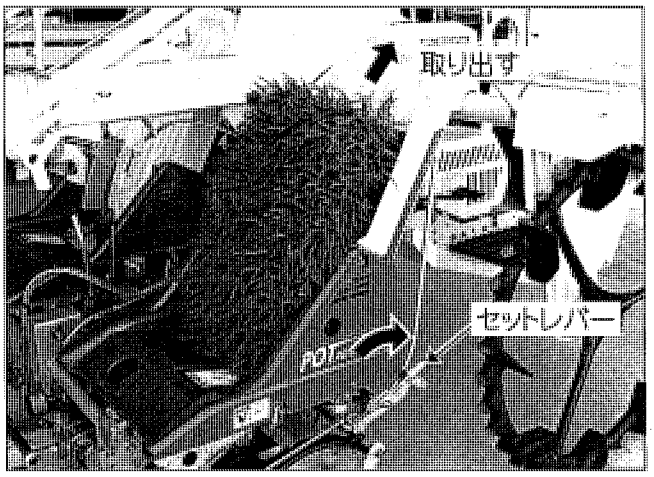
- あぜぎわクラッチを「止まる」の操作後、送り途中の苗を14株程度植え付ける場合があります。
  また「植える」の操作後、植付爪に苗が出てくるまで待ってから植え付けてください。

■残り苗の取り出しかた

(1) 植付作業が終わり、苗のせ台に残った苗を取り出す場合は、押出し棒が苗箱から抜けた状態にしてエンジンを停止してください。



(2) セットレバーを後方に倒し、苗箱を苗のせ台にそわせて引張り上げます。

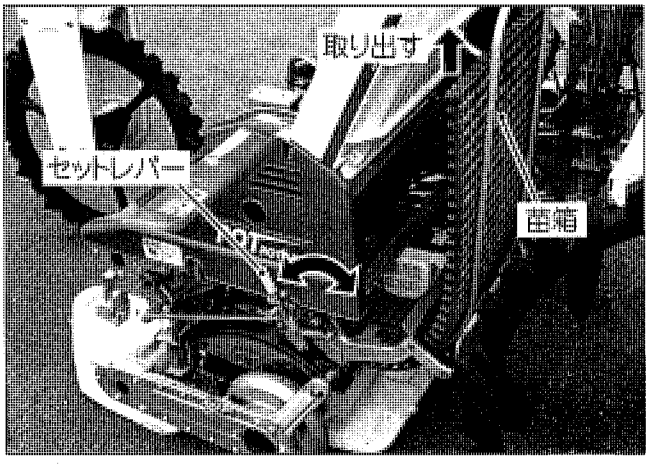


⚠注 意

苗を取り出す時は、必ずエンジンを停止して行なってください。

重要

- 残り苗が少なく上に引張れない場合は、セットレバーを前後に動かして苗箱を送り、空箱ガイドより取り出します。
- セットレバーの操作は、押出し棒が苗箱から抜けている状態で行なってください。
  苗箱が破損する恐れがあります。



■植付部の水洗いのしかた

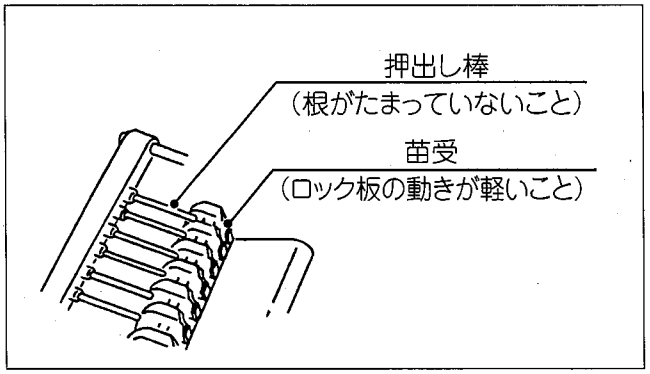
苗受・押出し棒・コンベアーベルト・ガイド板・苗のせ台・縦送り爪・ストッパー爪等をよく水洗いしてください。

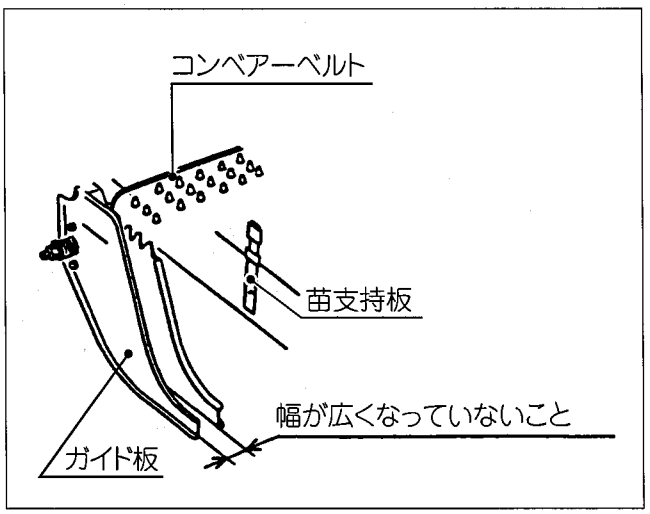
⚠注 意

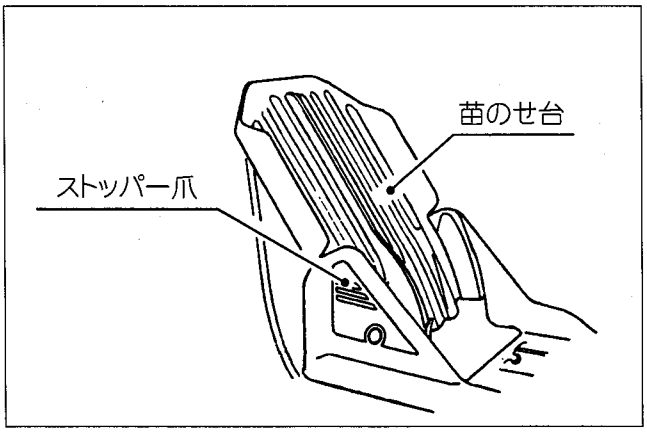
植付部の回転部・作動部に手を入れる場合は必ずエンジンを停止してください。これを怠ると大変危険です。

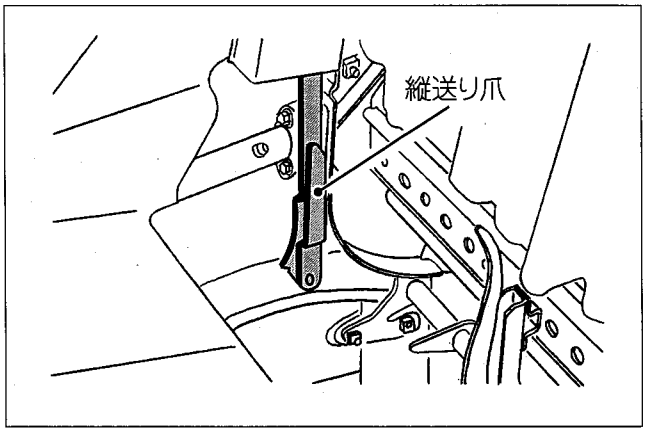
重要

- 苗支持板を変形させないように注意してください。植付不良の原因となります。
- ほ場を変える時・休憩時・食事の時などの前には必ず水洗いしてください。
- ガイド板に泥・異物がつまり幅が広くなると植え傷みの原因となるので、きれいに洗ってください。（変形している場合は修正または交換してください。）





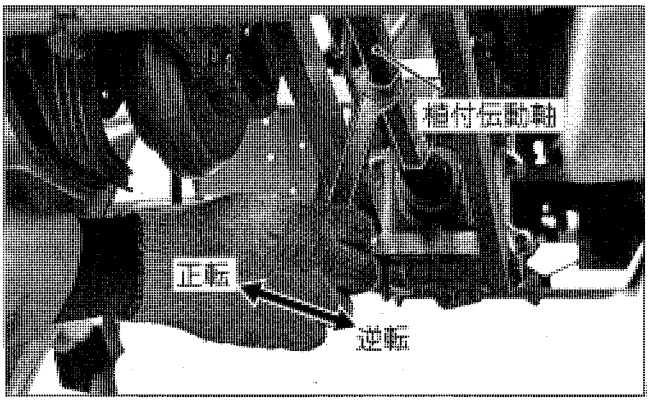




■安全クラッチが作動したとき

植付作業中、植付部が止まりカチカチ音がする場合は安全クラッチがはたらいていますので次の処置をしてください。

(1) ただちに主クラッチペダルを踏み込み停止します。
(2) 主変速レバーを「中立」にし、植付部を上昇させてフックで吊り、エンジンを停止します。
(3) 植付クラッチレバーを「植付入」にします。
(4) 植付爪・ガイド板等に石等がかんでいないか確認します。
(5) 植付伝動軸の四角パイプ部にスパナをかけ、逆転方向に回して石等を取り除きます。
(6) その後、正転方向に軽く回転するか、植付爪やガイド板が変形していないか確認してから植え付けを再開してください。



⚠注 意

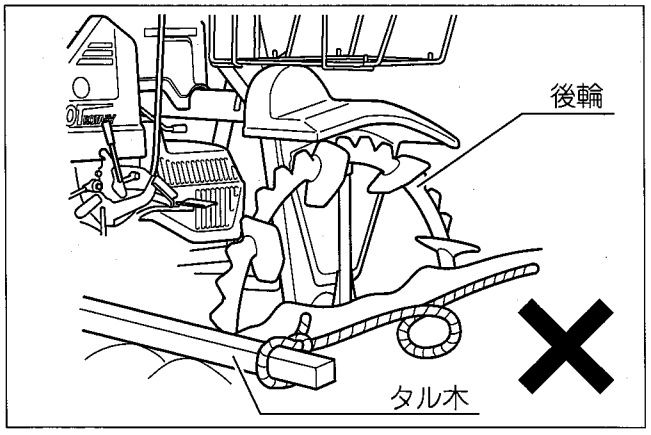
安全クラッチの確認時は、必ずエンジンを停止して行なってください。これを怠ると大変危険です。

重要

●植付爪やガイド板が曲がったり破損した時は、お買い上げいただいた販売店または農協(JA)にご連絡ください。

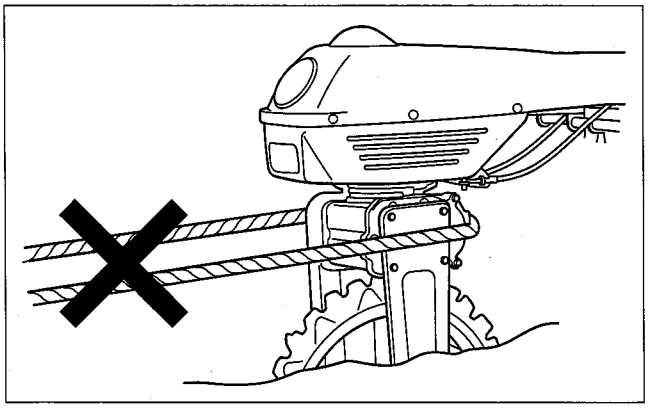
■湿田での脱出のしかた

(1) 予備苗を全部降ろして田植機を軽くします。
(2) 車輪に負担をかけないよう、植付クラッチレバーを「植付入」、油圧感度調節レバーを「硬い」にして植付部が常に表土に下りているようにしておきます。
(3) 前輪の前の泥をできるだけ除き、ジャッキアップして前輪の下にアユミ板をひき、ゆっくり自力で脱出させてください。



重要

●本田植機が使用できる耕盤の深さは25cmまでです。25cm以上のほ場では植え付けできなかったり、早期破損の原因となりますので使用しないでください。
●深いほ場で沈んで前進できなくなった場合は、絶対にトラクター等で引張らないでください。田植機が破損する恐れがあります。



点検整備

定期的な点検整備

⚠警告

点検整備する時は、次のことを守ってください。
(1) 田植機を平たんな広い場所に置く。
(2) エンジンを停止する。
(3) 駐車ブレーキをかけ、主クラッチレバーを「エンジン始動位置」にする。
(4) 植付部を下ろすか、植付部フックレバーで固定する。
(5) エンジンなどの過熱部分を充分冷やす。
(6) くわえタバコなど火気厳禁。
(7) ヘルメット・安全靴・手袋等適正な防護具を着用する。
以上の安全を確認して行なってください。
安全を確認せずに点検整備すると傷害事故を引き起こすことがあります。

■点検整備一覧表

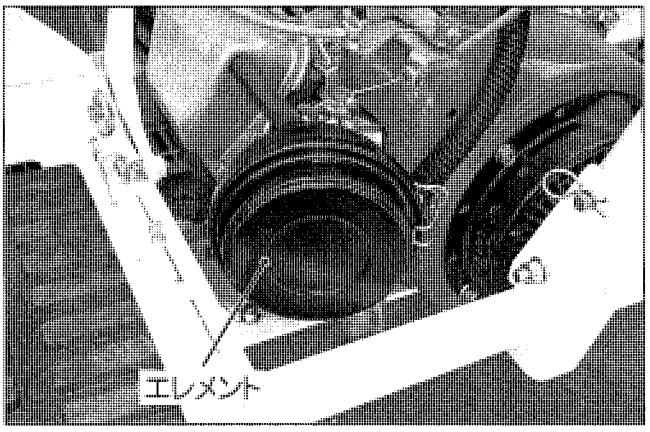
○:点検・給油　△:清掃　×:交換

点検・給油項目		点検時期					備考	参照ページ
		毎日	50時間毎	1シーズン毎	2シーズン毎	不調・分解時		
エンジン部	エンジンオイル	○	×				●初回は10時間で交換 ●SE、SF級SAE30または10W-30	24
	エアークリーナーの清掃		△					51
	燃料カップの清掃		△					51
	燃料ホース		○		×			51
	排出ノブ			○				54
	点火プラグの清掃					△		52
走行部・植付部	指定注油箇所	○		○				25
	トランスミッションオイル（油圧オイル兼用）			×			ギヤーオイル#90 3.5ℓ	53
	植付ミッションオイル			×			ギヤーオイル#90 各1.4ℓ	52
	主クラッチレバーブレーキ	○						26
	主クラッチレバー・主クラッチペダル	○						26
	サイドクラッチペダル	○						26

オイルの交換などで出た廃油を投棄・焼却するなどみだりに処分しますと、水質汚濁・土壌汚染・大気汚染につながりますので販売店またはお近くのガソリンスタンドにご相談ください。

■エアークリーナーの清掃

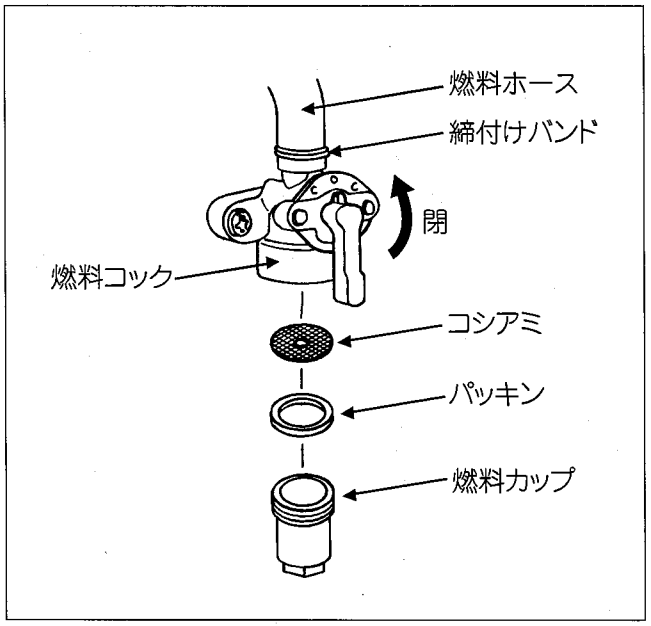
(1) エアークリーナーエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの運転に不調をきたすばかりでなくエンジンの寿命を極端に短くします。
(2) エンジンカバーを取り外します。
(24ページ参照)
(3) エレメントは石けん液で洗浄した後、水洗いし、よく乾燥させエンジンオイルに浸して固く絞ってから取り付けてください。



⚠注 意
エアクリーナーの清掃を行なう時は、必ずエンジンを停止して行なってください。

■燃料カップの清掃

(1) 燃料コックのレバーを「閉」にします。
(2) 燃料カップ、コシアミを取り外してガソリンできれいに洗浄し、元通り組み付けます。



⚠危 険
(1) 清掃時は、エンジンを停止して行なってください。
(2) 清掃後、燃料もれのないよう燃料カップを取り付け、確実に締め付けてください。
(3) 作業中は火気厳禁。

■燃料ホースの点検・交換

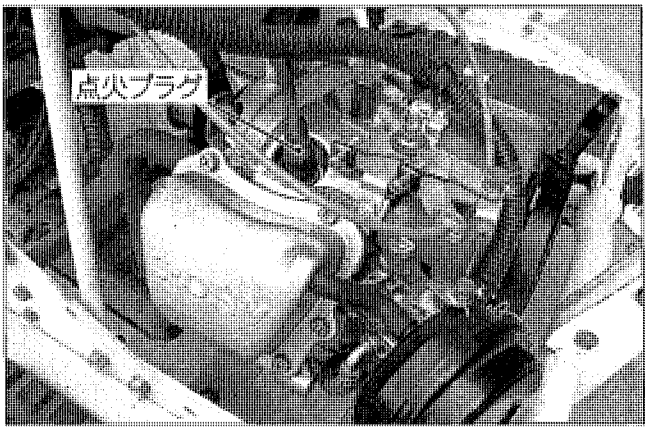
燃料ホースなどのゴム製品は、使わなくても老化する消耗部品です。締付けバンドとともに2年毎または傷んだ時に交換してください。ホース類や締付けバンドがゆるんだり傷んでいないか、常に注意してください。

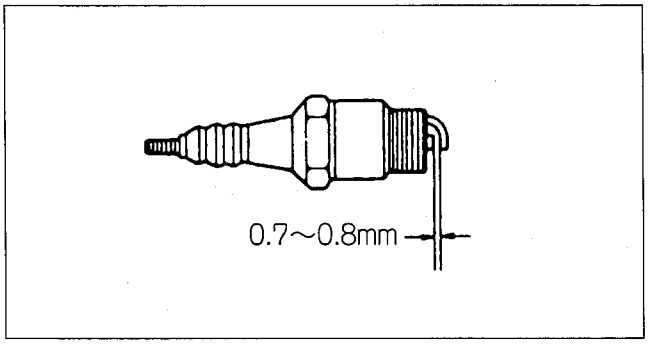
⚠警 告
燃料ホースが破損していると燃料もれを起こしますので、必ず点検してください。

■点火プラグの清掃

エンジンの調子が悪い場合、点火プラグを点検してください。点火プラグはカーボンなどで汚れやすいので時々は清掃してください。

(1) エンジンカバーを取り外します。
(24ページ参照)
(2) 付属のプラグボックスで点火プラグを取り外します。
(3) 点火プラグに付着しているカーボンを取り除きます。
(4) 電極間は0.7～0.8mmが標準です。
(5) 清掃後はエンジンカバーを元通りに組み付けて下さい。





重要

● 使用点火プラグ……BPR6HS (NGK)

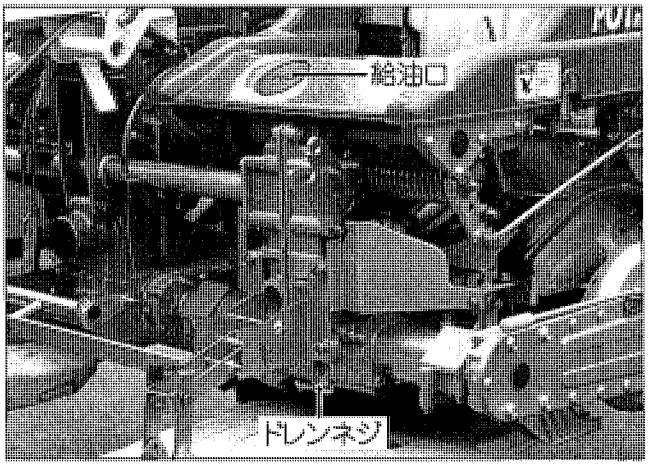
⚠注 意

点火プラグの清掃を行なう時は、必ずエンジンを停止しエンジンが冷えてから行なってください。

■植付ミッションオイルの給油

(1) ドレンネジを外してオイルを抜いてください。
(2) ドレンネジを締め付け後、給油口から給油してください。

ギヤーオイル#90	各1.4 ℓ



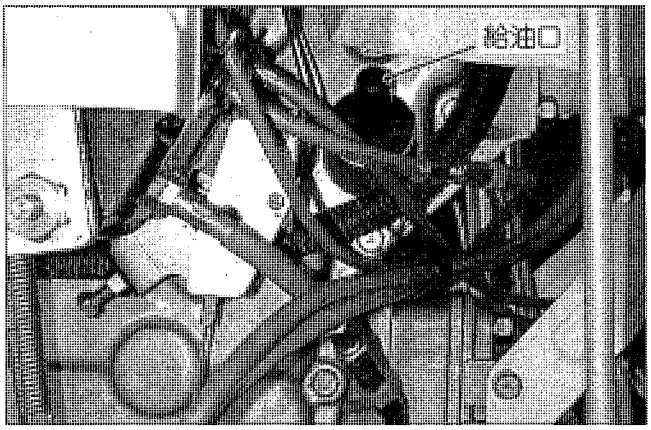
⚠注 意

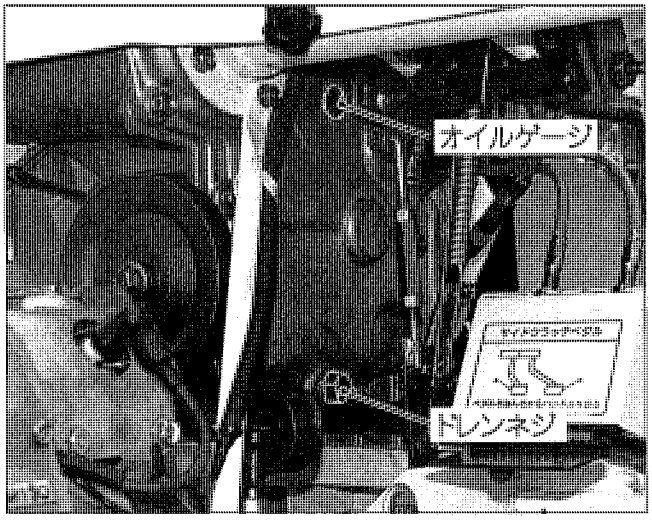
(1) オイル交換時はエンジンを停止して行なってください。
(2) 作業中は火気厳禁。

■トランスミッションオイルの給油

(1) ドレンネジを外してオイルを抜いてください。
(2) ドレンネジを締め付け後、給油口から適量給油してください。
(3) オイルゲージの上半分の範囲に油量があるか点検してください。

ギヤーオイル#90	約3.5ℓ





重要

- ギヤーオイル＃90以外のオイルを使用しますと植付部の上昇不良になります。
- ギヤーオイルは油圧用としても使用しますので1シーズン毎に交換してください。

注 意

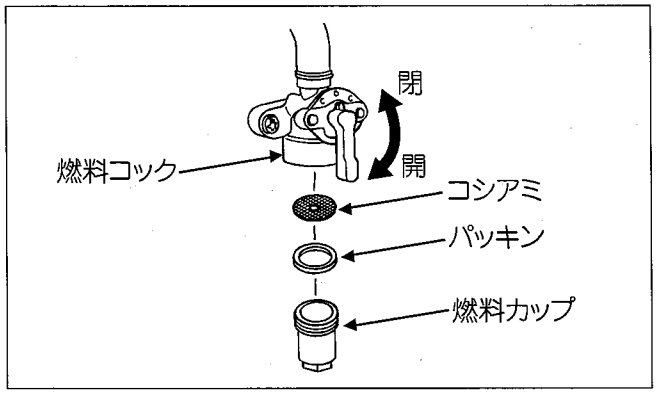
(1) オイル交換時はエンジンを停止して行なってください。
(2) 作業中は火気厳禁。

長期格納時の手入れ

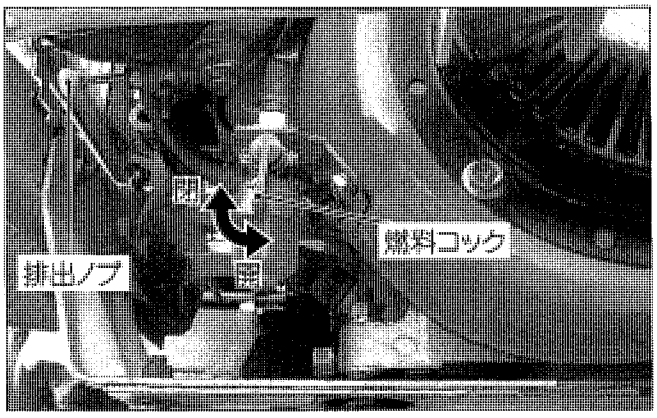
危 険

(1) 長期格納時の手入れを行なう時は、必ずエンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。
(2) 燃料抜き取り時は火気厳禁。
(3) 燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
火災の原因になり大変危険です。

(1) 田植機各部の泥・汚れをていねいに水洗いし、乾燥させてください。
(2) 注油箇所に油・グリスを塗ってさびないようにします。
(3) 植付部を上昇させフックをかけておきます。
(4) 燃料は必ず抜き取ってください。
①燃料コックのカップを外して、タンクの燃料を完全に抜いておいてください。
抜き取り後は元通り組み付けてください。



②気化器内の燃料は排出ノブを引いて完全に抜き取ってください。



危 険

田植機に燃料が残っていると燃料が変質するばかりでなく、引火など火災の原因となる恐れがあり、大変危険です。

■格納のしかた

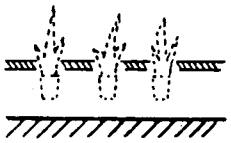
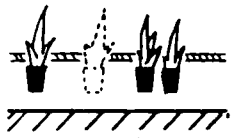
(1) 格納場所は、直射日光の当たらない風通しのよい場所を選び、肥料などと一緒に置かないでシートをかけるようにしましょう。
(2) Vベルトの変形防止のため、主クラッチレバーは「エンジン始動位置」にしておきます。

警 告

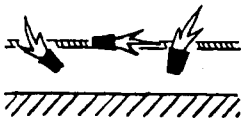
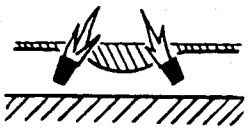
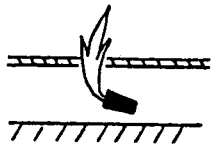
作業が終了して、シートカバー等を田植機にかける時は、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。
熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

不調時の処置

●田植作業は、田植機・苗・ほ場の三拍子そろって初めて良い植え付けと高能率が得られます。田植機の点検、苗・ほ場の良い条件作りに心がけてください。
●下記の原因以外については部品の消耗等がありますので、販売店または農協（JA）にご相談ください。

不調内容		原因	処置
 連続欠株ができる。	苗	○根張りが悪い。(ポットがくずれる)	○濡らしかたに注意。 ○植付速度を遅くする。
		○根が張りすぎている。 （硬くて抜けない）	○充分濡らす。 ○太苗用の苗受に交換する。 （注文部品）
		○苗箱の表や裏に土が多く付いている。 ○重粘土の箱土を使用。 ○砂質土・火山灰土の箱土を使用。	○苗箱を洗う。 ○充分濡らす。 ○濡らしかたに注意。 ○植付速度を遅くする。
	田植機	○縦送り爪（下）の油切れ。	○毎日注油。 (P25参照)
		○押出し棒の元に根がたまっている。	○根を取り除く。 (P48参照)
		○苗受に土や小石がつまっている。	○苗受をよく洗う。 (P48参照)
		○苗箱のセット不良。	○ベルが鳴ってから確実に補給。 (P45参照)
		○苗箱が破損している。	○破損している苗箱は使用しない。
		○ガイド板に小石がつまって安全クラッチがはたらいている。 （ミッションからカチカチと音がする）	○ガイド板につまった小石を取り除く。 (P49参照) (エンジンを停止して行なってください。)
		○押出し棒の摩耗または調整不良。	○交換または調整。
		○縦送り爪の摩耗または調整不良。	○交換または調整。
 欠株ができる。 （二株植えになる）	苗	○根張りが悪い。(ポットがくずれる)	○濡らしかたに注意。 ○植付速度を遅くする。
		○根渡りしている。	○根を切断する。
	田植機	○苗支持板の変形。	○苗支持板の修正･交換。 (P40参照)
		○コンベアーベルトの上に土がたまっている。	○コンベアーベルトをよく洗う。 (P48参照)
		○コンベアーベルトのタイミング不良。	○調整。
		○植付爪のタイミング不良。	○調整。

不調時の処置

不調内容	原因		処置
 植付姿勢が悪い。 (浮き苗・ころび苗)	苗	○根張りが悪い。(ポットがくずれる)	○濡らしかたに注意。 ○植付速度を遅くする。
		○徒長苗。	○葉先を切断する。 ○植付速度を遅くする。
	ほ場	○ほ場が軟らかすぎる。	○ほ場を硬くする。 ○植付速度を遅くする。 ○植付深さをやや深くする。 ○油圧感度の調節を行なう。(P43参照)
		○ほ場が硬すぎる。	○植付速度を遅くする。 ○油圧感度の調節を行なう。(P43参照)
		○ほ場に水が多すぎる。	○水を少なくする。 ○植付速度を遅くする。
		○ほ場が粘土質である。	○ほ場に水を入れる。
	田植機	○苗支持板の変形。	○苗支持板の修正・交換。(P40参照)
		○苗受に土や小石がつまっている。	○苗受をよく洗う。
		○ガイド板に泥がつまっている。	○ガイド板をよく洗う。
		○ガイド板の変形。	○修正または交換。
		○フロート後部が浮いている。	○フロート姿勢の調節。(P43参照)
 フロート通過後に植え付けた苗が倒れる。	ほ場	○ほ場が極端に軟らかすぎる。 (表土がトロトロで足跡もつかない状態)	○ほ場を硬くする。 ○植付速度を遅くする。 ○油圧感度の調節を行なう。(P43参照)
	田植機	○フロート後部が沈んでいる。	○フロート姿勢の調節。(P43参照)
 植え傷み苗ができる。	苗	○根張りが悪い。 ○貧弱苗。	○植付速度を遅くする。
	田植機	○ガイド板に泥・異物がつまってガイド板幅が開いている。	○泥・異物を取り除く。
		○ガイド板の変形。	○ガイド板の修正・交換。
		○苗支持板の変形・欠落。	○苗支持板の修正・交換。(P40参照)

不調内容	原因	処置
植付部が下降し、フロートが表土に接地しても、植付クラッチが自動で入らない。また、筋付マーカーが下がらない。	○植付深さ「極浅」での植え付け。	○手動で「入」にする。
	○フロート姿勢調節のピン穴が「下」での植え付け。	○手動で「入」にする。(P42参照)
	○油圧感度調節レバーが「硬い」での植え付け。	○手動で「入」にする。
	○機体が後ろ下がりでの植え付け。	○手動で「入」にする。
	○ほ場が軟らかすぎる。	○手動で「入」にする。
フロートで泥を押す。	○油圧感度調節が適正でない。	○調節確認。(P43参照)
	○ほ場が軟らかすぎる。	○フロート姿勢の調節。(P43参照)
前進できるが植付部が動かない。	○株間切替ピンの切り替え不良。	○ピンを確実に切り替える。(P39参照)

農作業を安全に行なうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用する時の注意事項が「農作業安全基準」として定められています。
取扱説明書の内容とあわせて熟読の上、事故のない楽しい農作業のためお役立てください。

第1　一般共通事項

1．適用範囲

一般共通事項は、農業機械を使用して行なう作業に従事する者が農作業の安全を確保するため注意すべき事項を示すものである。

2．就業条件

(1)安全作業の心得

農業機械を使用して行なう作業（以下「機械作業」という。）に従事する者は、機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図るとともに、補助作業者及び他人に危害を及ぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

(2)就業者の条件

ア．次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。

（ア）精神病者

（イ）酒気をおびた者

（ウ）若年者

（エ）未熟練者

（オ）過労・病気・薬物の影響その他の理由により、正常な運転操作ができない者

イ．はげしい作業が続く場合には特に健康に留意し、適当な休けいと睡眠をとること。また妊娠中の者は振動を伴う機械作業に従事しないこと。

(3)特殊温湿度環境下の安全

暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間及び方法等を充分検討すること。

3．子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には、子供を近寄らせないよう注意すること。

4．安全のための機械管理

(1)日常の点検整備

農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行ない、常に機械を安全な状態に保つこと。

(2)防護装置の点検

ア．機械作業に従事する時は、機械の操縦装置、制動装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。

イ．機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

(3)上げ装置の落下防止

作業機を上げた位置で点検調整等を行なう場合には、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の措置を講じること。

(4)整備工具の管理

点検整備に必要な工具を適正に管理し、正しく利用すること。

5．火災・爆発の防止

(1)引火・爆発物の取り扱い

引火または爆発のおそれのある物質の貯蔵、補給等にあたっては、その取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

(2)火災予防の措置

火災のおそれのある作業場所には、消化器を備え、喫煙場所を決める等、火災防止の措置を講じること。

6．服装及び保護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装及び保護具を用い、危険のないように作業に従事すること。

(1)頭の傷害防止の措置

機械からの墜落及び落下物のおそれの大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

(注)田植機に乗ったままで道路を走行する事はできません。

(2)巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機若しくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髪、手拭等が巻き込まれないように適正な帽子及び作業衣等を使用すること。

(3)足の傷害及びスリップ防止の措置

機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等のおそれのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

(4)粉じん及び有害ガスに対する措置

多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあたっては、粉じん及び有害ガスによる危険防止のための適正な保護具を使用すること。

(5)農薬に対する措置

防除作業においては、呼吸器、眼、皮膚等からの農薬による傷害防止のために適正な保護具（保護衣を含む。）を使用すること。

(6)はげしい騒音に対する措置

はげしい騒音の伴う作業にあたっては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

(7)保護具の取り扱い

安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

第2　移動機械共通事項

1．適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業する機械を使用して行なう作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

2．作業前の注意事項

(1)機械の点検整備

ア．機械の点検整備を充分に行ない、その使用にあたっては、常に安全を確認すること。

イ．機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく、平担である等、安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行なうこと。

特に、屋内で内燃機関を運転しながら点検整備等を行なう場合は、換気に注意すること。

(2)防護装置の保全

ア．機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。

イ．機械の点検整備等のために防護装置を取り外した場合は、必ず復元し、その機能を充分に発揮できるようにしておくこと。

(3)悪条件下における作業

土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実地の判断、作業方法及び装備の選択等に注

意すること。

3．作業中の注意事項

(1)乗車等の禁止

ア．機械作業に際して機械には、指定の箇所以外に他人を乗せないこと。また、指定箇所においても定員以上に乗車させないこと。

イ．非常の場合を除いて、運行または作業中の機械に飛び乗り、またはこれから飛び降りないこと。

ウ．機械作業中は作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

(2)前方及び後方の安全確認

運行中または作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

(3)転倒落下の防止

ア．傾斜地における機械作業においては機械の転倒を防ぐために速度、旋回、作業方法等に注意して運転操作を行なうこと。

イ．ほ場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過等に際しては、機械の転倒を防ぐために、特に注意すること。

ウ．機械の積み・降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、充分注意して行なうこと。

(4)傷害の防止

ア．動力伝導装置、回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。

イ．刃または鋭利な突起を有する機械で作業を行なう場合は、傷害防止のために特に注意すること。

ウ．作業中に土塊・石等が飛散する作業においては、飛散物によって傷害が起こらないように注意すること。

(5)夜間における安全

夜間作業においては、特に安全に注意し、適確な照明を行なうこと。

夜間給油を行なう場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

(6)作業中の点検調整等における安全措置

機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行なうこと。

休けい等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下ろし、かつ安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、更に車止めを施して、自然発車等の危険が生じないよう注意すること。

4．終業後の注意事項

(1)終業後の点検整備

作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行なうこと。

(2)作業機の取り外し

作業機の取り外しは、平担な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行なうこと。

特に夜間の作業機の取り外しは、安全で適切な照明を用い、安全に留意して行なうこと。

(3)機械の安全管理

作業終了後は、作業機は外し、または下ろし、機械を安定した場所に置き、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。

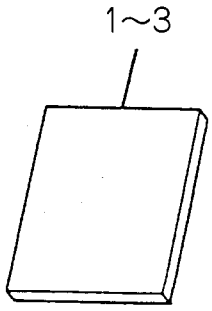
また、危険と思われる機械は、格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な状態に置くこと。

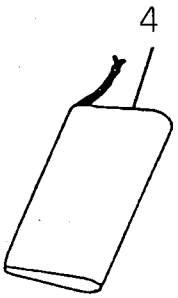
■主要諸元

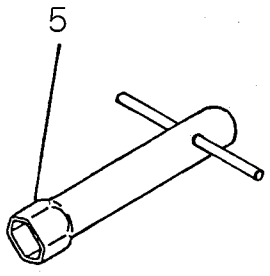
	型式名		みのるRS-4
	区分		共立RS-41
	駆動方式		3輪駆動
機体寸法	全長 (mm)		2090 (作業時の寸法 2270)
	全幅 (mm)		1340 (作業時の寸法 1705)
	全高 (mm)		1330 (作業時の寸法 1415)
	最低地上高 (mm)		315 (植付クラッチ伝動ケース下部)
	機体質量(重量) (kg)		254
エンジン	型式名		GR130
	種類		空冷4サイクルガソリンエンジン
	総排気量 (cc{ℓ})		125 {0.125}
	出力／回転速度 (PS{kW}/rpm)		2.9 {2.1} / 3600 (最大4.3 {3.2} / 4000)
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量 (ℓ)		5.0 (ゲージ付)
	始動方式		リコイルスターター式
走行部	かじ取り方式		1輪式
	車輪	前輪 (mm)	クッション (550)
		後輪 (mm)	ゴムラグ (750)
	輪距 (mm)		後輪 1190
	変速段数 (段)		前進4 (植付け2)、後進2
植付部	植付方式		回転式強制植付け
	植付条数 (条)		4
	植付条間 (cm)		33
	植付株間 (cm)		14、16、18、20、22、24 (スリップ率8%)
	植付株数 (株/3.3m²)		72、63、56、50、45、41 (スリップ率8%)
	植付深さ (cm)		1～4 (4段)
	1株本数調節量		播種量の調節による
条苗件の	苗の種類		ポット苗
	葉令・草丈		4～5.5葉、8～25cm
	苗とう載数 (箱)		10
	作業速度 (m/s)		0.26～0.45、0.43～0.75 (スリップ率8%)
	作業能率 (分/10a)		27～40
	型式検査合格番号		―――
	安全鑑定番号		24154

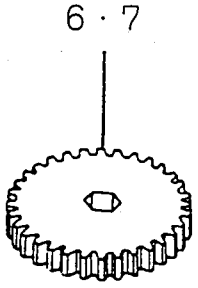
■標準付属品

No.	部　品　名	個数
1	取扱説明書	1
2	保証書	1
3	安全運転説明確認票	1
4	工具袋	1
5	プラグボックス	1
6	替ギヤー5	1
7	替ギヤー6	1

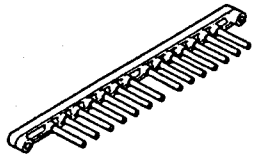
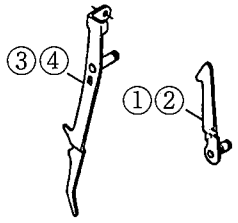
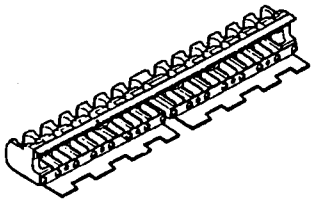
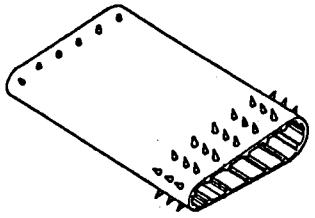
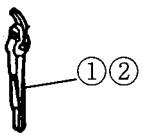
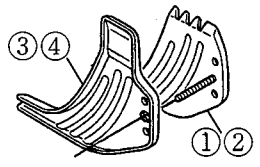


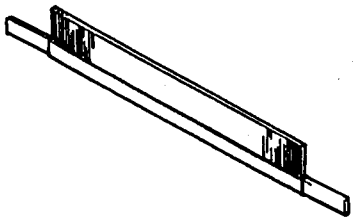
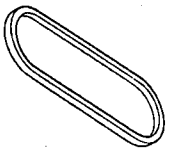
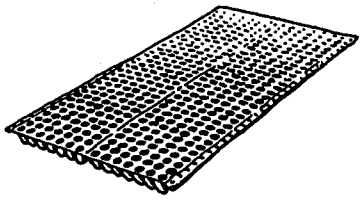
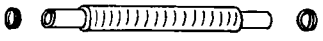






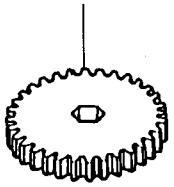
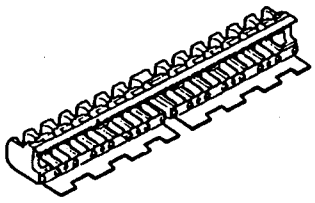
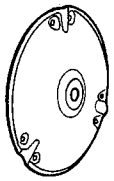
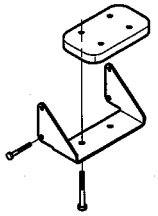
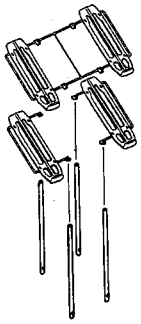
■主な消耗部品一覧表

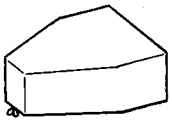
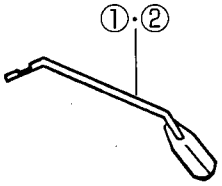
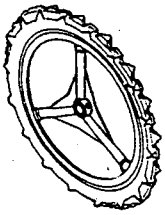
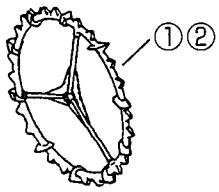
形　状	品　名	部品番号	備　考
	押出し棒座CP	X4－3118	破損、または摩耗した場合交換
	①縦送り爪下(左)CP ②縦送り爪下(右)CP ③縦送り爪上(左)CP ④縦送り爪上(右)CP	X4－3206(1)L X4－3206(1)R X4－3209(1)L X4－3209(1)R	破損、変形、摩耗した場合交換
	苗受CP	LPRH6－23401(1)	破損、変形、摩耗した場合交換
	タイミングベルト	LTP－3506(2)	破損、または伸びた場合交換
	苗支持板	LTP－3513(1)	欠落、または変形した場合交換
	①植付爪(左)AY ②植付爪(右)AY	LPRH6－24213(1)LAY LPRH6－24213(1)RAY	変形、または摩耗した場合交換
	①ガイド板内(左)CP ②ガイド板内(右)CP ③ガイド板外(左) ④ガイド板外(右)	X4－4302(1)L X4－4302(1)R X4－4301(3)L X4－4301(3)R	変形、または摩耗した場合交換

形　　状	品　　名	部 品 番 号	備　　考
	土落しブラシCP	MRX8－22608(1)	変形、または摩耗した場合交換
	電球	12V18W T15	ランプ切れ時交換
	スパークプラグ	BPR6HS(NGK)	
	Vベルト(AG6A)	VLB28－AG6A	亀裂時または摩耗時交換
	各ワイヤー	――――	作動が重くなった場合交換
	苗箱		角穴が破損した場合交換
	燃料パイプAY	RS4－71023(1)AY	破損時または2年ごとに交換

■注文部品の紹介

オプションとして下記のものを準備してありますので、用途に応じてご購入の上ご利用ください。ご購入に当たっては販売店にご相談の上、ご使用ください。なお、取り付けは必ず販売店・農協（JA）で行なってください。

形　　状	品　　名	部 品 番 号	備　　考
①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨ 	①替ギヤー2 ②替ギヤー3 ③替ギヤー4 ④替ギヤー5 ⑤替ギヤー6 ⑥替ギヤー8 ⑦替ギヤー10 ⑧替ギヤー11 ⑨替ギヤー12	LT6－1412（1） LT6－1415（1） LT6－9301 LT6－9303 LT6－9305 LT6－9307 LTD3－8201 LTD3－9101 LTD3－9102	特殊株間用 （38ページ参照）
	苗受CP	LTP－9403	太苗用（突起なし）
	前輪ホイルキャップ 390AY	RS4－94011AY	
	①前輪補助ウエート10AY ②前輪補助ウエート20AY	RM41－98010AY RM41－98000AY	10kg 20kg
	予備苗台AY	RS4－92010AY	追加2段分

形　　状	品　　名	部 品 番 号	備　　考
	機体カバー	X4－8209	
	①線引きマーカー(左)CP ②線引きマーカー(右)CP	RM41－99011L RM41－99011R	
	前輪550×60CP	RS4－91011	外径φ550 ラグ幅60
	①後輪750×55(左)CP ②後輪750×55(右)CP	RS4－91021L RS4－91021R	外径φ750 ラグ幅55

●注文部品使用上の注意点

(1)各種車輪

重要

- 車輪の性能は、ほ場の土質・耕盤の状態により違いますので慎重に選択してください。
- 車輪を交換しますと、ほ場条件によってフロート姿勢の調節が必要となる場合があるので注意してください。(43ページ参照)

索　引

	項　　目	ページ
あ	アクセルレバー	16
	あぜぎわクラッチレバー	22
	アユミ板	4
	安全クラッチが作動したとき	49
	安全のポイント	1
	安全表示ラベル	7
い	移動のしかた	31
う	植えじまいのしかた	46
	植付株間の決めかた	38
	植付クラッチレバー	19
	植付作業の手順	41
	植付作業前の準備	38
	植付爪	14
	植付深さ調節レバー	21
	植付深さの調節のしかた	39
	植付部の水洗いのしかた	48
	植付部フックレバー	22
	植付ミッションオイルの給油	52
	運転のしかた	27
	運搬中の固定のしかた	33
え	エアークリーナーの清掃	51
	エンジンオイルの点検と補給	24
	エンジンスイッチ	16
	エンジンの始動	27
	エンジンの停止	28
	エンジン番号	13
お	押出し棒	47
か	ガイド板	11,14
	替ギヤーの交換・切替ピンの切り替えかた	39
	空箱入れの取り付け	40

	項　　目	ページ
き	給油・注油箇所の点検と補給	23
く		
け		
こ	コンベアーベルト	11,42
さ	サービス資料	60
	サイドクラッチペダル	20
	サイドクラッチペダルの点検	26
	サイドマーカー	14,41
	作業のしかた	35
	作業前点検	23
	座席の調節	22
し	湿田での脱出のしかた	49
	自動マーカー切替レバー	21
	主クラッチペダル（ブレーキ兼用）	20
	主クラッチレバー	18
	主クラッチレバー・主クラッチペダルの点検	26
	主クラッチレバーブレーキの点検	26
	主変速レバー	17
	主要諸元	60
	使用上のポイント	9
	消耗部品一覧表	62
す		
せ	製造番号	13
	セットレバー	22,47
	旋回のしかた	44
	センターマスコット	14

索　　引

	項　　目	ページ
そ		
た	縦送り爪下	10,25
ち	駐車のしかた	30
	駐車ブレーキレバー	21
	注文部品の紹介	64
	注油箇所	25
	長期格納時の手入れ	54
	チョークノブ	16
つ		
て	停止のしかた	29
	点火プラグの清掃	52
	点検整備	50
	点検整備一覧表	50
と	トラックへの積み･降ろし	32
	トランスミッションオイルの給油	53
な	苗受	11
	苗支持板の調節のしかた	40
	苗の準備	36
	苗のせ台	11,41
	苗の補給のしかた	45
	ならし運転について	28
に		
ぬ		

	項　　目	ページ
ね	燃料カップの清掃	51
	燃料コック	27
	燃料タンク	14,23
	燃料の給油	23
	燃料ホースの点検･交換	51
の	残り苗の取り出しかた	47
は	発進のしかた	29
ひ	標準付属品	61
ふ	副変速レバー	17
	不調時の処置	55
	フロート	14
	フロート姿勢の調節	43
へ	ペダル･レバーの点検	26
ほ	保証とサービスについて	13
	ほ場からの出かた	34
	ほ場での植えかた	44
	ほ場の準備	35
	ほ場への入りかた	34
ま		
み		
む	無代掻き田植えのできるほ場	35
め		

索　　引

	項　　目	ページ
ゆ	油圧感度調節のしかた	43
	油圧感度調節レバー	19
よ	予備苗台	14,41
ら	ライト	14
り	リコイルスターター	27

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、いちばんよくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-6181

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　Tel 092-573-5361（代）

やまびこレンテックス株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-6777（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

(C) 2009 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。

RSK41-81011(3)

0909